２０２３年３月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

３月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、前回の審議会での答申を受け「２０２３年度中国地方向け地域放送番組編集計画」を決定したこと、およびこれに基づいて策定した「２０２３年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について説明があった。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、４月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
委　　員	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	石橋千賀良	（七草農園　代表）
	岩崎　　誠	（中国新聞社　論説主幹）
	笠原　　浩	（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	まつもとゆきひろ	（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜「２０２３年度中国地方向け地域放送番組編成計画」について＞

○　広島局が取り組む平和や核兵器の問題については、ことし１１月に核兵器禁止条約の締約国会議があるので、そのテーマをぜひ取り上げてほしい。

○　松江局の資料に掲載されている「バーチャルスタジオ」は何が新しいのか。

（ＮＨＫ側）

本部制作の番組では一般化してきたが、地域放送局でフルバーチャルシステムを導入したのは松江が２局目だ。合成した映像が自然

に見え、さらに安定的に運用できるように事前の技術的な調整に労力をかけた。スタジオでの多彩な演出に挑戦していきたい。

（ＮＨＫ側）

スタジオの人物と別の映像を合成する「クロマキー」という技術は昔からあった。今回導入したバーチャルシステムは、より自然でリアルな映像を表現できるところが新しい。いろいろな演出に使える可能性があり、番組の質の向上につながると期待している。

＜放送番組一般について＞

○　２月１７日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「ファジアーノ岡山　Ｊ２開幕直前ＳＰ」（総合 後 7:30～8:42 岡山県域）をとても楽しく見た。隣の広島や兵庫に大きなスポーツチームがあって岡山県民の意識もそちらに向いていた時代に、県民が誇れるプロスポーツチームを作りたいとファジアーノの経営を引き受けた初代社長の話には本当にエネルギーを感じた。市民クラブのレベルから大きく成長し、県民意識も変化させたことに感心した。今回はチームの活動を追った番組だが、経営者の心境や葛藤に迫るドキュメンタリーも見たいと思った。試合の映像がところどころ、フィルターがかかったように見えて、過去の話なのか直近シーズンの話なのかわかりにくく気になった。地元の人気スポーツチームの裏側を長時間の特集番組として見られたのはよかった。

（ＮＨＫ側）

この番組は、Ｊリーグとファジアーノ岡山がＪ２の活動を広く知ってもらうためにインターネット向けに作った番組が元になっている。その番組を使用させてもらい、ＮＨＫが映像を編集、独自の取材を追加して@ｏｋａｙａｍａのスペシャル版とした。チーム草創期の苦労話から、岡山の経済界や県民の意識が変わるまでの様子をつぶさに描き、地域に寄り添った内容となり好評だった。２月２６日(日)には岡山県域でファジアーノ岡山のホーム開幕戦を中継した。これからも地域のスポーツチームを支えられるような放送をしていきたい。

○　２月１７日(金)のさんいんスペシャル「“白バラ”がピンチ！？鳥取牛乳クライシス」を見た。乳業メーカーと酪農家それぞれの現場の課題が丁寧に伝えられていた。鳥取県民に浸透している牛乳ブランドがテーマに取り上げられたことで、大変関心を持って視聴した。番組冒頭で現在の経営環境では半数以上の酪農家が経営を続けられない

とする衝撃的なアンケートが示され、まさに「クライシス」といえる深刻な状況が伝わった。取材した酪農家が経営を工夫しても乳価が上がらない現状に「努力が否定されている」と捨てばちなことばを放った場面には、一社会人として心に響いた。独特な乳価決定の仕組みを、キャスターのフリーアナウンサー・三宅民夫さんがイラストを用いたり視聴者の疑問を代弁するように専門家に質問するなどしてわかりやすく進行していた。番組で取り上げた牛乳ブランドは高品質な牛乳と見なされ、学校給食でも広く提供されている鳥取県の宝といえる存在であることを明確に紹介すれば、危機の大きさがより提起できたと思う。番組のまとめで酪農家生き残りのための有効な方策が示されず、消費者の行動にボールが投げられて終わった感がある。もう少し多くの専門家や所管する行政の考えも聞きたかった。生き残りの取り組みの成否などにも興味が湧いた。第２弾を期待する。

（ＮＨＫ側）

鳥取県で牛乳といえば「白バラ」というくらい浸透している状況を番組の出発点として描けば、問題の深刻さがより伝わったのではないかという指摘はもっともだと思う。また、鳥取の酪農の生き残り策について提言が乏しかったという感想については、制作担当者も牛乳業界全般の課題と提言に普遍化できるテーマだと考えていて、より取材を深めて全国放送に展開することを提案している。委員の指摘を制作現場と共有して、さらに厚みを増した形で届けたい。

○　さんいんスペシャル「“白バラ”がピンチ！？鳥取牛乳クライシス」を見た。三宅民夫アナウンサーが出演したのには驚いたが、キャスターとして適任だと思った。鳥取県内の酪農家の経営状況悪化の主な原因がアメリカから輸入している飼料の高騰にあり、その原因がロシアによるウクライナ侵攻や円安にあると説明された。ただ、アメリカ産の飼料が円安とはいえ２倍に高騰したことがロシアによる軍事侵攻とどう結びつくのか疑問に思った。私たちは今、ロシアによる軍事侵攻が原因とされれば簡単に納得することに慣れすぎているのではないか。番組ゲストの大学教授は国産牛乳が飲めなくなる可能性に警鐘を鳴らしていたが、戦争が長引くことで利益を得る者がいるのか、表からは見えづらい大きな思惑の流れなどをＮＨＫは取材して伝えてほしい。飼料を輸入に頼る畜産業のあり方には課題があり、農業政策を根本的に見直さなくてはならないと思う。４月から始まるという乳価改定の動きや政府の政策など、この問題をしっかりとフォローして伝えていただきたい。

（ＮＨＫ側）

食料品価格の高騰の要因がロシアによるウクライナ侵攻に結びつけられやすいという指摘はもっともだ。輸入飼料高騰の一因としては間違いないが、ほかにもいろいろな要因が複合的に重なっている。複雑な状況を三宅民夫さんが的確にわかりやすく伝えていた。今後追加取材する際には大きな枠組みを捉えながら、個別の要因の分析も精緻に深めたい。

○　２月１７日(金)のＹスペ！「響き続ける詩　～金子みすゞ　生誕１２０年～」は、さまざまな角度からみすゞの詩の魅力を伝えていた。出演した講談師の神田京子さんは山口県の民放の番組に出演して知名度のある方だが、金子みすゞの詩がきっかけで山口に移住したとは初めて知った。みすゞが生まれ育った長門市仙崎を高台からふかんした映像では、この小さな漁師町が金子みすゞを生んだことは地元の誇りだと改めて感じた。かつて鯨漁で栄えた地元に建てられた「鯨墓」の逸話が、みすゞの詩の根底にある感覚とつながっていると語った神田さんのことばが感慨深かった。日本に留学経験のあるシリア人へのインタビューでは、外国人の心にもみすゞの詩が響くことがわかって感動した。そして東日本大震災後に何度も流れた公共広告で読まれた「こだま」も紹介され、みすゞの詩に多くの人が励まされてきたことを描いたよい番組だった。地元の仙崎や長門の人がみすゞのことをどう思っているのかを掘り下げても面白いと思った。

（ＮＨＫ側）

今回のＹスペ！は山口局と連携しながら広島局が制作した。制作にあたっては単に生誕 120 年を振り返るのではなく、戦争が世界各地で起き、日本でも東日本大震災を始め災害が相次いでいる今の世に金子みすゞの詩はどのように響いているのかを主題とした。視聴者である山口県民の視点から離れないことを意識したが、番組の中でみすゞの出身地の人たちの思いに触れられていなかったという指摘は制作現場と共有する。

（ＮＨＫ側）

金子みすゞの詩は、平成８年度から小学校の教科書に載り、３０代前半以下の世代はよく知っているという。そうした背景も番組作りに反映した。「Ｙスペ！」の中で神田京子さんが演じていた金子みすゞにまつわる講談は３月３０日(木)にＦＭで山口県域向けに放送する予定だ。

○　Ｙスペ！「響き続ける詩　～金子みすゞ生誕１２０年～」を見た。金子みすゞの作品が現代の読者にどのように響いているか、丁寧な取材で描いていた。ただ、やはり生誕 120 年の節目に放送する番組として、みすゞの生涯にも触れてほしかった。その不幸な生涯の中から一連の詩が生まれたことを紹介すれば、作品世界への理解がより深まったと思う。ことし中に機会があれば、金子みすゞの生涯や背景にある風土を掘り下げる番組の制作を期待する。

（ＮＨＫ側）

金子みすゞ生誕 120 年の節目で「Ｙスペ！」を企画するにあたり、みすゞの生涯を振り返ること、今という切り口で描くこと、その片方か両方とも取り入れるかを議論した。金子みすゞの生涯を紹介する番組はこれまで繰り返し放送してきたことから、２５分間の山口県向けの番組では“今”という視点に絞って制作した。みすゞの詩が生まれた背景をより理解できるような番組構成のバランスは、今後の課題としたい。

○　３月３日(金)のコネクト「＃みらいコネクト　高校生が感じる校則のギモン」を見た。高校生がキャスターでいつものキャスターである小野文惠アナウンサーなど大人がゲスト。高校生が取材し、自分たちで考えて意見を述べるという企画がよかった。校則には若者をがんじがらめに縛るものというイメージがあり、昔からあまり変わっていないと思うが、３月１６日(木)の「おはようひろしま」で広島県教育委員会が公立学校における校則見直しの状況を調査するというニュースが放送されたことからも、多様性や個人の自由が重視される時代に、いろいろな意見を取り入れながら校則を変えようとしている動きがこの番組から感じられた。高校生が自身の体験から発した意見と、生徒を守りたい校長の意見の双方を取り上げたことはよかった。番組の最後に女子生徒が語った、取材を通して校則が社会とつながっていることを実感したのでみんなに知ってもらい一緒に考えたいという意見も好ましかった。今後の“みらいジャーナリスト”シリーズを楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

「＃みらいコネクト」は、正解がないかもしれないが若者が問いたい、主張したいことを取り上げようと入局１年目の女性ディレクターが企画した。委員の意見から制作者のねらいが伝わったと思えてありがたい。高校生が校長の意見を聞きに行った場面では、生徒たちが校長の答えに意外なほど納得した様子を見せて、今どきの若

者のリアルな姿なのかと思った。大人が真摯（しんし）に答えれば意外とわかり合えることを発見した取材だった。

○　コネクト「＃みらいコネクト 高校生が感じる校則のギモン」を見た。２月３日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「みんなの校則」がとてもよかったので期待したが、冒頭からラップのシーンで見ていて少し気恥ずかしかった。高校生が取材して進行するコンセプトは新鮮だった反面、掘り下げの浅い部分があって気になった。生徒が校長を取材した場面では､校則を守らせたい側の校長から本質的な答えが返るとは最初から思えず、下から上を仰ぎ見る視点から抜け出せなかったのが残念だった。結局、身なりを定めた校則は就職面接のためという前提を疑う視点がなく、高校生が取材した企業で工場勤務の社員が「同じ制服だから同じ仲間」だと言ったこと、高校生もそれを受け入れていたことに違和感を覚えた。こうした校則が生まれた原点まで掘り下げる取材を促すなど、番組のディレクターが高校生に考えるヒントを提供すれば、よりバランスが取れたのではないかと思った。番組の最後に男子生徒が、校則を変えるために自分たちが何を大事にしたいか議論して真剣に考えることは学校を出たあとにも大切なことだ、と語ったことばはよかった。大切にすべきなのは人権意識であるという視点が番組の基本にあればなおよかった。

（ＮＨＫ側）

「＃みらいコネクト」の制作にあたり年長者はあまり口を出さず、高校生の自主性を生かすことを方針とした。番組冒頭のラップ音楽を生徒たちはみずから進んで演じたと聞いている。ディレクターには校則に対する見方が一つの視点に偏らないよう、いろいろな所を取材するようにアドバイスし、生徒たちも取材経験から得たものを番組で発信した。結果的にテーマを掘り下げるまでに至らなかった点もあるかもしれないが、課題を整理して「＃みらいコネクト」、校則の取材、それぞれ続けていきたい。

○　３月３日(金)のさんいんスペシャル　釣りびと万歳「渓流の女王　春のヤマメを狙え～濱田岳　島根・高津川水系～」を見た。昨年６月にＢＳプレミアムで放送した番組を再構成したものだが、渓流釣りが始まる３月に放送したのはよいタイミングだった。高津川は日本で唯一、ダムがない一級河川だと初めて知った。俳優の濱田岳さんが高津川水系のすばらしい自然の中で釣りをして、その難しさや楽しさ、ヤマメのおいしさをとてもすてきに表現していた。番組の舞台となった益田市匹見町は自然が豊かで、紹介されていてうれしく思った。釣りに行きたいと思う人たちのために交通手

段や、遊漁券の購入が必要なこと、また、クマが出ることや必要な装備など安全面に配慮する情報が伝えられたらなおよかった。

（ＮＨＫ側）

委員の意見から、渓流釣りが解禁される時期にこの番組を放送したいと考えた編成担当者のねらいが伝わったと思えてありがたい。また、行き方や危険防止に関する情報は、もとの全国番組にとっても大事だと思うので制作担当に伝えたい。

○　３月３日(金)の情報維新！やまぐちは「どっぷり長門ＷＥＥＫ」の最終日だった。「フォーカス」のコーナーでは大手ＩＴ企業が長門市と協定を結び、新たな農業ビジネスを始めたというリポートを伝え、市内の水産加工会社と連携して海外の市場も視野に入れているということで、地元への利益還元や雇用に期待が持てた。この日は長門市の文化に注目して、冒頭は市内の香月泰男美術館からの中継だった。その後はニュースと中継が交互に進む構成でまさに「どっぷり」香月作品の魅力を伝え、終わる頃には香月が「私の地球」と呼んだふるさとへの思いを感じ取れた。

（ＮＨＫ側）

２月２７日(月)から１週間、「情報維新！やまぐち」は「どっぷり長門ＷＥＥＫ」と題して長門市内各地からの中継を中心として放送した。３月３日(金)の放送では、長門市は文化を語れる題材が多いため、一度にいろいろ取り上げると散漫になると考えて香月泰男に絞った。

○　情報維新！やまぐち「どっぷり長門ＷＥＥＫ」の放送期間は県内でも長門が注目され、仙崎地区の施設がにぎわったと聞いた。長門市は観光資源が豊富で、地域も活性化に向けて頑張っている。放送が地域の支援になればありがたい。

○　３月３日(金)のＹスペ！「いいいじゅー！！　山口・長門市」を見た。農業が盛んで移住支援にも力を入れている長門市の最近の事情が紹介されていてよかった。

○　３月４日(土)の午前中は４時間近くにわたり、長門市にまつわる番組が連続して放送された。Ｙスペ！「潮風と浪漫あふれる旅へ　門司港～萩」（総合 前 8:15～9:05 山口県域）は映像がとてもきれいで、外国人が旅の案内をする設定が新鮮だった。本当にこの１週間は長門市が時間的にも内容的にも幅広く取り上げられ、とても興味を持って見た。

（ＮＨＫ側）

３月４日(土)の「イッキ見！」集中編成の中で金子みすゞをテーマとした番組も放送し、１週間で長門市の魅力はほとんど全部伝えられたと思う。今後も「情報維新！やまぐち」で県内各地を回る“キャラバン”や関連番組を集中編成する“イッキ見”の企画を続けたいと考えている。

○　「考える岡山　完全版一挙放送」（総合　3 月 7 日(火)前 0:45～1:58、8 日(水)前 0:45～1:09、9 日(木)前 0:45～1:59 岡山県域）を見た。本数をさらに増やし、教材として充実させていくことを望む。

（ＮＨＫ側）

「考える岡山」を３夜にわたり一挙放送した。深夜の放送だったが好評意見も寄せられ、新年度に子どもたちが見やすい時間帯にＥテレでまとめて放送することを検討している。

○　３月１０日(金)のコネクト「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」を見た。山陰側に住んでいるとどうしても危機意識が薄い実情があり、番組を見て自分ごととして捉えることが大事だとわかった。こうした番組を時々放送して警告するのは有効だと思う。地震や津波の映像を流す直前にテロップで予告して、ＰＴＳＤなどによりショックを受けられる方に対する細かな配慮がなされていたのはよかった。

（ＮＨＫ側）

３月１０日(金)の総合・午後７時３０分の地域放送番組枠では、全国で地震・防災関連の番組を放送することになり、中国地方に適した企画を検討した。人々の話を聞くと南海トラフ巨大地震への危機感が薄い一方、専門家を取材すると瀬戸内では地震の揺れも津波被害も大きくなること、山陰地方でも物流の停滞が大きな問題になることがわかり、伝えるべきテーマだと考えて番組を制作した。

○　コネクト「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」は、２月の番組審議会で説明された「中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」に即した、地域住民の防災意識を高める番組作りの一環だと思って見た。南海トラフ巨大地震が起きると瀬戸内海沿岸には５ｍもの津波が来るとのことだったが、３月５日(日)に見たＮＨＫスペシャル南海トラフ巨大地震「第２部　“最悪のシナリオ”にどう備えるか」（総合 後 9:00～

9:59）では高知県には最大２６ｍの津波が襲うと伝えており、瀬戸内海沿岸は地形に守られていることを強く感じた。番組のために大学の研究室が行ったと紹介された実験の映像は、３月４日(土)のＮＨＫスペシャル　南海トラフ巨大地震「第１部　ドラマ（前編)」（総合 後 7:30～8:48）で流れた映像とよく似ており、同じ映像なのではないかと疑問に思った。また、番組で甚大な被害想定を紹介しながら、後半に出演した防災の専門家が「犠牲者ゼロも夢ではない」と締めくくったのは精神論的で無理があると思った。福山市の家庭を訪問して防災を解説した末尾のコーナーも取って付けたようだった。ただ、防災について発信し続ける必要のあるＮＨＫの責任を果たした番組だとは思った。

（ＮＨＫ側）

　地震や防災に関する情報発信は繰り返し行わないといつか忘れられ、油断を招くことになる。今回の番組は中国地方の皆さんにも“正しく恐れて”いただくことを趣旨とした。指摘された大学研究室での人工的な津波の映像は「ＮＨＫスペシャル」と「コネクト」それぞれに行ってもらった実験の映像だ。同じ施設なので見かけは似ているが、実験の設定は異なる。番組ゲストが「犠牲者ゼロも夢ではない」と語ったのは、東日本大震災で犠牲者がゼロだった集落があったことを念頭に置いて、備えがあれば可能な目標であるという意見を述べたものだ。

○　コネクト「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」は、紹介された大学研究室では想定を変えた多くの実験が行われていることをスタジオで補足していれば、同じ映像を使い回しているのではないかという誤解を与えずに済んだのではないか。番組はとてもわかりやすく、南海トラフ巨大地震が発生したら広島で何が起こるのか、学ぶことが多かった。次の段階として、実際に南海トラフ巨大地震が発生した場合に、住む場所ごとにどのような被害が想定され、どのように避難すればよいのか個別のケースで参考になるような番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

　地震の被害想定は前提条件が多種多様なため、個別のケースを確定的に論じるのは難しい面もあるが、要望は今後に生かしていきたい。

○　コネクト「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」を見た。実際に巨大地震が発生した際にどう動けばよいかという、きめ細かく実用的な情報が不足していた。東

日本大震災から１２年がたっても防災意識が浸透していないことにメディアは危機感を持たなければならない。南海トラフに限らず、活断層などの災害リスクも掘り下げて「コネクト」や「お好みワイドひろしま」などで引き続き発信してほしい。

（ＮＨＫ側）

コネクトは南海トラフ巨大地震の中国地方への影響を伝え、“正しく恐れて”いただく第一歩となるように制作した。個別のケースをシミュレーションすると、条件の違いから多くのパターンが考えられることになる。一つのケースを取り上げて「こうすれば大丈夫」と言い切ることは、それに当てはまらない場合も考慮すると、命に関わることなので慎重にならざるを得ない。いただいた指摘に対してはコネクトに限らず、ＮＨＫのニュース・番組で多角的に報道していきたい。

○　コネクト「中国地方も危ない！？南海トラフ巨大地震」を見た。南海トラフ巨大地震によって瀬戸内海にも大きな津波が来て長時間滞留することは初めて知り、岡山の人にも危機感を与えたようだ。県ごとに特化した内容で制作すれば、視聴者はより自分のこととして考えられると思うので、岡山県版の制作を期待したい。

（ＮＨＫ側）

南海トラフ巨大地震関連の全国放送番組は、やはり太平洋側の被害想定の大きな地域に焦点が当たっており、中国地方の人にはあまり響かなかったという声もある。その意味で、中国地方向けの「コネクト」を見て実際に危機感を持った人がいると聞くのはありがたい。巨大地震など災害リスクを取り上げた番組を各地域に適した形で放送することを考えていきたい。

○　３月１１日の前後にはいろいろな番組で防災をテーマに取り上げていた。３月１０日(金)の「チコちゃんに叱られる！」でも取り上げられていて、真正面に防災を掲げなくても番組ごとの切り口で幅広い世代に少しずつ意識してもらう取り組みは有効だと思った。

○　連続テレビ小説「あまちゃん」は現実とリンクしたすぐれた物語だった。放送から１０年、登場人物たちのその後を描いた続編を現実の風景とリンクしたドラマとして見たい。

○　ＮＨＫスペシャル　南海トラフ巨大地震「第１部　ドラマ」は、ドラマという形式で一つのケースを描き、伝え方としては成立していた。地域放送番組で同じことを行うのは難しいだろうが。

（ＮＨＫ側）

ドラマであっても大規模災害の被害想定に忠実に描くと、恐すぎて無力感に陥るといった不評意見をいただくことがある。楽観的、悲観的どちらにも偏りすぎないようバランスを考えて制作している。

○　３月５日(金)の子育て まち育て 石見銀山物語「冬編」（Ｅテレ 後6:00～6:29）を見た。昭和的な雰囲気を感じ、人のつながりを大事にする暮らしぶりが印象的だった。多数ではないにしても、全国各地からそこに集まって住むことを選んだ人たちが紹介され、人口が多くて便利な街に住むのとは違う生き方を示して好感が持てた。以前に放送された「夏編」や「秋編」も見たいと思ったが「ＮＨＫプラス」では配信が終了していた。ＮＨＫ制作の番組なら、もう少し配信期間を長くしたり、期限そのものを撤廃できないだろうか。アーカイブとして長期間提供されることを強く望む。

（ＮＨＫ側）

「子育て まち育て 石見銀山物語」は１年間の「総集編」を放送する予定であり、ぜひご覧いただきたい。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫプラス」に対する要望はよく理解できるが、多数の番組を提供していて設備上の制限などもある。一方、「ＮＨＫオンデマンド」では長い期間配信している番組もあるがすべてではない。配信サービス全体に対する意見として担当部署に伝えたい。

○　３月１１日(土)の探検ファクトリー「岡山・倉敷　ジーンズの聖地　世界中で愛される品質・色あい」を見た。伝統的な技法から今の技術まで全国に発信できてよかった。工場に若い人がたくさん入っていて、人材不足の業種にとってヒントになるのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

「探検ファクトリー」は大阪放送局が制作している番組で、３月１８日(土)の放送では倉敷市のマスキングテープ工場を取り上げる

予定だ。@ｏｋａｙａｍａの枠でこれらの内容を放送することを検討している。

○　「ＮＨＫプラス」の「ご当地プラス　＃中国」では広島の番組が多く、山口の番組をもう少し増やしてもらえるよう希望する。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木）、広島放送局において１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２３年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について報告があった。引き続き、「２０２３年度中国地方向け地域放送番組編集計画（案）」の諮問にあたって説明があり、審議の結果、番組審議会として原案を可とする旨、答申することを決定した。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、３月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　特別論説委員）
委　　員　伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
まつもとゆきひろ　（一般財団法人　Ｒｕｂｙアソシエーション　理事長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜「２０２３年度国内放送番組編集の基本計画」および「編成計画」について＞

○　少し前は総合テレビの深夜に風景映像や音楽が流れる番組を放送していたが、最近はその時間帯に番組が放送されずカラーバーが流れていてもったいない。深夜に番組を見たい人もいる。ドキュメンタリーなども放送してほしい。また、ＢＳはアンテナ設置など視聴のハードルが高い中で、よくここまで普及したと思う。

（ＮＨＫ側）

総合テレビは２４時間放送を基本としているが、放送設備の点検・整備のために深夜に放送を休止することがあり、２月は集中的に工事や保守を行う期間があって休止が多くなる。地震など緊急の報道

があれば速やかに工事を中断して放送を再開する。総合テレビの深夜に「イッキ見！」といって過去の名作ドラマやドキュメンタリーなどを集中編成するなど、深夜の放送時間帯の魅力を高める工夫も行っている。

＜「２０２３年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」について＞

○　各局で防災や地域密着の情報発信、各県で盛り上がっているスポーツに重点を置くのは、バランスが取れていて妥当な計画だと思う。松江局が導入するバーチャルスタジオについて詳しく説明してほしい。また、ことしは広島が注目されるＧ７サミットがある。７年前にオバマ大統領が広島平和記念公園を訪問したときの全国ニュースでは、東京のアナウンサーは公園内の建造物を詳しく知らないように感じた。今回のサミットで同様の全国中継があるなら、知識のある地元局の記者やアナウンサーが担当するのも地域密着の情報発信だと思う。

（ＮＨＫ側）

ニュースのキャスターや出演者の背景に違う場所の映像を合成するバーチャルスタジオは、他の放送局でも取り入れているが，松江局の新会館には最新設備を導入する。合成した映像が違和感なく見られ、より豊かな表現になるように技術的な調整をしているところだ。

（ＮＨＫ側）

次のＧ７サミットで平和記念公園を訪問する首脳の動きなどを全国に中継することがあれば、主に東京のスタオにいるアナウンサーが仕切る形になるはずだ。担当者には事前に平和記念公園を下見させて、慰霊碑などの配置や現場の空気感を理解したうえで放送に臨むよう本部に伝えたい。

○　諮問された「２０２３年度中国地方向け地域放送番組編集計画(案)」については、委員から出された意見が尊重され具体的な番組編成に生かされることを前提に、原案を可とする答申をしたい。

○　異議なし。

（ＮＨＫ側）

答申を受け、このあと具体的な地域放送番組編成計画について決定し、３月の審議会で編成計画について説明したい。

＜放送番組一般について＞

○　１月２０日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「三度の飯より○○！スペシャル」を見た。学生らしい自由さ、若いエネルギーをたくさん感じて楽しめた。多くの学生を取材したと思うが、２５分の番組にまとめた中で取捨選択の基準を教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

「三度の飯より○○！スペシャル」は県内各地で取材したことから、それぞれの地域性がにじみ出ており、個人の思いが強く伝わるような学生のことばを中心に構成していたと思う。

○　１月２０日(金)のさんいんスペシャル「未知なる挑戦！鳥取をバイオリン王国に」はとても見応えがあった。鳥取出身のバイオリニスト・湯淺いづみさんの精力的な活動に刺激を受けた。ただ、タイトル中の「王国」は使い古されたイメージがあり、番組の魅力を損なうと思った。

（ＮＨＫ側）

「未知なる挑戦！鳥取をバイオリン王国に」では鳥取を拠点に熱い心で多彩な活動をしているバイオリニストをきちんと紹介できたと思う。視聴者から好評の声を頂いている。タイトルは湯淺さんの斬新な演奏活動や子どもたちにバイオリンを広めようとしている様子を表したと考える。「王国」ということばがふさわしいかどうかは、もう少し慎重に考えてもよかったかもしれない。意見は制作現場と共有したい。

○　さんいんスペシャル「未知なる挑戦！鳥取をバイオリン王国に」は着眼点がよく、熱量の高い内容に仕上がっていた。番組後半の指揮者のいないオーケストラのコンサートでは練習での緊張感のあるやり取りが新鮮で、本番のシーンでもタイムリーなナレーションで見どころを押さえていた。ただ、番組の導入で「鳥取にエンターテインメントは足りていない」という趣旨のインタビューからバイオリニストの活動につなげたのは、こじつけのように感じた。番組中盤でアニメ主題歌や邦楽ポップスを演奏していたので、こうしたなじみのある曲の演奏シーンを冒頭に持ってきて視聴者の関心をつかむこともできたのではないか。また、バイオリン教室が減少しているという説明では概算でも数字を示してほしかった。湯淺さんがバイオリンの魅力を語るコメントも聞きたかった。細かい点では、オーケストラのメンバーを紹介するテロップで楽器名はアルファベットでなくカタカナのほうが視聴者には分かりやすかったと思う。

（ＮＨＫ側）

「熱量の高い内容」という意見は制作側の意図が伝わったと思えてありがたい。後半のオーケストラのシーンは番組構成の中でどう扱うべきだったか反省点もある。指摘を受けた点は制作現場と共有して今後の参考としたい。

○　１月２７日(金)のコネクト「歴史と神秘の島・宮島でブラフミエ～宮島はナゼ人々をひきつけ続けるのか？～」を見た。本家と言える「ブラタモリ」と比べると科学的なエビデンスが示されず、表面的な受け答えに終始して物足りなかった。

（ＮＨＫ側）

コネクト「歴史と神秘の島・宮島でブラフミエ」は「ブラタモリ」の制作経験者が制作統括を担当した。「ブラタモリ」は地質学などの切り口から根拠を示して解き明かしていくのに対して、今回の「ブラフミエ」は歴史的なある種の「説」として紹介した。科学的な明確さをもって説明したのではないことが、委員の感想に表れたと考える。「ブラフミエ」は好評で来年度も継続したいと考えており、ご指摘は参考にしたい。

○　２月３日(金)のコネクト「広島のカキがピンチ！？」を見た。近年、広島でカキの収穫量が減少し、地球温暖化がその原因だという。対策として情報通信技術を使い、水温データをカキの養殖に生かすと説明されたが実際にどう解決に向かっているのか分かりにくかった。後半は明るい話題で、日本から初めてＥＵにカキを輸出するのが尾道の会社だと知って応援したい気持ちになった。番組の構成としてカキ養殖の課題と挑戦を取り上げたが、時間の短さからどちらも内容が少し薄く感じた。番組末尾で触れた廃棄されるカキ殻を使った商品開発も興味深く、テーマを一つに絞って掘り下げた番組も見たい。ゲストのシンガーソングライター・ＨＩＰＰＹさんにはコメンテーターとしての緊張感があまり感じられなかった。

（ＮＨＫ側）

今回の「コネクト」で“課題”としたカキの収穫量減少の原因は不明点が多く、そのテーマだけで番組を制作するには至らなかったが伝える必要はあると考え、産地の“挑戦”との２本立ての構成にした。情報通信技術の活用は、カキ漁師の勘に頼っていた養殖にデータを活用する取り組みが始まり、対策に生かされるのはこれからという段階だ。全体として海の環境は複雑なため単純化して説明す

るのが難しく、分かりにくいという感想を持たれたかもしれない。今後の改善点として考えていきたい。また「コネクト」ではゲストに番組の詳細を事前に伝えずに出演してもらい、一般視聴者の感覚で収録に臨んでもらっている。ゲストの反応が新鮮に映ることもあるし、緊張感が足りない印象を受ける場合もあるのかもしれない。指摘を制作現場と共有したい。

○　２月３日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「みんなの校則」は社会のありようと重ねながら見た。若者の考えを大人が受け入れないという象徴的な構図だと思った。生徒会の中だけの議論は通らなかったが、生徒会の方針を全校生徒に伝えて提案するように促した教員の指導が優れていると思った。生徒自身が校則を変えるという難題を達成したことに感動した。番組を見た若い人が、自分にも何かできるのではという気になったのではないか。ただ、テロップの字体が細くて見づらかった。

（ＮＨＫ側）

「みんなの校則」では高校生が企業に話を聞いた場面で、自由な髪型を認めるのは少数派だと分かり、必ずしも理解が進んでいないことも含めて、現実社会の状況を立体的に示せたと思う。テロップの字体は若い人の感覚に合わせたものと思うが、見づらいのはよくないので意見を制作現場と共有する。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「みんなの校則」を見た。校則を変えるために話し合う高校生の本気さがよく伝わった。番組の主人公の１人である男子生徒が一つ一つの経験から成長していく様子も好ましかった。男子生徒はジェンダー的な視点から校則を変えたいと思っていて、次第に校則改正の主要テーマが「ジェンダーレス」になり、タイトルの「みんなの校則」と相まって納得した。髪型にとどまらない校則のジェンダーレス化を問題提起してもよかったのではないか。番組の主人公の生徒２人がナレーションをしたのはとてもよく、当事者のことばが心に響いた。

（ＮＨＫ側）

「みんなの校則」は２０代の女性記者が関心を持って取材を始めたテーマで、ニュースカメラマンと１０代向けの番組を制作してきたディレクターのチームで制作した。生徒たちのおよそ１年にわたる活動を２５分の番組で描いたため、そぎ落とした内容もある。番組への反響もよく、全国放送なども含む展開を考えている。

○　@ｏｋａｙａｍａ「みんなの校則」を見た。弁護士が生徒会に校則の存在意義を通して個人の権利や自由、少数者の意見を尊重する必要性を語ったことで男子生徒が決心し、自分の意見を自信を持って話す様子が映像でしっかり表現されていた。子どもの人権について違和感なく伝えられていたのが本当によかった。努力によって校則が変えられたという事実が多くの人の勇気につながったと思う。若者が自分たちで何かを変えようとするテーマで、ナレーションも本人たちが話すという、文字どおり若者たちと作った、若者に見てもらえる番組だと感じた。

（ＮＨＫ側）

「みんなの校則」は、ずっと密着して追っていたわけではなく、節目節目で取材した。弁護士の話を聞く生徒たちの気付きを得たような表情や、男子生徒の内面の変化を表すことばがとらえられ、番組の核となるシーンとしてメッセージが伝わりやすくなったと思う。「若者たちと作った番組」という意見には勇気づけられる。

○　２月３日(金)のさんいんスペシャル「イノシシ猟師の“熱い”冬」を見た。冒頭からしとめられたイノシシがたくさん映し出されて圧倒された。猟師とのぎりぎりの攻防の末に射止められたイノシシの恨みをたたえたような目が強烈だった。この番組では命を頂く営みの現実を一歩踏み込んで描き、非常に勉強になり刺激を受けた。この取材ができたのは狩猟免許まで取ったディレクターの熱意のたまものだと思ったが、番組で動物の死体を見せることにどのような議論があったか。

（ＮＨＫ側）

「イノシシ猟師の“熱い”冬」のディレクターは、命を頂く営みの最前線といえる現場で生きるプロの猟師の技や思いを伝えるために必要な描写であると考え、プロデューサーらとも議論しながら制作した。映像に対して批判の声は受けていない。

○　さんいんスペシャル「イノシシ猟師の“熱い”冬」を見た。イノシシは迷惑な存在という認識だったが、島根のイノシシ肉は大変質がよく、猟師にとって宝だと聞いてだいぶ印象が変わった。イノシシ猟の名人の奥さんが大変心配していたのが印象的だった。夫としては心配ないというふうに返事をした翌日、わなにかけたイノシシがワイヤーを引きちぎって突っ込んできて、やっぱり危ないと思わされたのは制作者の狙いどおりだったかもしれない。番組で紹介した猟師たちの年齢から、将来の担い手が心配だと思いながら見ていたが､最後に若い人も参加するようになったことが描かれ、希望が感じられた。イノシシ猟は広く知られてはいないが、害獣駆除と食肉としての

価値から自分の住む地域の近くで産業として成り立っていることが分かり、驚きと学びが得られた。

（ＮＨＫ側）

委員の意見から、獣害対策となりわいの両面がある猟を通して人間とイノシシが共存する最前線を描こうとしたディレクターの意図が伝わったと思えてありがたい。

○　さんいんスペシャル「イノシシ猟師の“熱い”冬」は、制作者の攻めの姿勢が際立っているように見えた。しとめた１０頭ほどのイノシシをトラックに積み込む、残酷とも受け取られるシーンから始まり、個人的な感覚だが編集のカットが通常より短くテンポがよかった。撮影手法にもこだわりが感じられ、テレビ番組というよりドキュメンタリー映画のようだった。タイトルの“熱い”には被写体だけでなく作り手の熱さや真剣味も表れていて見応えがあった。番組末尾に表示された映像技術の担当はどのような役割か教えてほしい。

（ＮＨＫ側）

「イノシシ猟師の“熱い”冬」はディレクター自身が撮影もおこなった。緊張が高まる場面では編集のカット尺を詰めるなど、その場の感覚を映像に反映させたと思う。「映像技術」は、番組制作の最終段階で映像がＮＨＫの技術的な基準に沿っているかを判断する責任者だ。

○　２月３日(金)のＹスペ！「お便りさんぽスペシャル　守り伝える　ふるさとの魅力」を見た。最近の「お便りさんぽ」は地域の話題を掘り下げてよりおもしろくなったと思う。昭和５５年にオープンした山口県北部で唯一の萩市の映画館の話題が印象に残った。映画館をボランティアが運営し、映画まで制作したということで、映画館を残したい地元の方々の思いが詰まっていると感じた。放送によって萩市民も地域の貴重な財産と再認識する効果があると思った。海岸でテントサウナを楽しむイベントを仕掛けた若者グループの話題では、楽しむだけでなく海岸を清掃して場を整え、そのあとサウナで“整う”というアイデアがすてきだと思った。山口県は 2023 年度の観光戦略でアウトドア観光の創出に力を入れるとしており、参考になる取り組みだと思った。

（ＮＨＫ側）

「お便りさんぽ」は「情報維新！やまぐち」で１０年近く放送しているコーナーで、視聴者から一定の支持を頂いている。今回の「お

便りさんぽスペシャル」で訪ねた４か所のうち萩市の映画館は比較的知名度があるが、あとは視聴者からのお便りならではの話題で、山口県の味わい深さを伝えられたと思う。

○　２月８日(水)に広島市内の中学校で寒い日にジャンパーを着て登校した生徒が校則に基づいて教員から指導を受けたというニュースが放送された。翌週には上着の着用を認めるようにルールを緩和したという続報も伝えられた。いわゆる“ブラック校則”が問題になる中、学校でどのような指導が行われているのか、突っ込んだ取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

校則の問題は、大人の世界では当たり前に認められることが学校では認められないなど不合理なところがあり、引き続き取材したい。

○　２月１０日(金)のコネクト「私も参加できる？！　Ｇ７広島サミット」を見た。Ｇ７サミットが広島で開かれて何が起きるのか、自分に関係があるのか分からないという人たちに、何かができると思ってもらおうとするねらいがあったと感じた。広島で開かれるサミットで首脳たちに本気で核廃絶を議論してもらうには「空気をつくる」ことが大切とゲストの研究者が説いたのには、同じくゲストの高校新聞部の生徒たちの感想と同様に半分分かった気になり、意味があった。生徒たちの意識が高かったからかもしれないが、若い世代に“上から目線”でなく一緒に考えようとする作りになっていて、視聴者としても考えるきっかけが与えられたと思う。３か月先のサミットに向けて今後の報道に期待する。

（ＮＨＫ側）

今回の「コネクト」はテーマにふさわしい映像があまりなく、模型を使った解説を試みた。分かりやすく伝えるのに一定の効果があったと考える。Ｇ７サミットに向けて「コネクト」やニュースでさまざまな情報を発信していきたい。

○　コネクト「私も参加できる？！　Ｇ７広島サミット」を見た。「Ｇ７とは何か」の初歩から解説したり、ゲストの高校生が「わかっていないから教えてあげる」人という役割でなかったことはよかった。「サミット会場に近づいたら逮捕されるのか」という生徒の質問はよい点を突いていて、そこから話題を広げてサミットに反対する人たちがいることを伝えてもよかったのではないか。核政策を学ぶ若者グループの共同代表が「広島で開催しただけで終わってほしくない」と発言したのを受けて研究者が答え

た「空気をつくる」やその方法があいまいで違和感を覚えた。過去のサミットに開催国の市民がどのような影響を与えることができたのか示してほしかった。

関連して１月３１日(火)に、Ｇ７サミットに向けて海からの侵入を防ぐ警備訓練が行われたというニュースが放送された。船に乗って「Ｇ７を中止せよ」というプラカードを掲げただけの人を海上保安官が制圧することは表現の自由を侵す憲法違反だ。訓練とはいえ怖いニュースだと感じた。首脳を守るために一般市民の権利を制限するのは間違いだという視点も持ってほしい。

（ＮＨＫ側）

番組制作の過程で、Ｇ７サミットには反対も含めて多様な意見があることは議論した。一方で世界に影響力のある首脳が広島に集まる好機でもある。サミットにあまり関心のない人も多い中で、その意味を初歩から知ってもらいたいと考えて放送した。今後もサミット本番に向けて多面的な報道をしていきたい。

（ＮＨＫ側）

海からの侵入を防ぐ警備訓練のニュースに関して、実際に一般市民の権利を侵害するのであれば間違いだという視点は必要だと考えている。

○　２月１１日(土)のインタビュー　ここから「映画監督　山田洋次」を見た。映画づくりの原点が山口県宇部の“マドンナ”との出会いだという話もよかったが、番組末尾のテロップで「情報維新！やまぐち」のキャスター・島田莉生アナウンサーがディレクターを担当したと分かって驚き、同時にふさわしい人選だと感じた。

（ＮＨＫ側）

「インタビュー　ここから」は広島局の小野文惠アナウンサーがインタビューし、山口局の島田アナウンサーがディレクターとして関わった。山田監督の映画を形づくっているのが宇部での体験だったという、おそらくあまり知られていない話を引き出せたのではないかと思う。

○　インタビュー　ここから「映画監督　山田洋次」を見た。時間軸に沿って進むインタビューが過去の映像で肉づけされる構成で、２３分の番組に内容がギュッと詰め込まれて見応えがあった。前半は旧満州からの引き揚げの様子を描いた絵画の前で、後半は 160 台のフィルム映写機が保存された施設でそれぞれインタビューしていて、いずれも背景として強いインパクトがあった。山田監督が戦後に暮らした山口県を取り

上げたことで、山口と戦争が結びつくという切り口も興味深かった。番組タイトルの「ここから」が山田監督にとっては山口の宇部だったことに驚き感慨を覚えた。小野アナウンサーの問いかけに山田監督がじっくり考えて答えるまでの間が編集されずに生かされていたのがとてもよかった。「ＮＨＫプラス」でこの番組を見たとき、途中で一部の映像が配信されず著作権の関係だろうと想像したが、急に表示が出て少しびっくりした。

（ＮＨＫ側）

「ＮＨＫプラス」で映像が配信されなかったのは映画のワンシーンを挿入した、インターネットに配信できない箇所だったと思う。山口県に関係する番組であり、山口県域向けに改めて放送できないか調整しようと考えている。

○　「おはようちゅうごく」の番組終わりでの気象予報士の勝丸恭子さんとアナウンサーの掛け合いがいつもおもしろく、どんなネタを仕込んでくるのか毎朝とても楽しみにしている。

○　「ＮＨＫプラス」のアプリで番組を見終わったとき、画面に「もう一度見る」のボタンが表示されるが、シリーズドラマなどは次の回が再生できるボタンも欲しいと思う。次回を見るために番組一覧に戻るのは少し手間がかかり、視聴意欲が損なわれるように感じる。

（ＮＨＫ側）

ユーザーのサービス向上につながる貴重な提言として担当部署に伝えたい。新年度から平日午後６時台の地域のニュースなど、「ＮＨＫプラス」での配信を拡大していく予定だ。「ＮＨＫプラス」をいっそうご利用頂きたい。

○　動画共有サイトのＮＨＫ公式チャンネルで連続テレビ小説のダイジェスト動画を視聴したとき、順番通りに見るのにとても苦労した。次を見せようという気持ちがあまりないのかと思ったぐらいだ。「ＮＨＫプラス」の操作性も向上させてほしい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２３年１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１９日（木）、広島放送局において１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、２０２３年２月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１１月２５日(金)のさんいんスペシャル「隠岐“ごとばんさん”を探して」を見た。後鳥羽上皇が隠岐の人たちに受け入れられ自然や和歌を楽しみながら暮らしたことが分かった。隠岐で１９年を過ごした本人の気持ちを想像したりもした。後鳥羽上皇に献上したと伝わる菓子作りを受け継ぐ若者のエピソードや、資料館が行っている手書きの交換日記には驚いた。ＳＮＳでのリアルタイムのコミュニケーションが盛んな時代に交換日記とは。手紙や交換日記を待つ時間と気持ちを完全に忘れていることに思い至った。

（ＮＨＫ側）

「隠岐“ごとばんさん”を探して」は各エピソードが風景と合わさって気持ちよく見られる番組になったと思う。約 800 年前から引き継いできた文化を伝えられたことに意味があったと考えている。

○　１２月１６日(金)のコネクトスペシャル「広島交響楽団×夢プロジェクト～若者の未来にエールを！～」（総合 後 7:30～8:42　中国地方）を見た。若い人たちを応援して表舞台に出そうという番組の意図には共感した。ただ、番組が進むにつれ、交響楽団の演奏と人を深掘りするルポルタージュという風合いの違う映像がかみ合っていないと感じた。７２分という長い放送時間に合わせるために無理に内容を詰め込んだのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

　コネクトスペシャル「広島交響楽団×夢プロジェクト」はクラシック音楽が好きな方はもちろん、そうでない方にも子どもたちを応援する番組として見ていただければと、幅広い視聴者層に届ける挑戦を試みた。放送時間は音楽をしっかり聴きたい方々のために必要な長さだったと考える。また制作する機会があれば番組構成のバランスを考えたい。

○　１２月１６日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「ふるカフェ系ハルさんの休日～倉敷美観地区・商人の町の歴史カフェ～」を見た。冒頭で倉敷の街並みや文化、情緒をバーンと見せて、昔の建築技術の高さも分かりやすく描かれていた。天井を支える立派な梁（はり）を見て、本当に栄えていた場所だったことに感慨を覚えた。番組の終盤で倉敷らしさとは何かという問いに対して、倉敷では客を家でもてなす習慣があって立派な客間を作ったことと、古いものを大事にするだけでなく自分たちで新しさを足していくという考えが述べられ、後者の姿勢に共感した。全体としてすてきなカフェの紹介を軸に気分よく見られた。

（ＮＨＫ側）

　＠ｏｋａｙａｍａ「ふるカフェ系ハルさんの休日」は、カフェ自体の魅力はもとより、実業家の大原總一郎が倉敷に海外の著名人を招いてもてなしたという逸話や家屋を紹介するなど､「倉敷らしさ」の一例と倉敷が外国との交流拠点でもあったという情報を伝えられたと思う。倉敷の歴史や文化を伝える番組を、また積極的に編成していきたい。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「ふるカフェ系ハルさんの休日」を見た。岡山県民は知っている内容であり、倉敷をこんなふうに全国に紹介していることが分かったという印象だ。

全国ではマイナーな地域のおもしろさを紹介する番組を岡山局で制作して@ｏｋａｙａｍａで放送してほしい。

（ＮＨＫ側）

「ふるカフェ系ハルさんの休日」のもともとの制作意図は倉敷を全国に発信することだったため、地元から見ると知っている内容が多かったかもしれない。今回のような番組を地域放送に展開する際には、何らかの工夫が必要だと思った。

○　１２月１６日(金)のさんいんスペシャル「子育て　まち育て　石見銀山物語～秋編」を見た。シリーズの３本目だが、ナレーションのポイントが分かりやすく、この回だけ見ても満足できると思った。他の回も見たくなった人が多いと思うので、次の「冬編」では春、夏、秋のダイジェストを入れたり、再放送をしてはどうか。今回は秋の旬の食材や行事が紹介されて、旅行ではとらえきれない、季節を通した地域の魅力を描いたのはこの番組ならではだと思った。子どもたちが石見神楽を練習、上演する様子を紹介して伝統文化を受け継ぐ大切さを描いたのも一つのポイントだった。何より小野さん親子を軸に周りの人たちの温かさとその物語も織り込まれて、穏やかな気持ちで番組の世界に浸ることができた。次の冬編も楽しみだ。

（ＮＨＫ側）

「石見銀山物語」は非常に評判がよく、委員の感想も大変ありがたい。もとは全国放送番組であり、番組の作り方は地域放送局にも勉強になっている。総集編を制作する話も聞いており決まったら紹介する。春夏秋冬の各回を続けて放送することも検討したい。

○　１２月１６日(金)のＹスペ！「関門ＤＥＥＰ旅」を見た。１１月の情報維新！やまぐち「関門ＷＥＥＫ～山口・北九州～」で放送したコーナーの総集編で、元気なおじさん二人が旅をする雰囲気が楽しかった。特色ある飲食店に銭湯とさまざまにテンポよく紹介されていた。店名が紹介された店と紹介されなかった店があり、扱いが統一されたらよかった。

（ＮＨＫ側）

「関門ＤＥＥＰ旅」は関門海峡周辺のいろいろな所を紹介することができ、ある種のマイクロツーリズムを提案できたと思う。店名の紹介については現場で考えて、今後の制作に生かしていきたい。

○　１２月２４日(土)にさんいんスペシャル「後悔しない人生を～ＳａｕｃｙＤｏｇ　石原慎也　“いま”伝えるメッセージ～」（総合 前9:00～9:25　島根県域）の再放送を見た。新型コロナの感染拡大のためライブ活動をはじめ多くのイベントが中止になったことについて、石原さん本人や学生の表情、ことばから残念さがありありと感じられた。当時から若者は重症化しにくいというデータが出ていたにもかかわらず、一生の思い出に残る学校行事なども中止された。データに基づいて大人がもう少し勇気を持てなかったかと改めて考えさせられた。

（ＮＨＫ側）

「後悔しない人生を～ＳａｕｃｙＤｏｇ　石原慎也　“いま”伝えるメッセージ～」は昨年末の「紅白歌合戦」にＳａｕｃｙＤｏｇが出演することになり再放送した。いただいた意見から、コロナ禍の３年間を改めて考える機会になったことが分かり、価値のある再放送ができたと思う。

○　１月１０日(火)の情報維新！やまぐちを見た。「お便りさんぽ」のコーナーでは最近はやりのテントサウナを楽しむ、Ｕターンした若者が立ち上げた団体を取材していた。若い人たちが山口は自然があふれ都会にはない豊かさがあると感じて体現している姿に、山口の魅力を再発見し、山口の楽しみ方を教えられた気がした。サウナでより気持ちよくなるために海岸清掃で汗を流していたのも、遊びながら環境保全や地元への貢献にもなると思った。山口には何もないという地元の人にも新鮮に映り、山口への肯定感が高まったのではないか。

また、１月１８日(水)の情報維新！やまぐちで特集「輸入飼料に依存しない酪農を模索」を見た。牛の飼料代が３０％も上昇する中、山口の牧場が輸入飼料だけに頼らず自社の牧草地を活用した酪農を目指すという、地域からグローバルな視点で経営を転換しようとする挑戦に感心した。地域の未来の展望が描けるような明るい話題を引き続き取り上げてほしい。「ＮＨＫプラス」で地域ニュースの配信を拡大するというＰＲを見たので期待している。

○　１月１１日(水)のいろ★ドリでリポート「ことしにかける　飛び込み　佐々木音華選手」を見た。冬場は練習環境に恵まれない中で勉強と両立しながら工夫してトレーニングする佐々木選手を密着取材していた。一つ一つのトレーニングの目的が丁寧に解説されて、なじみのない競技が分かりやすく描かれ、競技に興味を持ち佐々木選手を応援したくなった。また、トレーニングのシーンを見るうちにコーチの存在感の大きさに気付いた。こうした心血を注いで選手を育ててくれるコーチは求めても得難いものだ。今の中学校・高校などの部活動は教員の働き方改革などを背景に転換期にあ

るが、指導者の重要性は変わらず、この番組は迷える指導者に勇気を与え、視聴者の共感も呼んだのではないだろうか。コーチがどんな思いで人生を選手に注いでいるのか分かるコメントがあると、なおよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

佐々木選手への取材は、当初は制約がある中で練習する様子を中心に追ったが取材を進めるうちにコーチの存在の大きさが分かり、放送ではコーチから指導を受ける場面を厚めに盛り込んだと聞いている。ことしも活躍が期待できる佐々木選手を引き続き取材し、コーチにも注目していきたい。

○　１月１３日(金)のコネクト「おとなのための“性教育”」を見た。新しい性教育の取り組みがいくつか紹介されていたが、ジェンダー意識を考える授業を取り上げたパートをもっと掘り下げてほしかった。それ以外はあえて言えば、育児番組や教育番組で扱ってもよい話題だった。中国地方向けの番組で放送する必然性もあまり感じられなかった。

（ＮＨＫ側）

コネクト「おとなのための“性教育”」は意見の分かれるテーマであり、最新事情への知識も人それぞれで番組のバランスに悩んだ。取り上げた話題はひとつで１本の番組ができるぐらいの深さがあることは同感だ。今回は幅広い視聴者に向けて広く浅く紹介した。反響を受けて必要がありそうならば引き続き取り上げたい。

○　コネクト「おとなのための“性教育”」を見た。「おとなのため」という視点、ゲストに産婦人科医の河野美代子さんを迎えたこと、ともに適切だったと思う。「おうち性教育」が紹介され「プライベートゾーン」の概念に触れていたのがよかった。繰り返し教えることで子どもが自身を守る力を養うことができる実践例が示されていた。学習指導要領に性教育の「はどめ規定」があること、学校全体や保護者の理解を得れば指導できることを伝え、公立の小中学校すべてで性教育に取り組む愛媛県宇和島市の優れた事例を紹介したこともよかった。一方で長年、中高生の妊娠の問題と相対してきた河野医師の話をもっと聞きたかったし、国が緊急避妊薬の販売方法についてパブリック・コメントを募集している話も少し入るとよかった。ジェンダーと性教育はすべての大人の問題であって、男性視点から女性や子どもの問題だと押しやることのないように希望する。

関連して１月２日(月)の１００分ｄｅ名著「１００分ｄｅフェミニズム」（Ｅテレ

後 10:00～11:40）は、ホモソーシャルの害悪が分かりやすく語られて本当によかった。ＮＨＫ職員も含めすべての男性に見てほしい番組だ。

（ＮＨＫ側）

コネクト「おとなのための“性教育”」は、詳しい方ならもの足りなく思われるだろうと自覚しながら、２５分の放送時間の制約の中で、幅広い視聴者を意識して広く浅く伝えた。今後の「コネクト」は１回放送して終わりでなく、反響があれば追加取材をして再び取り上げることを方針の一つとして考えていきたい。

○　コネクト「おとなのための“性教育”」を見た。昔は近所付き合いが濃密で、家庭や学校よりも周囲の大人から少しずつ性知識を学ぶ機会があったと思う。今は他人との関わりが少なくなった分、スマホで何でも情報を得られるようになった。性教育に限らず、挑戦や実体験を通して学ぶよりスマホでの疑似体験が主流になるような時代に、ＮＨＫは何を伝えようとしているのか伺いたい。

（ＮＨＫ側）

リアルなコミュニケーションの希薄化がコロナ禍でより加速した時代に、私たちが何をどう投げかけられるかが問われていると思っている。放送の視聴自体がもともとリアルな体験とは言えない中で、ＮＨＫは放送に加えてデジタル、そして直接視聴者にお会いできるような機会をこれまで以上に増やそうとしている。また、ドキュメンタリー番組では社会の裏面や独特な生き方など多様な人間を描いてきた。自分の知っている社会だけでない、世の中の多様な人間の生き方を番組で伝えることも公共メディアの一つの役割だと思う。地域を舞台に新しい生き方を選ぼうとしている人を取り上げて、いろいろな形で提供していくことも大事だ。

○　年末年始はシリーズ番組を一気に再放送する編成が目立ったが、岡山局が制作した「考える岡山」を親子で一緒に見られる時間帯に一気に再放送してもよかったと思う。今は教育現場で「ＧＩＧＡスクール」のプロジェクトが進み、中学校を視察した際に「ＮＨＫ　ｆｏｒ　Ｓｃｈｏｏｌ」アプリが、よく使われるアプリ四つのうちの一つに挙げられていた。アプリで教材として使える岡山県の番組を多く制作していくことを期待する。

（ＮＨＫ側）

「考える岡山」は、深夜に一挙に再放送することを検討していた。親子で見られる時間帯に編成する案も含めて改めて検討したい。「考える岡山」では県内各地を取り上げているが、ほかの地域も取り上げてほしいという要望を受けており、さらに充実させていきたい。

○　「情報維新！やまぐち」では地銀など地域経済のニュースがよく放送される。周防大島で循環型経済を構築しようとする動きなど、経済の新たな取り組みを「Ｙスペ！」で取り上げたら注目されると思う。

（ＮＨＫ側）

山口の経済の動きについては、記者が一生懸命取材しているので、機会を見てニュースや番組に反映させていきたい。

○　１２月１８日(日)の鎌倉殿の１３人（４８）「報いの時」（総合 後 8:00～8:59）は前評判にたがわぬ、本当に美しい姉と弟の物語の最終回で、壮大な愛を感じさせた。シリーズをもう一度見返したいと思うこともあるが４８回を見るのは大変だ。動画配信サービスでヒットしたドラマなどは１０数話程度なので見やすい。大河ドラマは海外に販売するには長すぎるのではないか。国際的に通用するようにフォーマットを見直してもよいと思う。

（ＮＨＫ側）

番組の国際展開は大きな課題だ。実際は話数が少ないシリーズ番組は世界では通用しない。４８話の番組ならシーズンに分ける形で国際展開できる可能性がある。「おしん」以来なかなかヒットがないので頑張りたいと思う。

○　１２月２９日(木)にＮＨＫスペシャル「未解決事件　Ｆｉｌｅ．０９　松本清張と帝銀事件」のドラマ「第１部　松本清張と『小説　帝銀事件』」（総合 後 9:00～10:29）、１２月３０日(金)にドキュメンタリー「第２部　７４年目の“真相”」（総合 後 9:00～9:59）が放送された。松本清張は広島をはじめ中国地方にゆかりのある人なので、中国地方の放送局でも松本清張を主人公にした番組を作ってほしいと思った。

○　１月３日(火)に「ＴＡＲＯＭＡＮ　岡本太郎式特撮活劇」（１）～（１０）の再放送（Ｅテレ 前 11:10～後 0:00）を見た。見過ごした回を見られたのはよかった半面、１日１回深夜に見るのに適した内容であり、一気に再放送したのはコンテンツを粗略に扱っているようにも感じた。

○　１月８日(日)のＮＨＫスペシャル　超・進化論（３）「すべては微生物から始まった～見えないスーパーパワー～」（総合 後 9:15～10:04）を見た。このシリーズでは地球を思うように動かし、生き物の世界の頂点に立つのが人間であるという無意識の思い込み、自然観をすっかり覆された。「トキソプラズマ」に感染したネズミや人間の行動が変わるというデータからは、人間の自由意思や感情、脳の働きについて自己認識の土台を揺さぶられた。人類の祖先と言える細菌が「ミトコンドリア」を取り込んで生き延びたという説では、生物が進化を繰り返す壮大な流れがあったことが理解でき、始めは仰々しいと感じた「超・進化論」というタイトルにも説得力を感じるようになった。また、ドキュメンタリーの合間にドラマ仕立てのシーンを挟む構成に最初は違和感を覚えたが、見るうちに真面目なドキュメンタリー一本やりでなく、身近なことばのやりとりで深い内容を理解させようとする意図が分かって納得した。番組終盤でコレラやペストが人間に危害を及ぼすのはなぜかという問いに対して、少しはぐらかすような答えだったことが気になった。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫスペシャル　超・進化論（３）で人間に危害を及ぼす微生物に関する問答は、続くシーンへの導入として全体の番組構成の中で扱った。病原菌についてはこれまでもさまざまな番組で取り上げており、今後も別の形で取り上げていく。

○　１月９日(月)のツクランカー「スポーツ（２）」を見た。小・中学生向けの番組だったが、一つずつ課題を見つけ実践しながら答えを導き出す過程が丁寧に描かれ大人が見てもおもしろかった。

（ＮＨＫ側）

ツクランカー「スポーツ（２）」は理科教育に強い関心を持つ山口局のディレクターが提案した番組で、山口県下松市の小学校が主な舞台になっている。学校の授業で活用してもらえたらありがたいと思う。

○　１月１１日(水)のロコだけが知っている「学校徹底リサーチ！青春ってすばらしいＳＰ」を見た。島根県浜田市で１人にノドグロ１匹を出す給食が紹介された。番組ではほかに愛媛県の高校の水族館部が紹介されて、入部するために千葉から家族で移り住んだというエピソードが興味深かった。この番組が学生の進路の選択肢を広げる情報提供になれば喜ばしい。親としても、ふだん子どもの学校生活を目にする機会はな

いので、テレビで取り上げたら親子ともに思い出になると思う。中国地方の県域放送などで、学校やちょっとユニークな部活動を紹介する番組を作ってもらえたらうれしい。

（ＮＨＫ側）

「ロコだけが知っている」で放送したような学校の部活動は、平日午後６時１０分からの県域向けのニュース・情報番組で取り上げる方法はあると思う。松江局は新年度は新放送会館から放送する予定であり、視聴者との交流も強化したいと考えている。視聴者にとって身近なテーマとして参考にしたい。

○　１月１１日(水)の英雄たちの選択「森鴎外・３７歳の転機～小倉“左遷”の真実」を見た。東京から小倉に異動を命じられた森鴎外が軍医を続けるか、作家として野に下るかの選択がテーマで、鴎外の人生をたどれば答えは明白だと思った。映し出された鴎外の自筆が美しく非常に感動した。鴎外の生家は代々津和野藩の典医を務めたが、実は藩主の亀井家の元の領地は現在の鳥取市鹿野町で、森家のルーツも同地だ。そうしたつながりで、神童を生み育んだ秘けつのようなものを山陰の歴史や自然を背景に探る番組を松江局と鳥取局で制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

神童と呼ばれた森鴎外が育まれた家庭環境や文化など興味深い背景があると思うので「さんいんスペシャル」などで取り上げられるとよい。現段階ですぐにお答えできないが考えていきたい。

○　１月１３日(金)の「列島ニュース」は番組冒頭の紹介で鳥取県のニュースが放送されると分かったので見た。鳥取局は「県　漁業免許の魚種見直しへ」というニュースを伝えた。ニュースの主語が「県は」であったのはおなじみのパターンだが、他県のニュースもみな「県は」と言い、聞くだけではどの県のニュースかわからなかった。視聴者はいつもじっと画面を見ているわけではなく、用事をしながら聞くことも多い。「列島ニュース」では聞いて分かるようにしっかりと県名を伝えていただきたい。

（ＮＨＫ側）

「列島ニュース」は、確かに音だけ聞くと委員の意見の通りだと思う。貴重な意見として持ち帰る。

○　１月１９日(木)のあさイチ「愛（め）でたいｎｉｐｐｏｎ　なんだかメデタイ♪山口県」を見た。山口県のたくさんのスポットがしっかりと取材されていた。タイトルの「なんだか」はあいまい、「メデタイ」はカタカナに含みがあり、東京の制作者から見て山口はふわっとした印象なのかと思った。

（ＮＨＫ側）

「あさイチ」は情報維新！やまぐち「お便りさんぽ」のリポーターを務めていた職員がディレクターを担当した。「お便りさんぽ」の経験から知識が豊富で、有名な場所から山口の人も知らないような場所まで何か所も取材して紹介することができた。

「なんだかメデタイ♪山口県」がふわっとしていると感じたというご意見について、番組にタイトルを付けるのはキャッチコピーを考えるのと同じで、難しい面がある。今後も視聴者から注目され見てもらえるタイトルを頑張って考えていきたい。

○　あさイチ「愛（め）でたいｎｉｐｐｏｎ　なんだかメデタイ♪山口県」は「メデタイ」というタイトル以上の内容で、本当に情報量が多かった。山口には何もないとよく言われるが、おいしい食材も酒もたくさんあることが改めて伝わった。「お便りさんぽ」のリポーターが制作に携わったという話にも納得で、名物に加えてセンスのよさや女性の活躍も描かれていた。日本酒の話題では紹介した酒蔵や地域が偏らないようにバランスを取っていると感じた。フグの紹介では下関の唐戸市場にまた行きたくなった。そして、竹と水だけから作られた洗剤には驚いた。山口県は竹林が多く、竹害に悩んでいるとずっと言われてきた中で本当に画期的で、しかも若手の女性が事業を継承していた。山口県に行ってみたいとか、住みたいとか、よい県だと思えるような番組だった。「あさイチ」などの全国放送で何年後かにまた山口県を取り上げてほしい。「Ｙスペ！」などで凝縮させて改めて放送するのもよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

「あさイチ」では最近注目されている山口の日本酒を取り上げたが、低アルコールのものやスイーツを紹介したり、女性が活躍する現場に焦点を当てたりと、視聴者を意識して工夫されていた。取材した成果は今後「情報維新！やまぐち」や「Ｙスペ！」などで展開していきたいと考えている。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年１２月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１２月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）、広島放送局において１１人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、２０２３年１月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１１月１６日(水)のいろ★ドリのリポート、とっとり深ボリ「過疎地は絶好の研修地！」を見た。東京に本社がある大企業から９人が研修に参加して番組ではそのうち１人を中心に取材し、意識や考え方が変化する様子を丁寧に描いていた。研修を主催した企業と智頭町に誘致した企業に取材して事業の枠組みがわかり、興味を持った自治体や団体には有益な情報提供になるだろう。残り８人の参加者についても業種・仕事内容が知りたかった。研修のテーマは智頭町で冬場にできる新規事業を提案するというものだったため､冬は町が雪に覆われる様子がわかる資料映像などで補足すると、地域の課題をより明確に受け止められたと思った。末尾でいろりを囲んで地域の人に話を聞くシーンが短く挿入されたが、気になる映像だったのでもっと長く取り上げてほしかった。また、全編を通じてＢＧＭがなく、内容に合ったＢＧＭがある方が見やすいと思った。報告した記者は、冒頭でキャスターにあるキーワードを質問して視聴

者の興味を引く工夫をしていたが、最後は資料に目を落としながら少し棒読みで終わってしまった。間違いを恐れず、画面に向かって報告を結んでほしかった。

（ＮＨＫ側）

限られた時間で研修に参加した９人全員のプロフィールを紹介するのは難しかったが、知りたくなる気持ちは理解できるので、今後、同種のリポートを制作する際には留意したい。ニュースリポートにＢＧＭをつけることについては、視聴者に見てもらいやすくする観点から制作現場と話し合ってみたい。報告した記者への指摘については、自然なトークを練習することはもちろん、経済の大きな動きが少ない鳥取県で小さくても注目できる取り組みを数多くリポートして練度を上げていけると思う。

○　１１月２２日(火)の「情報維新！やまぐち」を見た。リポート「“真の昆虫の王者”はどっち？」はカブトムシとオオスズメバチはどちらが強いのか、山口大学の研究者が明らかにしたという内容で、取材の独自性が感じられ興味深いニュースだった。

（ＮＨＫ側）

「情報維新！やまぐち」のリポート「“真の昆虫の王者”はどっち？」で取り上げた研究は、カブトムシが天敵によって夜行性を強いられているという説だったが、番組ではカブトムシとオオスズメバチはどちらが強いのか、という切り口で入り、親しみやすく伝えられたと思う。

○　１１月２５日(金)のコネクト「被爆者とともに４０年～相談員　村田未知子～」を見た。広島、長崎以外に東京でも被爆者団体が活動していることを伝えていたが、全国的にはここ数年で被爆者団体の解散が相次いでいる。そうした問題の提示や、被爆の当事者でない方が団体のサポートをすることが解決策のひとつになるという提言を番組でできたらよかった。団体の元副会長が被爆者のために造った共同の墓を引き継ぐために村田さんが養子になり、自分もその墓に入ると語っていて、人柄のよさが伝わった。ディレクターが「被爆者の方々に同情するんですか？」という趣旨の質問をして少々わざとらしいと感じたが、村田さんが「同情はしない」「並んで歩いている」と返した答えに、どの現場でも大切にしたい視点だと気づかされ、人を思いやることの尊さを教えられた。

（ＮＨＫ側）

村田未知子さんが所属する東京の被爆者団体は、設立して間もないころから被爆者の相談事業を東京都から委託され、事業の柱の一つとして被爆者への支援を行っている。そうした背景も丁寧に説明するとわかりやすかったかもしれない。村田さんには長時間のインタビューをさせていただいており、コネクトと１２月１１日(日)のこころの時代～宗教・人生～「被爆者とともに４０年歩んで」という６０分の番組で使用した。インタビューの積み重ねの中で「同情するんですか？」と問う必然性があったということだ。編集するのは難しかったようで､それだけことばの力が強かったからだと思う。

○　コネクト「被爆者とともに４０年～相談員　村田未知子～」を見た。冒頭、電話で話す場面から村田さんの笑顔がとても印象的で、人柄のよさが表れていた。いろいろな困難に遭ってきた被爆者の方々も村田さんの笑顔に救われたのだろうと想像した。被爆者でない村田さんが積み重ねた仕事を通して、被爆者の苦労がにじみ出るような番組だったと思う。ただ、戦後に被爆者が東京にやってきた事情について説明が不足している箇所があったり、村田さんも感じたであろう悩みや陰の部分が描かれていなかったのではないか。

その点、１２月１１日(日)のこころの時代～宗教・人生～「被爆者とともに４０年歩んで」で紹介されたエピソードから、村田さんが抱いた悩みや笑顔の裏にある思いを深く理解することができた。

（ＮＨＫ側）

「コネクト」と「こころの時代」の２つの番組を制作することは当初から決めていた。ディレクターは共通で、制作統括は番組ごとに別々である。

○　１１月２５日(金)のさんいんスペシャル「隠岐“ごとばんさん”を探して」を見た。自然豊かな映像に自然な話し方のナレーション、そして旅人の喜多賢治アナウンサーのまったりとした雰囲気、全体がよく合っていた。いつの間にかナレーターは後鳥羽上皇なのではないかと思わされるように番組が進行し、上皇の和歌で番組を締めくくったのもよかった。

（ＮＨＫ側）

喜多アナウンサーの温かみが画面から伝わったことは同感で、いただいた感想を本人に伝えたい。安藤結衣アナウンサーのナレーシ

ョンや和歌の朗読から後鳥羽上皇の思いまでくんでいただけたなら、とてもありがたいと思う。

○　１１月２５日(金)のＹスペ！「人がいないなら呼べばいい　ローカル線　魅力再発見の旅」を見た。鉄道番組でもなかなか取り上げないローカルな駅や路線を意外な視点から紹介しており楽しめた。ナレーターで光市出身のお笑いタレント・松陰寺太勇さんの「時を戻そう」という定番ギャグに合わせて過去の映像が流れる演出も気が利いていた。旅人の鉄道写真家・中井精也さんが里山の風景に魅力を感じて下車し、山の斜面で１時間待って鉄道を撮影する姿が印象的だった。山口県は車社会で、自分もほとんど鉄道に乗らないが、車窓の風景を楽しみ気ままに降りて旅をする体験をしてみたいと思った。また、過疎化・高齢化が深刻な地元を走る第３セクター路線が人を呼び込むためにイベント列車を活発に運行していることが紹介され、頑張っているなと共感した。ＶＴＲゲストの研究者が「人口が少ない町ほど、同じ数の観光客が来ると経済効果が相対的に大きくなる」と語っていたのは、地域活性化に取り組む人の励みになると思った。タイトル通り、ローカルの魅力を再発見するヒントをもらえる番組だった。

（ＮＨＫ側）

今回のＹスペ！は地域の過疎化で廃線が進むという暗くなりがちな議論ではなく、前向きなとらえ方や取り組みに焦点を当てた。今後もこうした視点で地域の課題を取り上げていきたい。

○　Ｙスペ！「人がいないなら呼べばいい　ローカル線　魅力再発見の旅」を見た。なぜ山口局ではなく広島局の制作なのか疑問に思った。ことしは鉄道開業から 150 年、来年はＪＲ山口線が全線開通から 100 年を迎えるタイミングに合わせて鉄道関連の番組が多く編成されているようで、赤字路線の多い山口県で鉄道に目を向ける機会になると思った。ローカル線は旅や観光といった非日常の利用で取り上げられることが多いが、車社会の山口で鉄道を日常的に利用する人の目線で描くのもおもしろいと思った。山口線沿線で“撮り鉄”向けに撮影スペースを開放しているなど初めて知り、鉄道会社と自治体、住民が協力して地域を盛り上げようとしていることが伝わった。ただ、鉄道写真家の中井さんが許可を得ながらも農家の敷地に入って撮影したことに違和感を覚えた。放送後に写真撮影をしたい人がたくさん集まると問題が起きる可能性もあるので、取材には近隣住民への配慮が必要だと感じた。一方で、中井さんが県外から来て感じた山口の魅力、そして撮影した写真をもっと紹介してほしかった。

（ＮＨＫ側）

人員配置の多い広島局が中国地方各局の番組制作を計画的に一部受け持つことにしており、今回のＹスペ！は広島局が担当した。県外のディレクターの新鮮な視点から発見した地域の魅力を、その地域の視聴者に届けることは有益だと考えている。また、ある地域を放送で取り上げることと日々の営みを守ることとのバランスは、マスメディアとして常に直面する課題であり、取材先の意向を尊重しながら取材、制作をしていきたい。

○　１１月３０日(水)の歴史探偵「出雲“神話の国”の謎」を見た。出雲を“神話の国”とするタイトルは、出雲がヤマト王権成立以前の都だったと考える視点からは不満に思った。かつての高層の神殿を復元したＣＧは見事だった。また、島根半島の形成の話は以前「ブラタモリ」でも見たことがあり、今回の説明と一致していたと思う。古代は繁栄の中心だったような場所を指して、司会者が番組の最後で「地方の歴史」と言ったのにはがっかりして反発を覚えた。番組は全体として新しい知見がたくさん取り入れられていてよかった。

（ＮＨＫ側）

歴史探偵は詳しい方が見ると物足りなかったかもしれない。かつての出雲大社本殿が巨大だったとする説は過去の番組でも紹介しており、今回の番組では新たな知見を加えて、ＣＧでよりリアルに感じてもらうといった工夫が施されていた。制作には以前、さんいんスペシャル「玉鋼をつくる！　３人の若きたたら職人たち」を制作した松江局のディレクターも参加しており、本人の成長の跡が見られたと感じている。

○　１２月２日(金) のコネクト「ヒントは“現場”にあり！～町おこしの達人・新たな挑戦～」を見た。“スーパー公務員”と呼ばれた寺本英仁さんが、現在アドバイザーを務める“まちづくり会社”の社員に上から物を言っているように感じられ気になった。寺本さんを持ち上げすぎない方がよかったのではないか。

（ＮＨＫ側）

コネクト「ヒントは“現場”にあり！」に出演した寺本さんは直に話すと謙虚な人柄だった。放送した場面では寺本さんが“第２のスーパー公務員”と期待する人物を励ます意図があったと理解しているが、“上から目線”に見えたとすれば番組の構成や表現の問題と思われるため制作現場に伝えて改善を図っていきたい。

○　コネクト「ヒントは“現場”にあり！～町おこしの達人・新たな挑戦～」を見た。寺本さんがかつて島根県邑南町で活躍した様子とともに、現在活動する北広島町の商店、生産者のことばや思いが聞けてよかった。開催した“キャンピングレストラン”のイベントも魅力的で、町に興味を持った人が１人でも増えるとよいと思った。ただ、寺本さんが“スーパー公務員”と呼ばれながら退職した理由は触れられず、公務員ではできないことがあったからかと想像はしたが、ひと言説明がほしかった。番組は寺本さんの挑戦を軸に進むと思っていたが、途中から“まちづくり会社”の沖中さんのストーリーが中心になり、軸がずれたように思った。また、“キャンピングレストラン”参加者の満足そうな表情は映ったが、提供した町の食材の味や魅力は伝わったのか、具体的な感想も聞きたかった。寺本さんの言う「まず現場に足を運ぶ」ことは大切だと思うが、それだけで済むのか少し疑問に思った。過疎化に直面するまちで頑張っている人がいるというのは心強いことなのでこれからも取り上げていってほしい。

（ＮＨＫ側）

寺本さんは、地方公務員として学んだことを他の地域にも役立てたいと考えて退職された。その寺本さんのノウハウを北広島町の公務員で“まちづくり会社”に出向している沖中さんに伝える様子を描いたが、寺本さんと沖中さんそれぞれのストーリーのバランスをどう取るかは制作段階からの課題で悩んだところだ。指摘は制作現場と共有し、今後に生かしていきたい。

○　１２月７日(水)と８日(木)のしまねっとＮＥＷＳ６１０で「しまねっとーく　山本耕史さん（前編・後編）」を見た。７日(水)のインタビューでは、筋肉トレーニングについてのエピソードなどおもしろかったが、１２月３日(土)の土曜スタジオパークの内容と重なり二番煎じの感が否めなかった。８日(木)は後鳥羽上皇ゆかりの美保関町を訪ね、町並みなどがとてもきれいに撮影されていた。紹介された老舗旅館の初代当主が源頼朝の家臣だったという話など興味深く聞いた。

（ＮＨＫ側）

「鎌倉殿の１３人」で重要な役を演じた山本耕史さんを地域放送番組でインタビューすることができてよかった。筋肉の話題はいろいろな番組で話されているようで二番煎じの印象になったことは残念だがご容赦いただきたい。８日(木)のインタビュー後半はちょうど雨が上がった後の取材で石畳が美しく撮れて、美保関町の魅力を伝えられた。

○　ラジオ第１の「マイあさ！」午前７時台の「けさの“聞きたい”」をよく聴いており、１２月８日(木)のマイあさ！　けさの“聞きたい”「有馬嘉男のヨーロッパありのまま」を聴いた。これまでもしばしば経験しているが、この日も有馬さんの話が続いているのに午前７時４０分に次の番組に切り替わって話が途切れた。出演者に失礼であり、リスナーにとっても違和感が非常に大きいので改善してほしい。午前７時２５分からの音楽は洋楽が多く、曲名を紹介するアナウンサーの英語の発音がよすぎて聞き取れないことがある。邦題を補完するなど、もっとリスナー本位に工夫してもらいたい。

（ＮＨＫ側）

ラジオ第１は月曜から土曜まで午前７時４０分に必ず番組が切り替わる編成になっているので、マイあさ！が所定の時間内に収まるよう進行するのが望ましい。音楽の曲名紹介の件も併せて、本部のラジオセンターに要望する。

○　１２月９日(金)のコネクトスペシャル「＃広島推し！～みんなの“推し”で作るテレビ～」を見た。広島を代表するタレントが集結した楽しい番組で、ＮＨＫには珍しくエンターテインメント性の強い番組に挑戦した印象を受けた。著名人と一般人の“推し”が交互に紹介される構成には少しまとまりがないと感じたが、番組で紹介した一般人はとても個性的でおもしろかった。広島出身の漫画家・こうの史代さんの作品との出会いをきっかけに広島大学に進学した学生の話は“推し”の存在が人生を豊かにすることをよく表し、広島らしさも感じられた。

（ＮＨＫ側）

コネクトスペシャル「＃広島推し！」には、広島出身の人気タレントの皆さんも、広島への愛を語る番組ならと快く引き受けてくださり、バラエティーが豊かになった。一般の方々の出演は、視聴者とつながるという「コネクト」の趣旨にかなうことであり、ホームページやＳＮＳも活用して、こうしたつながりを強める取り組みを今後も続けたい。番組の構成が雑然としていたという意見は制作現場に伝える。

○　１２月９日（金）の＠ｏｋａｙａｍａ「バランス賛歌　～家具作家・木多隆志の場合～」を見た。自分の勤務先のある津山市でこのような家具作家が活動していることを知るよい機会となった。番組は静かに進行し強烈なインパクトはなかったがメッセージは伝わった。若い頃の放浪や農村生活を経て、モノづくりが好きな自分を突き詰め家具作家の道にたどりついたことや、父の鉄工所を継いで家具の製作所に転換し、

先代の職人の技術を家具作りに生かしていることなどに納得しながら見られた。直線と曲線で巧みにバランスを取ったいすのデザイン、仕事への向き合い方、自然と調和した暮らし、番組が進むごとにタイトルの「バランス」というキーワードがしっくりきた。＠ｏｋａｙａｍａでは過去の番組を再編集して放送することが多いが、今回のような新しい企画にも期待する。

（ＮＨＫ側）

制作陣によれば始めから番組のテーマを「バランス」にするつもりはなかった。ところが、取材して編集するうちに、木多さんのことばや生き方、作品にはバランスを大事にする考え方が１本の芯として通っていることに気づき、「バランス」をキーワードに構成し直したということだ。いただいた感想から、制作者の意図が伝わったことがわかりありがたく思う。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「バランス賛歌　～家具作家・木多隆志の場合～」を見た。起承転結がはっきりしており、とても見やすかった。少しきゃしゃな容姿で繊細な感覚を持っている印象の人物像が自然に捉えられて、映像の色合いも統一感があり、かなり考え抜かれた番組制作ではないかと思った。木多さんのセンスがどのように養われたのか、どのような葛藤を経て今に至ったのか、２５分間の番組の中で絶妙な濃度で物語が描かれていた。好きなことをとことん追求する生き方は刺激になり、若い世代に勧めたい番組だと思った。

（ＮＨＫ側）

担当したディレクターは岡山で生き生きと暮らす同世代を取り上げたいと話していたことがあり、この番組で実現できたと思う。繊細なデザインの家具を撮影するにあたり機材や照明にもこだわったという。そうした工夫に気づいていただいてありがたい。新作の企画にも力を入れて、岡山で生きる人々の姿を紹介していきたい。

○　１２月１４日(水)のみみより！くらし解説「映画文化を守るために　ミニシアターをどう支えるか」を見た。ミニシアターが日本の映画文化を支えている現状を説得力のあるデータを示しながら熱を込めて語っており勇気づけられた。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年１１月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１１月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１７日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１２月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　１０月２１日(金)のコネクト「酒どころ・西条をブラフミエ」を見た。どうしても比較してしまう「ブラタモリ」はタモリさんの“足の裏”の感覚、歩いて地形や地質の妙を掘り下げていく番組作りを感じるが「ブラフミエ」はあらかじめ用意された所を回っているように見えて“足の裏”を感じなかった。好きな番組なので、もう一息の改善を期待する。

（ＮＨＫ側）

コネクト「酒どころ・西条をブラフミエ」は７月に放送した第１弾「福山・城下町を“ブラフミエ”」に対する反響も踏まえてブラッシュアップした。今回の番組も視聴者から好評意見をいただいているが、委員の意見も参考にしてより改善を図りたい。

○　１０月２１日(金)のさんいんスペシャル「１０年後のわたしへ」を見た。番組で紹介した若者たちがたどってきた道が丁寧に描かれ、それぞれのことばから思いが伝わってきた。千葉県から入学した高校生の、島の人はとても温かいが人と深く関われば故郷の人もきっと温かいという趣旨のことばが印象的だった。ぜひ１０年後に手紙を振り返る番組を放送してほしい。ただ、紹介した人が医療系の志望者や従事者に偏っており、バラエティーに富んだ人たちを見たかった。

（ＮＨＫ側）

「１０年後のわたしへ」には若い世代が思いを込めて書き送ってくれた。１０年後を見たいという意見には同感する。医療系の志望者・従事者を多く紹介したことには特に意図はないが、医療専門学校が授業として手紙を書いてくださり、応募数が多かったことはあったかもしれない。出演者のジャンルの偏りについては気を付けたい。

○　１０月２７日(木)の「情報維新！やまぐち」で、思い出ＩＳＨＩＮ「徳佐りんご　つなぐりんご愛」を見た。山口市の阿東徳佐地区が西日本最大級のリンゴ産地になる歴史と現在の課題を昔の映像を交えて描いていた。栽培を始めた初代の方の映像は初めて見た。課題の後継者不足を解決しようとする取り組みと１０年ぶりに現れた担い手に焦点を当てたが、すでに後継ぎのいるリンゴ園があることも丁寧に伝えたらなおよかった。

（ＮＨＫ側）

「思い出ＩＳＨＩＮ」は山口局開局８０周年の昨年度に立ち上げた企画で、制作に手間はかかるが質の高い作品ができていると思う。

○　１０月２８日(金)のコネクト「いま　伝えたい　小倉桂子さん核大国アメリカでの対話」を見た。アイダホ大学で自分の講演をする前に、米軍の幹部候補生が原爆開発の歴史を発表するセミナーを聴講した場面は、小倉さんが真逆の考えも受け止めて対話をする姿勢が表れていた。ただ、聴講者の米兵の、核兵器を持つことが抑止力になるとした発言が現実論のように描かれていた。プーチン大統領の暴走を止められない現実も一方にあり、核抑止論を疑う視点を持てるようにもしてほしかった。また、物理学の教授と対話したことと、彼が講演後の小倉さんに「科学には大きな責任がある」と語り、アメリカにも核兵器肯定ではない考え方の人がいることがわかってよかった。番組の最後の小倉さんのことば「私たちと一緒に」に、女性ならではの対話のあり方が感じられた。

（ＮＨＫ側）

コネクトで核抑止力がアメリカの外交・軍事の要だという発言を取り上げたのは、ウクライナ情勢を前に核抑止論に疑念が呈される中でもアメリカでは考えを変えない人が多くいることを伝える意図があった。

○　コネクト「いま伝えたい　小倉桂子さん　核大国アメリカでの対話」を見た。プーチン大統領が核兵器を使うなどと脅しのことばを発し、核兵器への関心が高まる中、アメリカでも保守的な州で被爆者が証言したこと自体に意味が大きかったし、意見の違う人と話すことの大切さがよく伝わった。核兵器は絶対悪だと思うが、核兵器が必要と考える人にそのまま訴えても対話は進まず分断を深めてしまう。なぜ相手がそう思うのか、対話を通して理解し違いを乗り越える姿勢を教えられた。番組の最後に、被ばく証言を聞いたアメリカの少女から手渡された紙片が紹介され、メッセージを伝えることの大切さを感じた。

この番組の前に１０月２４日(月)のおはよう日本でリポート「坪井直さんの遺志継ぐ女性　アメリカで証言」を見た。坪井さんが亡くなって１年のニュースで、小倉さんが坪井さんの思いを受け継ぐ人、坪井さんに随行した通訳という形で紹介をされたことに違和感を覚えた。小倉さんは被爆者として通訳者の団体を設立し主体的に活動している人だとわかるように伝えたほうがよかった。

（ＮＨＫ側）

コネクト、おはよう日本とも、意見の異なる人に言いたいことを一方的に話すのではなく対話を大切にした坪井さんの考え方を遺志として引き継ぐと説明したが、おはよう日本ではタイトルや構成の流れから指摘のような印象になったかもしれない。ことばの使い方をより精緻に考えるように、意見を今後に生かしていきたい。

○　１１月４日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「デザインハンティング　ｉｎ　岡山」を見た。ものづくりで注目される３か所が取材され、最初の瀬戸内市牛窓町では備前焼のピザプレートが紹介されて備前焼がピザとマッチすることに驚いた。倉敷市児島では１０月の＠ｏｋａｙａｍａでも取材された“デニム兄弟”を取り上げたが、技術のすごさを中心に描いてほしかった。西粟倉村の木工メーカーは最も興味深く、軟らかく壊れやすいヒノキで西洋家具を作ることに成功したという話に感心した。番組の終わりに、森を手入れしたら水がきれいになっておいしい米が取れホタルも飛び始めたという、デザインからＳＤＧｓにつながる広い世界観が示されて、この物語だけで１本の番組ができるのではないかと思った。最後のコメントで岡山出身ではなく移住した人たち

が頑張っていることに気づき、番組冒頭でも言っていたかもしれないが、丁寧に説明すれば番組全体の流れをより理解しやすかったと思う。

（ＮＨＫ側）

「デザインハンティング　ｉｎ　岡山」は、もとは国際放送の番組で地元の人たちも気づかない地域の魅力や高い技術を岡山の外から新鮮な目で再発見したように思う。西粟倉村は岡山県北東端に位置しながら、長期構想を打ち出して起業家や移住者を誘致している元気な村だ。他の地域でも参考になる取り組みを引き続き取り上げていきたい。

○　１１月４日(金)のさんいんスペシャル　山陰に、生きる「“予防”で元気に老いる」を見た。番組冒頭で司会のアナウンサーの視線が落ち着かず非常に気になった。また、健康寿命を説明するグラフが薄い青地に白抜き文字で表示されて非常に見づらかった。提示されたデータは全国平均だったが、山陰のデータもあれば説得力が増したと思う。“コミュニティナース”という新しい取り組みが紹介されて有益だったが、その社会的な位置づけがはっきりとしなかった。

（ＮＨＫ側）

「“予防”で元気に老いる」で、アナウンサーの視線については気にならなかったが、図表の配色やイラストの描写も含めて意見は制作現場と共有したい。コミュニティナースについても新しい取り組みだけに補足的な説明は必要だったと感じる。併せて制作現場に伝える。

○　１１月４日(金)の角打ち放浪記スペシャル「たんぽぽご満悦　人情きらめくワンダーランド」(総合 後 7:30～7:55 山口県域) を見た。北九州に根づいた飲酒の文化で、どの酒屋にも地元の方が集まって飲んでいる様子が新鮮に映り、県が違うと文化が違うことが見て取れた。

○　１１月７日(月)の「いろ★ドリ」でリポート「ズワイガニ漁解禁　初競りで１匹１００万円」を見た。威勢のよいタイトルで、カニの水揚げや初競りの様子など臨場感たっぷりの出だしだったが、後半はカニの漁獲量減少という否定的な情報で終わって尻すぼみな感じがした。せっかくのシーズン到来で、ことしも味わってみようという期待感を持たせてくれたら気持ちよく見られたと思う。

また、１１月１０日(木)の「いろ★ドリ」でリポート「全国旅行支援から１か月」

を見た。観光客、土産物店、宿泊施設、それぞれの立場にある人々をバランスよくリポートしていた。画面右上の小タイトルが進行に応じてきめ細かく変わり、メッセージが的確に伝わった。後半は旅館の人手不足を取り上げ、先行きがわからないため容易に人員を増やせない事情もわかった。一時期、全国旅行支援の鳥取県への予約が停止して混乱したことがあったが、その原因と、対策によって制度は続いていることがグラフやイラストを使って丁寧に解説され、非常に有益だった。ただ、リポートの始まりが鳥取砂丘だったのは、よくも悪くもワンパターンだと感じた。

（ＮＨＫ側）

「ズワイガニ漁解禁　初競りで１匹１００万円」が漁獲量減少の課題を示して終わったことについては、事実を指摘することは大事だが視聴者の気持ちを明るくする終わり方ができたかもしれない。また、「全国旅行支援から１か月」に限らず、鳥取で観光の話題を取り上げると砂丘の映像が使われることが多いと以前から指摘されていて、ふだんから気を付けるようにしていた。いずれも意見は制作現場と共有したい

○　１１月７日(月)～１１日(金)の情報維新！やまぐち「関門ＷＥＥＫ～山口・北九州～」を見た。下関の赤間神宮から郷土芸能の平家太鼓を高校生たちが演奏する様子が中継され、初めて見てとても感動した。北九州・門司のバナナのたたき売りの中継では地元有志が文化として継承していることが紹介され、アナウンサーも参加して楽しい雰囲気だった。気象コーナーでは２局の気象予報士のコラボレーションが独特で、それぞれの個性を出して気象情報を伝えていることに感心した。また、「関門ＤＥＥＰ旅」のコーナーでは知らない場所がいろいろ紹介され、下関に残る日常の景色に感慨を覚えた。さらに、下関北九州道路の計画を取り上げたリポートでは住民の声や費用、開通時期などしっかり取材されていて、身近な問題なので今後に注目したい。この１週間を通して海を挟んだ両地域の文化や人の営みの違いと魅力が描かれ、とてもよい挑戦だった。一方で県域ニュースの放送時間が短くなる欠点も感じ、こういった特別企画の編成にはバランスが大事だと思った。

（ＮＨＫ側）

「関門ＷＥＥＫ～山口・北九州～」の期間中、県域ニュースの枠が短くなったのは指摘の通りで今後どのくらいのペースで実施するかは課題だ。来年は関門橋開通５０年であり、いただいた意見を踏まえて北九州局とも話し合い、よりよい形で伝えていきたい。

○　情報維新！やまぐち「関門ＷＥＥＫ～山口・北九州～」を見た。全体的にテンポがよく、中継や特集、８日(火)の皆既月食やドローンから見る美しい景色も取り入れて、飽きることなく楽しく見られた。気象コーナーでは山口局と北九州局の気象予報士の掛け合いが初日はぎこちなかったが日ごとに打ち解けていく様子もおもしろく視聴した。北九州に旅行したい気持ちになり、両都市の相互交流が活発になってにぎわいにつながることを期待したい。今回は都市部にスポットが当たったが、中山間地や田舎での前向きな営みなども取り上げてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

「関門ＷＥＥＫ～山口・北九州～」は県境を越えた生活圏域に情報を伝えることを第一に考えた企画で、２局が午後６時台の県域ニュース番組を同時に放送するというあまり例のない試みを行った。山口、北九州両局がうまく協力して充実した番組にできたと思う。ドローン中継は山口局に専門家がいて、その技量を発揮することができた。北九州に旅行したい気持ちになっていただけたことは、番組の効果があったと言えてうれしく思う。今回は関門地域という都市部を特集したため、取り上げたのが有名な所に偏った印象はある。今後、中山間地や知られざる場所を集中して紹介する特集も検討したい。

○　１１月１１日(金)のコネクト「こんな芸術見たことない！？広がる新感覚アート」を見た。番組全体を通して何を伝えたいのか釈然としなかった。最初は絵画鑑賞のハードルを下げようとする美術館の取り組み、次にデジタルアートによる商店街活性化の話、一転してジャンクアートをスタジオで作って終わり、収れんすることがなかった。美術館で画家を演じる俳優が出演したが、当の画家について知識がないことがわかり、適役なのか疑問に思った。鑑賞や創作活動の間口を広げてライトに楽しむところから一歩先の展開まで少しだけでも見せてほしかった。

（ＮＨＫ側）

「こんな芸術見たことない！？広がる新感覚アート」では、出演した俳優は美術に詳しい解説者でないことは番組内で説明した。アートは高尚で自分には遠い存在と思う方が多い中、実はアートは多面的で意外に身近にあるから気軽に楽しみませんかと提案した番組だった。意見は制作現場と共有したい。

○　コネクト「こんな芸術見たことない！？広がる新感覚アート」を見た。アートに縁遠い人にそれを親しんでもらおうとする取り組みを紹介し、「コネクト」に合うテーマを取り上げたと思った。ゲストの俳優のコメントが軽くて、演じる画家の品格を崩した感じはした。商店街をデジタルアート美術館にする取り組みでは、若い店主が町おこしに奮闘する姿がすばらしく、地元の商店街がこれを実行したらどうなるか想像したりした。ゲストの美術専門誌ウェブ版編集長が、デジタルアートが盛んになっても既存のアートはなくならず、アートの幅が広がっていくと発言したことに希望を感じた。新しい取り組みの背景にはコロナ禍での美術館来館者の減少や、展示費用などの問題や危機感があると思う。コロナ禍でミニシアターが苦境に陥ったとき、報道によって映画や映画館に関心を持つ人が増えた。アート業界の問題や危機についても放送で取り上げたら関心が高まると思う。また、ゲストのモデル・俳優の永瀬莉子さんのコメントが視聴者目線でよかった。

（ＮＨＫ側）

　コネクトは難しい、硬いテーマでも多くの視聴者に気軽に見てもらうために、思い切って崩した演出に挑戦することもある。意見を制作現場と共有して試行錯誤していきたい。また、美術館に限らずコロナ禍で苦労している文化の現場に注目したい。

○　コネクト「こんな芸術見たことない！？広がる新感覚アート」を見た。番組で伝えたい情報が多くて内容が整理しきれていない印象を受けた。デジタルアート美術館がおもしろく有益で、自分も使ってみたいと思ったが、問い合わせ先など事業に活用したい人向けの情報が不足していた。地域の新しい取り組みを紹介するだけでなく、実際に活用したい、試したい人がサービスにつながる経路まで整えることが地域密着の放送と言えると思う。

（ＮＨＫ側）

　コネクトという２５分の番組でどれだけの題材を紹介するとよいか正解がなく試行錯誤している。デジタルアート美術館の話題では観客の目線、提供者の目線それぞれで知りたい情報が違うことは承知していたが、限られた放送時間の中で情報を取捨選択して全体状況の紹介にとどめた。事業活用の切り口からの意見は制作現場と共有したい。

○　１１月１１日(金)のさんいんスペシャル　山陰に、生きる「“前向きに生きる”ための終活」を見た。ゲストの病院長が若い頃のエピソードで「２歳の子ども」というコ

メントがあったが、場面を再現したイラストではずっと年長の子どもが描かれて不正確だと感じた。また、“終活”を子どもが親に切り出すのは難しいと考えていて、取材されていた家族のように自治体やコミュニティーが高齢者に終活ノートを勧めて自身で書き、子どもに伝えるという順番が理想だと思った。ところが番組の最後でゲストのタレントが、このノートを持って帰って親と話したいという趣旨の発言をして、番組として矛盾したメッセージを発していると感じた。番組を届けたい視聴者層と重なる年齢のゲストがふさわしいと思った。

（ＮＨＫ側）

終活ノートの取り組みは反響が大きく、視聴者から問い合わせも受けて、多くの方に関心を持っていただいたと感じている。終活ノートを書く本人の人生観や日本人の精神性にも触れる高度な内容になり、ゲストは当事者感覚で話せる人がふさわしかったかもしれない。今後、同様のテーマを取り上げる際に気を付けたい。

○　さんいんスペシャル 山陰に、生きる「“予防”で元気に老いる」と「“前向きに生きる”ための終活」を見た。高齢の親を持つ身としては情報が多くて有益だった。認知症予防プログラムや終活ノートを知らない方々が知るきっかけになったと思う。ただ、いかにも山陰は高齢化が進んでいることを表す内容で、そうした印象を覆す意外性のある番組の企画を期待する。ＮＨＫプラスなどで全国に配信されたときに、現役世代の食指が動く番組の方が山陰のＰＲにもつながると思う。

（ＮＨＫ側）

「山陰に、生きる」は少し重々しいタイトルだったが、番組自体は情報性があり、前向きで意外性のある内容だったと思う。ＮＨＫプラスで配信する際にはサムネイル画像をもっと工夫して見てもらえるようにしたい。

○　１１月１１日(金)の中国！ちゅーもく！ラジオ「しまねっとラジオ」を聴いた。安来市と松江市の企業グループがジェットエンジンを作るという話題では、たたら製鉄の技術がエンジン製造につながったり、大学生も関わっていることを初めて知って興味深かった。石州瓦の話題では海外販売の拡大などを通してブランド再構築に取り組んでいることがわかった。ただ、洋風建築に合う瓦の説明などはラジオでは理解しづらく、もう少し踏み込んで質問してもらいたかった。引き続きこういった情報をどんどん取り上げていただきたい。

（ＮＨＫ側）

「しまねっとラジオ」は、担当したアナウンサーが島根の技術が海外にどのように展開していけるかをテーマに取材した。全国放送のニュース企画などで、映像で発信できないか検討している。

○　１１月１３日(日)の「高専ロボコン２０２２　中国地区大会」(総合 後 1:05～1:59 中国ﾌﾞﾛｯｸ) を見た。長年のＮＨＫの取り組みを尊敬しており、今回は３年ぶりに大会会場での開催となった。ただ、会場や演出が地味で失敗するチームも多く日本の科学技術の将来に不安を覚えた。もっと費用をかけた大会にするとよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

「高専ロボコン２０２２」の競技課題は、高専生がチャレンジするのにちょうどよい難易度で、テレビ番組としての見栄えも考慮して専門家とＮＨＫとで設定している。今回は紙を扱うのがロボットには難しかった印象がある。

○　１１月６日(日)のＮＨＫスペシャル　超・進化論(１)「植物からのメッセージ～地球を彩る驚異の世界～」を見た。植物が話をしていることがわかってきたという衝撃の内容だった。家族がくぎづけになって見ていた。これからもすばらしい番組企画を期待している。

○　１１月に島根原発で重大事故が起きたことを想定した避難訓練が実施された。島根県の避難計画では約３９万人が避難し、広島県はそのうち約１７万人を受け入れることになっているが、現実的にその人数の避難や中長期の受け入れが可能なのか検証する番組を制作してほしい

（ＮＨＫ側）

原発事故に伴う避難については問題意識を持っており、適切なタイミングで取り上げていきたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年１０月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

１０月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２０日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１２月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　９月１６日(金)のコネクト「“あの日の中学生たち”を見つめて～つながる日常と記憶～」を見た。内容は８月６日(土)のＮＨＫスペシャル「原爆が奪った“未来”～中学生８千人・生と死の記録～」と重なっていたが、番組の末尾で小野文惠アナウンサーが「家族に会いたくなります」ということばで締めたことでこの番組の独自性が出た。ただ、エンドロールが速く、資料提供元が判読できなかった。また、この番組でもアナウンサーが「つながりました」と言っていたが、コネクトでは番組テーマの「つなぐ」に関する言い回しを無理やり押し出してくることに抵抗を感じている。

（ＮＨＫ側）

コネクト「“あの日の中学生たち”を見つめて～つながる日常と記憶～」はＮＨＫスペシャルを再構成した番組であり、冒頭で「大

人の平和学習」と紹介したように切り口を少し変えて、多くの人に興味を持ってもらうことを目指した。エンドロールはＮＨＫの放送表示の基準に従って表示した。資料提供者が多かったため番組末尾でまとめて紹介したが、流すスピードが速かったという指摘は制作現場と共有する。また、番組内であからさまに「つなぐ」と言うのではなく、見るうちにおのずから伝わるようにしようと制作現場で共通理解を図っているところだ。

○　９月１６日(金)のさんいんスペシャル「ディープに秋旅　歴史探検！鳥取城下町めぐり」を見てとても好感を持った。鳥取藩主も入れなかった大雲院の位牌（はい）堂のことなど、初めて知る内容もあった。番組の最後で鳥取市鹿野町の城下町ソングを歌いながら、合間にきれいな景色の映像が挿入される演出もよかった。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャルで旅人役を務めた２人のうち１人は鳥取で生まれ育ったアナウンサーだが、知らない所だらけだったということで、地域の視聴者にとっても新鮮な発見を提供できたと考えている。

○　９月１６日(金)のＹスペ！「お便りさんぽスペシャル　歴史とアートに魅せられて」を見た。博物館のサポーターなど、ふだん目にしない舞台裏が紹介されたり、金魚ちょうちんのルーツが弘前ねぶたということにも驚いた。番組で訪れた４か所を地図上に示せば、より“お散歩感”が出たのではないか。また、毎回リポーターがスキップをして登場したが、似合わない人もいたので個性に応じた演出が望ましいと思った。

また、「情報維新！やまぐち」は年度当初は県内各地に出ていた印象だったが、最近見ないと感じていた。１１月に「関門ウイーク」を実施するということで、旅行支援と組み合わさって経済活性化につながることを期待する。

（ＮＨＫ側）

「お便りさんぽ」のシリーズで“散歩感”がなくなってきているなどの意見は制作現場と共有する。

○　９月３０日(金)のコネクト「“戦争漫画家”水木しげるのメッセージ」を見た。発見された作品構想ノートから水木さんの思いを掘り下げた内容で、９月１７日(土)に放送された１００分ｄｅ名著「１００分ｄｅ水木しげる」（総合 前10:05～11:46 鳥取県域）とともに大変インパクトの強い番組だった。ただ、コネクトでは何と何をコネクトしていたのか不明確だった。

（ＮＨＫ側）

コネクトについては放送開始から半年たち、番組内で「コネクトする」、「つなぐ」とあからさまに言うかどうかは部内外で多様な意見がある。「“戦争漫画家”水木しげるのメッセージ」では、戦争の記憶を後世につなげるというテーマをことさら強調しなくても伝わると考えて制作した。

○　コネクト「“戦争漫画家”水木しげるのメッセージ」を見た。発見された構想ノートから、戦争漫画「総員玉砕せよ！」が亡き戦友に捧げられた作品であることを知った。日本の戦死者に餓死が多かったり、遺骨収集がいまだにできていない状況にも触れると、戦場の悲惨さを描いた水木さんの作品と併せて番組の厚みが増したのではないかと感じた。

○　コネクト「“戦争漫画家”水木しげるのメッセージ」を見た。最近、戦争の現実も知らず、反戦運動をしている人たちを冷笑し、核武装や防衛費増額、愛国心をあおって勇ましいことを言う人たちが目立つ中、水木さんの「誰に見られることもなく、誰に語ることもできず、ただ忘れ去られるだけ」なのが戦争の死であるというメッセージを伝えていてよかった。ただ、水木さんの大ファンという俳優の佐野史郎さんの話が短く、編集でカットされたのではないかと思われ残念だった。

（ＮＨＫ側）

「“戦争漫画家”水木しげるのメッセージ」のインタビュー部分について、時と場合によるが、限られた時間の中でタレントに話を伺わなければならないことがある。

○　１０月７日(金)のコネクト「三宅一生とヒロシマ」には三宅さんへのリスペクトを大いに感じた。スタジオに招いた服飾関係に進もうとしている学生が若々しくも深みや説得力のある発言をしていた。三宅さんの発想、主張の原点が広島にあったことが安藤忠雄さんのコメントからよくわかった。三宅さんが過去に出演した番組の映像・音声をしっかり活用していたのはＮＨＫならではだと思った。

（ＮＨＫ側）

「三宅一生とヒロシマ」は三宅さんがご存命のうちから１人のディレクターが温めていた企画だ。三宅さんが亡くなったため、ＮＨＫが保管している資料映像・音声を活用しながら番組として出すこととした。

○　コネクト「三宅一生とヒロシマ」を見た。三宅さんや映画監督の大林宣彦さんなど、この世代の広島出身の表現者は若い頃は広島出身ということや原爆というテーマに蓋をして表現していたところが似ていると思った。三宅さんも原爆を経験したデザイナーとくくられることに抵抗があったと番組で触れていてふに落ちた。ただ、番組名の「ヒロシマ」のカタカナ表記は、メディアが広島を原爆が落ちた町という固定観念にとらわれている証左ではないか。表現者たちはそうした見方に対して思うところがあったと感じた。また、三宅さんが 1990 年に広島で開催したファッションショーについて「戦後の広島で初の」と形容したが、９０年代を戦後とくくるのは時代の区分が大きすぎると思った。今後も、各地の文化人の活動を映像で残していってもらいたい。

（ＮＨＫ側）

　カタカナ表記の「ヒロシマ」が被爆地としてのイメージを持つことは承知している。原爆投下からの復興が三宅さんの創作の原点に結びつくことから今回のタイトルとした。また、1990 年は戦後なのかという問題は、戦争の取材をすると戦後は終わっていないという人もいて多様な考え方がある。制作現場で議論を深めていきたい。

○　コネクト「三宅一生とヒロシマ」を見た。三宅一生と被爆地「ヒロシマ」を無理やりつなげようとする意図が如実に表れていた。学生のゲストは、三宅さんとのつながりが初めに示されなかったため唐突感があり、彼らに対しても失礼になったのではないか。三宅さんの葛藤をもっと見つめるとともに、文化を発信することが平和につながるということばの本質をもっと探るべきだった。

（ＮＨＫ側）

　「三宅一生とヒロシマ」の構成について指摘いただいた点は制作現場と共有して今後に活かしたい。「コネクト」全般の演出については、番組開始当初は番組テーマの「つなぐ」を浸透させたいという思いが強かった。現在は無理に言わず、全体を通して自然に伝えようという考え方を共有している。引き続き改善していきたい。

○　１０月７日(金)の@ｏｋａｙａｍａ「デニム兄弟がつむぐ夢」を見た。紹介されたデニムの技術一つ一つを深く知りたかった。兄弟の活動についていろいろな情報が出てきたが､移住してやりたかったこと､その核心が伝わればもっと共感できたと思う。映像は青を基調として美しかった。

　また、「もぎたて！」内のコーナーで昔の写真と今の写真を比べる「まちチェン」

がとても興味深い。ホームページにも掲載されており、懐かしい写真の閲覧を両親にも勧めている。

（ＮＨＫ側）

「デニム兄弟がつむぐ夢」は、２人の活動や児島デニムに対する愛情は伝わったが、その情熱の出元が何なのか掘り下げが足りなかったかもしれない。もともと番組の軸になると想定していた出来事がなくなってしまい、いろいろな情報を散りばめる形になってしまったように思う。

「まちチェン」は岡山県内各地の古い風景写真を今の写真と比較して、時代の流れを伝えるコーナーである。ＡＩが合成した岡山弁の音声でキャラクターが掛け合いをする演出で、開始当初と比べてＡＩの岡山弁がとても上達した。

○　@ｏｋａｙａｍａ「デニム兄弟がつむぐ夢」を見た。兄弟の活動をなぞるだけでなく、その奥底を見せてもらいたかった。兄弟で頑張って地域発展に貢献している姿はうらやましく元気が出た。若い人たちへの刺激になるとよいと思った。

（ＮＨＫ側）

「デニム兄弟がつむぐ夢」の２人はプロデューサーでありながら自ら行動する若者として取り上げた。こうした取り組みを継続して取材し、若い世代にメッセージを発信していきたい。

○　１０月７日(金)のさんいんスペシャル「海底で事件です！～ムラサキウニの大量発生に挑む～」を見た。鳥取県東部でムラサキウニの発生が多いというデータが示されたが、東部の取材がなかったのが気になった。番組の最後に漁業組合の方が「漁業関係者だけの問題ではない」と大きな課題を提起したまま終わってしまい、もっと掘り下げてほしかった。また、「さんいんスペシャル」にタレントの上田まりえさんがたびたび出演するのには理由があるのか。シリアスなテーマを扱っているときに、画面隅のワイプの中で話をしながら映っているのが少し気になった。

（ＮＨＫ側）

ムラサキウニによる被害は山陰の沿岸部では大きな問題である。夕方のニュース番組などでも継続して取材し、今回の番組で掘り下げが足りなかった部分も伝えていきたい。上田まりえさんは境港市出身で鳥取の海の幸に思い入れが深くゲストに適任と判断した。上

田さんは民放アナウンサーの経験から、さまざまなテーマに柔軟に対応してもらえる強みがあるが、テーマに応じて幅広くゲスト候補を選定していきたい。

ワイプ演出について賛否両論あることは承知している。試行錯誤しながら改善に努めたい。

○　さんいんスペシャル「海底で事件です！～ムラサキウニの大量発生に挑む～」を見た。環境の変化が私たちの暮らしを直撃し始めているという当事者にとって死活問題のテーマでありながら、コミカルに描いている箇所があって気になった。問題にもっと切り込んでほしかった。今後も生活に影響を与える環境の変化に警鐘を鳴らすようなニュースや番組を期待する。

○　１０月１２日(水)の「いろ★ドリ」のコーナー「トットリ、コトノハ。＃１３　オオサンショウウオの守り人」を見た。イギリス出身のリチャード・ピアスさんが大山町に住むことになったきっかけや今の暮らし、オオサンショウウオとの出合いから保護活動にまい進する姿がわかりやすくまとめられていた。番組の冒頭で実際にオオサンショウウオがカメラに収められ、臨場感たっぷりで引き込まれた。その後、ダムに阻まれて遡上できないオオサンショウウオを見つけて助けたくても特別天然記念物のため触れられないもどかしさから、行政の許可を得てボランティアとオオサンショウウオの通り道を作るまでが描かれた。リチャードさんの勇気、情熱を感じるとともに、人と自然の関わり方の難しさも表現され、自分も何とかしたいという気持ちにさせられた。オオサンショウウオの生物・生態に関する解説も織り込まれていれば、視聴者がオオサンショウウオは地元の宝であり、その保護を自分事と感じられたのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

いろ★ドリ「トットリ、コトノハ。」は地元の貴重な生物が危機に直面しており、それを救おうとした人が制度の壁にも立ち向かったことを伝えた。担当ディレクターがよい題材を見つけたと思っている。鳥取県の自然環境が豊かだからこそ生息している貴重な生物たちが危機に追い込まれていることを視聴者に改めて知ってもらうことが大切だと考えている。

○　「情報維新！やまぐち」は最近、ニュースに登場する人たちによるタイトルコールで始まり、元気のよさが感じられる。地域を巻き込んでいく姿勢がとてもよく、視聴者の幅も広がるのではないかと思う。

１０月１２日(水)の「情報維新！やまぐち」のコーナー「あなたの大切なモノってなんですか？」を見た。リポーターが出会った人にいろいろな話を聞くうちに「大切なモノ」について意外な答えや、深い思いを引き出していたのがよかった。

また、１０月１３日(金)の「情報維新！やまぐち」の特集「鉄道１５０年と井上勝」は歴史好きの視聴者が興味を持ったと思う。井上勝の生き方に憧れ、将来はＳＬの機関士になるのが夢だという萩市の中学生がとても印象的で、この子を見つけて取材したことに感心した。

（ＮＨＫ側）

「情報維新！やまぐち」のタイトルコールは、部内の議論の中で発案された。番組のスタートから勢いがついた印象があり、好評もいただいている。地域の多くの方に出ていただき、そのつながりを広げていきたいと考えている。

○　１０月１５日(土)の「安倍晋三元首相　県民葬」（総合 後 1:50～3:15、総合２ 後 3:15～3:21 山口県域）を見た。山口県民とりわけ下関の方は大きな喪失感を感じていると思うので、この中継で慰められた方は多かっただろう。葬儀の間は中継に徹してあまりコメントもなく会場にいるような気持ちになった。元首相の功績や山口への貢献、一方で各地の反対活動や未解決の問題にも触れて、公平性に配慮した報道だと思った。

（ＮＨＫ側）

９月の「国葬」も山口県では関心が高かったことから、１０月の「県民葬」もニュースとして放送した。番組の最初ではこれまでの経過や、県民葬をめぐって賛否の意見があったことなどを記者解説も交えて伝えた。開式以降は葬儀の中継に徹して、昭恵夫人のあいさつまでしっかりと伝えた。

○　松江局が「１０年後の自分へ手紙を書こう」という募集を行っていたが、知り合いの大学生は知らなかった。テレビ離れをしている若い世代に対してどのように情報を届けているのか疑問に思った。

（ＮＨＫ側）

「１０年後の自分へ」の募集については、テレビ、ホームページ、ツイッターで周知を行ったほか、学校関係者にも案内した。授

業の一環として取り組んでくれた学校もあり、最終的には５００通を超える応募をいただいた。

○　９月２５日(日)の「子育て　まち育て　石見銀山物語　夏」(Eテレ 後2:59～3:28)を見た。淡い声のナレーションや雰囲気が映画のようで見ていて心が温まった。制作者が女性ということから作品に女性的な感覚が出ていて好感を持った。夏編の直前に春編が再放送され、合わせて見られたこともよかった。

（ＮＨＫ側）

「子育て　まち育て　石見銀山物語　夏」は島根県域向けに再編集して「さんいんスペシャル」で放送しようと考えている。楽しみにしてほしい。

○　９月２５日(日)のＮＨＫスペシャル“中流危機”を越えて「第２回　賃金アップの処方せん」を見た。リスキリングに挑む日本企業やドイツ、オランダの事例など興味深く見たが、全体的には物足りなかった。

○　９月２６日(月)のうまいッ！「ふっくら触感！骨までおいしい！青空どじょう～島根・安来市」を見た。柳川鍋以外でどじょうを食べたことがないため、さまざまなどじょう料理が紹介されて興味深かった。

（ＮＨＫ側）

「うまいッ！」には、松江局の中原真吾アナウンサーがどじょうすくい踊りの格好で出演したこともあって取材現場で喜ばれた。こういう番組に出演する経験は、人材育成にも効果があったと思う。

○　９月３０日(金)のドキュメント７２時間「山陰・国道９号線　うどん自販機ありけり」を見た。いろいろと詰め込まれていたが、臨場感があり、全体を通してわかりやすく描かれていた。番組で取り上げた人の話やうどん自販機の歴史から魅力が伝わり、機械の仕組みも見られ、私も食べたことがあるのでとても共感した。オーナーの話では高速道路が延びるにつれて自販機が減っているとのことで、今後の担い手がどうなるのか気になったが、それだけに今の経営者たちの頑張りが伝わった。

（ＮＨＫ側）

ドキュメント７２時間は本部の制作担当者に聞いたところ、以前、秋田県のうどん自販機を取り上げた回の評判がよかったため、ほか

の地方を探して島根県の取材地を見つけたとのことだった。その後の動きを地域放送番組の中で追うことなども考えていきたい。

○　１０月７日(金)の新日本風土記「松江」を見た。内容から“祖先からの継承”が裏のテーマであるように思った。島根県の人は口数が少ない印象があるが、この番組に出た人は多くを語っていて、ＮＨＫの取材力を感じた。番組で玉造温泉が取り上げられなかったのは意外だった。

（ＮＨＫ側）

新日本風土記で玉造温泉が取り上げられなかった理由は手元にないが、番組では松江城、美保関、大根島など、松江に息づく歴史と伝統、それを継ぐ人たちを描いていた。新日本風土記のスタイルが松江の文化を表現するのにふさわしかったと言える。

○　１０月１０日(月)の鶴瓶の家族に乾杯「尾道の旅ＳＰ！井ノ原快彦が井ノ原さん探して出会い旅！」(総合 後 7:30～8:53) を見た。ゲストの井ノ原快彦さんの印象がよく、企画内容もユニークで楽しかった。地元でも多くの方が見たようで、尾道が取り上げられて喜んでいた。

（ＮＨＫ側）

「鶴瓶の家族に乾杯」は番組として初めて尾道から生放送する予定だったが、台風の影響で生放送が中止となり１か月ほど遅れて放送した経緯がある。それでも、このように評価していただけてありがたい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年９月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

９月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１５日（木）、広島放送局において、１２人の委員が出席して開かれた。

会議は、松本委員長の司会により開会。議事に先立ち、山口広島局長から最近の番組について報告した後、２０２１年１２月２６日（日）に放送したＢＳ１スペシャルに「河瀬直美が見つめた東京五輪」へのＢＰＯ意見について報告があり議事に入った。

議事はまず、「２０２２年度後半期の国内放送番組の編成」について説明があったあと「２０２３年度の番組改定」も含めて意見交換を行った。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行った。

最後に、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、１１月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜「２０２２年度後半期の国内放送番組の編成」について＞

○　若者のテレビ離れが進むいま、若年層をねらった番組を新設する試みにはよい印象を受けた。近年、民放のドキュメンタリー番組がよく映画化されているが、ＮＨＫにも良質なドキュメンタリー番組が多いので、その中から映画化することもありうるのではないか。

（ＮＨＫ側）

今のところ、ドキュメンタリー番組を映画化する計画はないが、今後そのような動きがあれば紹介する。

○　今年度から「連続テレビ小説」のＢＳプレミアムでの夜間の再放送が廃止されたことは、自分を含め、働く人たちにとっては残念だったと思う。

「夜ドラ」や新設される「ヒロイン誕生！ドラマチックなオンナたち」は、若い世代をターゲットにしていると思うが、高齢者も楽しみに見ていることは意識してほしい。また、「１００カメ」と「ねほりんぱほりん」の復活は楽しみだ。話題性があり世代を超えて楽しめる番組だと思う。

（ＮＨＫ側）

「連続テレビ小説」の再放送枠に関する意見や、「夜ドラ」を幅広い世代の方に楽しんでいただいていることは担当者に伝える。「１００カメ」はＳＮＳをはじめプロモーション戦略に力を入れており、ぜひ多くの方にご覧いただきたい。

＜「２０２３年度の番組改定」について＞

○　ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安、温暖化による自然災害など暗いニュースが多く閉塞感（へいそくかん）に満ちた時代だが、未来ある子どもたちや子育て世代に希望を与え、エールを送るような番組を期待する。コロナ禍で苦しみながらも、知恵と工夫で光を放つ人々を取り上げてもらいたい。

（ＮＨＫ側）

教育ジャンルの担当者とも連携して、子どもたちに世界のすばらしさや明るいメッセージを伝えられる番組を生み出していきたい。

○　地域局が制作した良質な地域放送番組を、全国放送や「ＮＨＫプラス」でより多く紹介してほしい。下関国際高校の大健闘に力をもらった。新型コロナの影響で中止になっていた地方の祭りも再開され始めている。こうした題材を積極的に取り上げ、全国の人を元気づけてほしい。

（ＮＨＫ側）

地域放送番組を全国放送や「ＮＨＫプラス」でより多く紹介したり、地域の元気を全国に発信したりすることについて、積極的に取り組みたい。

○　日本が経済大国と言われていた頃に比べて、経済番組が少ないように感じている。経済活性化に資するような番組を制作してほしい。

（ＮＨＫ側）

地域の人々の暮らしをよくするのに役立つような、経済関連の地域放送番組が必要だと考えている。

＜放送番組一般について＞

○　７月２２日(金)のコネクト「躍動する若者たち～“核なき世界”へ～」を見た。核兵器禁止条約の初めての締約国会議に参加した広島や世界の若者たちに頼もしさを感じた。彼らのことばは、核兵器だけでなく民主主義や世代間の断絶の問題も示唆していた。番組は条約や会議のポイントをきちんと押さえ、不参加の日本政府と、同じアメリカの核の傘の下にありながらオブザーバー参加したドイツほかＮＡＴＯ加盟国との違いを対比していた。また、放射能による環境汚染の問題が国連の掲げるＳＤＧｓにもつながるという新しい視点を紹介していた。この点については、ウラン採掘から始まって核実験まで、放射能による地球規模の汚染が起きていることを強調すれば、条約の意味がより理解できたのではないかと思った。

（ＮＨＫ側）

コネクトは、核兵器禁止条約の締約国会議について事前の情報が少ない中、ディレクターがウィーンに赴き、現場で起きていたことを取材した。核兵器の問題を環境汚染と関連付けてとらえる新しい潮流について掘り下げるには至らなかった。今後のテーマとして取材を続けたい。

○　７月２９日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「クイズ　もっと！考える岡山」を見た。夏休みらしい、明るく親子で楽しめる番組だった。子どもたちが山間部の生活文化を学べる効果があった。日本中どこでも展開できそうな企画だと思った。

また、９月２日(金)の＠ｏｋａｙａｍａ「離島で発見！ラストファミリー　“瀬戸

内楽園島秘史”」を見た。遊びに行くにはよくても、生活するのは大変そうな島に住み続ける思いをもっと掘り下げてほしかった。番組の核、一番伝えたかったことは何なのかが不明瞭だった。

（ＮＨＫ側）

「クイズ　もっと！考える岡山」は、ホームページに展開している教育コンテンツを利用したクイズイベントを実施し、その模様を収録して番組にした。岡山県は中国山地側と瀬戸内海側それぞれに多様な文化があり、ＮＨＫのコンテンツを通して子どもたち、さらに幅広い世代にも知ってもらえるよう､取り組みを続けていきたい。

「離島で発見！ラストファミリー　“瀬戸内楽園島秘史”」は、父が開拓した畑や民宿を守り、次世代に伝えたいという住民の思いは紹介できていたが、離島で暮らす大変さにもっと迫ることができたかもしれない。岡山県のほかの離島も取材中であり、いただいた意見は制作部局に伝えたい。

○　@ｏｋａｙａｍａ「クイズ　もっと！考える岡山」はとても面白い企画だった。防災に関する問題もあり、子どもたちが防災について考えるよい機会になったと思う。ただ、ゲストの２人はクイズのプロで、クイズの考え方は詳しく解説したが、岡山のことには詳しくない様子で、岡山に関する解説も加えてほしかった。

@ｏｋａｙａｍａ「離島で発見！ラストファミリー“瀬戸内楽園島秘史”」の舞台となった六口島は、幼少期に毎年訪れていた場所で懐かしく、島の歴史を知って勉強になった。

また、９月１４日(水)の「もぎたて！」内のリポート「おかやまハレ舞台　ハコナンバー　コロナを乗り越え　城下公会堂」を見た。アナウンサーが現場から中継していてわかりやすかった。岡山で表現に携わる人たちを紹介する新企画ということなので、これからも楽しみにしたい。

（ＮＨＫ側）

「クイズ　もっと！考える岡山」は、クイズのプロが子どもたちに考えることの大切さや、クイズを解くプロセスを伝える意図があった。確かに岡山に関する知識を深めてもらう方向性があってもよかった。次の番組展開に生かしていきたい。

「離島で発見！ラストファミリー　“瀬戸内楽園島秘史”」では、身近な地域の知られざる歴史を紹介することができた。こうした歴史や伝統をこれからも取り上げていきたい。

もぎたて！「おかやまハレ舞台」は岡山で表現に携わるあらゆる人を１年間にわたって紹介していくコーナーで、中継とも相性がよいので、今後もこのような形で伝えていきたい。

○　８月２５日(木)の「いろ★ドリ」内のリポート「“精鋭”鳴り石の浜を守り続ける」を見た。これまでに見た「精鋭」の中でも数少ない真の精鋭だと感じた。放送中に常時表示された「精鋭 Say Yeah!」ロゴに対する違和感について５月の審議会で発言したが、制作現場ではどのような議論を行ったのか説明してほしい。

（ＮＨＫ側）

「精鋭」のロゴについては、指摘を受けたあとに制作現場で議論した。ダジャレ的センスも入れてデザインしたロゴで、放送番組モニターからは好意的な声もある。制作担当者は継続して使用したいという意見で現場の判断を尊重している。2023 年度の番組改定に向けて番組内容を検討する中で、改めて議論したい。

○　８月２６日(金)のコネクト「不登校　いつでもやり直せる～広島・ある高校の取り組み～」を見た。ゲストで俳優・モデルのゆうたろうさんは、自身が不登校を経験していることもありコメントに重みがあった。

（ＮＨＫ側）

不登校経験のある生徒を多く受け入れている高校の取材は、プライバシー保護の観点から撮影許可を得るのに苦労した。

○　８月２６日(金)のＹスペ！「緊急特番！下関国際高校～甲子園快進撃の裏側～」を見た。司会の平﨑貴昭アナウンサーの表情が生き生きとしていて、興奮と盛り上がりが伝わった。選手や監督へのインタビューを通して快進撃の裏側にあるストーリーが徐々に見えてきて、興味が尽きなかった。エース投手のけがをきっかけにリリーフ投手が成長したことが躍進につながったと解説していたが、ベンチや応援席も含め、頑張ったほかの選手たちのことも取り上げてほしかった。杉本真吾さんの解説はわかりやすかったが、ふだん野球を見ない人のために、専門用語の解説表示があるとなおよかった。番組を見て改めて試合を振り返りたくなった人のために、８月２７日(土)に緊急アンコール放送！高校野球　準々決勝「下関国際×大阪桐蔭」、準決勝「下関国際×近江」（総合 前 8:15～10:00、前 10:05～11:40 山口県域）を放送したのはよいタイミングだった。

（ＮＨＫ側）

下関国際高校が決勝に進めば特別番組を放送すると決めて準備を進めた。平﨑アナウンサーはスポーツ実況を得意としていて、以前から下関国際高校を取材してきた蓄積が生きた。番組としては、どうしても快進撃の軸となった選手を中心にインタビューすることになったが、ニュースで取り上げた際は、ほかの選手にもインタビューするように工夫した。野球の専門用語に関する意見は今後の番組作りに生かしていきたい。

○　Ｙスペ！「緊急特番！下関国際高校～甲子園快進撃の裏側～」を見た。放送のタイミングがよく、ＮＨＫプラスで配信されたこともよかった。野球に詳しくなくてもわかりやすいように解説されていた。大阪桐蔭戦で投手交代時に「あとは任せた」「あとは任せろ」と声を掛け合った話など、選手たちのことばがとても心に響いた。躍進の鍵となった投手がピックアップされていたが、選手皆をたたえる監督のことばで締めくくったのはよかった。翌日の緊急アンコール放送！高校野球　準々決勝「下関国際×大阪桐蔭」、準決勝「下関国際×近江」も、県民の気持ちに寄り添った番組編成だと思った。３７年前に宇部商業が戦った決勝もアンコール放送すればさらに盛り上がったと思う。

（ＮＨＫ側）

テレビの一番のだいご味は歴史的瞬間を皆で共有できることであり、一連の放送でその役割を果たせたと思う。下関国際高校の決勝進出の余韻を県民と分かち合いたいと考えて、まず「Ｙスペ！」を制作し、視聴者からの要望に応えて「緊急アンコール放送！高校野球」も放送した。３７年前の宇部商業や、６４年前の柳井高校の決勝戦を振り返るアイデアはなかったが、今後の参考にしたい。

○　９月２日(金)のさんいんスペシャル「子育て　まち育て　石見銀山物語」を見た。映像のクオリティがとても高かった。ナレーションや内容もよく、映画を１本見たような満足感があった。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャル「子育て　まち育て　石見銀山物語」は、本部で制作した番組を再構成した。春に撮影した本作に続き夏編・秋編の制作も予定しているので、さんいんスペシャルでの続編の放送も楽しみにしてほしい。

○　９月８日(木)の「いろ★ドリ」内のリポート「関金子供歌舞伎　花舞台にかける」を見た。稽古を通して次第に子どもたちの呼吸が合っていく様子や、監督の熱心な指導に見入ってしまい、伝統行事にかける地域の皆さんの思いが伝わった。舞台本番が終わった後の子どもたちのほっとした表情が印象的だった。ナレーションは簡潔で、子どもたちの心情を的確に表現していた。リポートでは個性が際立つ１人の小学生をフォーカスしていたが、もう１人か２人、ほかの子どもも取り上げたらよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

　このリポートはニュースカメラマンが提案、取材してナレーションも本人が担当した。リポートの構成や映像の切り取り方にカメラマンの腕前が発揮されていたと思う。取材した地域の方からも、子どもたちにとってよい思い出になったと喜びの声をいただいた。１人を追うだけでなく、ほかの子どもも取り上げたほうがよかったという意見は、今後の参考としたい。

○　９月９日(金)のコネクト「堀の中と外をどうつなぐ？～絵本を読みあう更生プログラム～」と９月１２日(月)のハートネットＴＶ「塀の外のわが子を思ってー絵本を読みあう女性受刑者たちー」を見た。興味深い題材を、番組ごとのアプローチで描き分けていた。

　コネクトは更生プログラムをシステムとしてふかん的に捉えていた。ただ、塀の中と外をつなぐ具体的な要素が少し不足していた。プライバシーの問題は承知しているが、受刑者が絵本を読む声を録音したＣＤを子どもに送ったあとのことも知りたかった。

　ハートネットＴＶはプログラムの過程で自分自身と向き合った受刑者に焦点を当てていた。モデルで俳優の市川実日子さんのナレーションが心に響いた。途中のイラストや広々とした芝生にいすが置かれたイメージショットに多少の作られた感があったが、全体としてよいドキュメンタリーだった。

（ＮＨＫ側）

　コネクトとハートネットＴＶは同じディレクターが制作した。コネクトでは更生プログラムの仕組みに焦点を当ててその可能性について考え、ハートネットＴＶでは受刑者たちが絵本を読むことで自分の内面を見つめ直す様子を描いた。子どもたちを取材することの是非を考えて、今回の番組では刑務所内の取材を中心とした。

○　コネクト「堀の中と外をどうつなぐ？～絵本を読みあう更生プログラム～」で取り上げた刑務所では、更生プログラム参加者の出所後の再犯率が低いという成果が出ていることに感心した。出所後も続く人生で、彼女たちが１人の人間、１人の母親として生きられる社会をいかにして作っていけるか、改めて考えさせられた。番組は受刑者が出所後に社会とつながり直すために何が必要かという所までは及ばず、刑務所内の取材に終始していた。受刑者の１人が絵本の読み聞かせの録音中に自分の服をぎゅっと握りしめ、手に汗をかいたと言ったシーンでは、彼女の緊張や不安がかいま見えた。

（ＮＨＫ側）

受刑者は収監されていることを他人に知らせていない人も多く、刑務所外を取材することで知られてしまう可能性を考慮して、刑務所内の取材を中心とした。刑務所内の取材も特別に許可されたものであった。

○　コネクト「堀の中と外をどうつなぐ？～絵本を読みあう更生プログラム～」を見た。犯罪の背景に社会的孤立があると言われる中、事件性から一歩進んで社会復帰に焦点を当てたことはよかった。社会復帰促進センターが島根県のほか山口県にあることを番組で初めて知り、調べると全国に４か所あることがわかった。これらの施設の取り組みについても知りたいと思った。番組の最後で、受刑者と聞くと身構えてしまい、更生プログラムに協力してくれる人が少ないとの話があったが、小野文惠アナウンサーとゲストのシンガーソングライターのヒッピーさんがそれぞれ自分にできることをコメントして、受刑者を遠ざけずに近づこうとする温かさが感じられた。

（ＮＨＫ側）

受刑者への取材については、担当ディレクター自身も始めは身構えたが、実際に会ってみると、子どもを思い、自分自身を顧みる普通の１人の女性だと感じたと話していた。

○　９月９日(金)のさんいんスペシャル「故郷と決めたニッポンで～島の漁業を未来へ～」を見た。ミャンマー出身の漁師アモウさんの人柄がすばらしく、こんな上司がいたらよいと思った。動画共有サイトを見た会社員兼ピアノ教師の女性が、漁師になるために島根県の海士町に移住しアモウさんの下で修業していたエピソードでは、何がきっかけで人生が変わるかわからないおもしろさを感じた。漁師という職業、海士町という場所が紹介されたことがうれしかった。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャル「故郷と決めたニッポンで～島の漁業を未来へ～」は、国際放送の番組を日本語で再構成した。外国出身ながら地域で頑張っている方を地域放送で紹介するよい機会となった。

○　８月６日(土)のＮＨＫ映像ファイル　あの人に会いたい「アンコール　坪井直（日本被団協　元代表委員)」を見た。アメリカのオバマ元大統領が広島を訪問した際に謝罪を求めなかった坪井さんの考え方の背景がよくわかった。戦争を越えて平和な世界に向かうための大切な示唆だと思った。坪井さんの平和理念をもっと広めていってもらいたい。

（ＮＨＫ側）

坪井直さんの遺志を引き継いで活動している方々を取材した番組を今後も制作していくので、注目していただきたい。

○　８月１３日(土)と１４日(日)のＮＨＫスペシャル　新・ドキュメント太平洋戦争「１９４２　大日本帝国の分岐点（前編・後編)」(総合 13 日(土)後 10:00～10:54、14 日(日)後 9:00～9:54) は２部構成でＮＨＫらしく厚みがあり、大本営発表の変遷とそれがいかに国民を欺いていったか非常によく伝えていた。

○　８月２７日(土)のブラタモリ「境町・米子～思わずゲゲゲ！“鳥取のしっぽ”は不思議だらけ！？～」を見た。砂鉄を取るために岩石を採掘した結果、日本最大の砂州ができたなど興味深い話だった。ただ、新型コロナの影響か、タモリさんとアナウンサーの距離が離れているのが気になった。

（ＮＨＫ側）

７月にたたら製鉄をテーマとしたさんいんスペシャル「となりの“たたら”」を放送したが、今回のブラタモリのほうが情報性が高い印象で、鳥取局でもよりよい番組を作ろうと制作現場で話している。

○　８月２８日(日)の日曜討論「ウクライナ侵攻半年　戦闘終結の糸口は」を見たが、討論になっていなかった。国内で問題が山積しているときにウクライナ情勢をテーマとしたことに違和感があっただけに、取り上げるなら民放で既に放送したような内容でなく、番組タイトルどおりに討論の場としてほしかった。

（ＮＨＫ側）

日曜討論では、意見の異なる論者を選定して議論を深めようとしている。いただいた意見は制作部局に伝える。

○　島根県立浜田高校が１８年ぶりに甲子園出場を果たし、地元は「第１０４回全国高校野球選手権大会」を見て大いに盛り上がった。コロナ禍で気持ちが落ち込む中、テレビを通して選手たちから活力をもらった。

また、９月３日(土)のブラタモリ「石見銀山～“世界の石見銀山”そのスゴさとは？～」を見た。大田市に石見銀山課が設置されていることは初めて知った。石見銀山が世界から注目された理由や昔の町並みを保存しようとする努力などを、パネルなどを使って丁寧に説明しており、島根県や大田市大森町を全国に知ってもらう機会になったと思う。

（ＮＨＫ側）

浜田高校が１８年前に甲子園に出場したときの主将が今回は監督を務めていることも話題になった。地域の人たちが一つになるスポーツの力を改めて感じた。また、ブラタモリはしっかりとした解説によって地域を全国に紹介できた。今回は松江局の若手のディレクターが制作に関わり、人材育成の面でも効果があった。

○　９月３日(土)のＮＨＫスペシャル「玉鋼（たまはがね）に挑む　日本刀を生み出す奇跡の鉄」は、玉鋼に迫るすばらしいドキュメンタリーだった。アメリカでの日本刀の展示即売会のシーンで、アメリカ人が「危険な優美さ」「宝石のような鉄」と形容するのが誇らしく思った。たたら製鉄が復活したのには、式年遷宮に奉納する太刀がどうしても必要だった伊勢神宮の後押しがあったという話で、神話の時代から鉄を基盤に発展した出雲の歴史に思いが至った。番組の作りも重厚で、ぜひアーカイブ化してほしい。ディレクターがナレーションもしていて、思い入れの強さが感じられた。

（ＮＨＫ側）

７月に同じたたら製鉄の現場を松江局の若手ディレクターが取材したさんいんスペシャル「玉鋼をつくる！　３人の若きたたら職人たち」を放送した。ＮＨＫスペシャルは、たたら製鉄に挑むリーダーやベテラン職人をベテランディレクターが追った番組で、仕事の積み重ねの違いが出たように思った。引き続き若手に経験を積ませて成長につなげたい。

○　旧統一教会と政治家の関係をめぐる問題が明るみに出た当初、ＮＨＫは政治家の発言を伝えるだけで、深く掘り下げる報道をあまりしていなかったと感じる。報道方針について政治へのそんたくが働くことはあってはならず、もしそのようなことがあれば改めてほしい。

（ＮＨＫ側）

報道において政治へのそんたくは一切あってはならず、そのことは肝に銘じて公平公正な報道に努めてまいりたい。意見は本部にきちんと伝える。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年７月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

７月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、８月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長　松本　協一　（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
副委員長　宮﨑　智三　（中国新聞社　論説主幹）
委　　員　安彦恵里香　（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
伊澤　大介　（有限会社森の国　代表取締役社長）
石橋千賀良　（七草農園　代表）
笠原　　浩　（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
河本　清順　（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
原田　尚美　（やまぐちシードル　代表）
平野真里香　（有限会社平野屋　営業本部長）
福安　佳子　（鳥取大学　非常勤講師）
松浦奈津子　（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
薬師寺明子　（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　６月１７日（金）のコネクト「“核なき世界”逆境の中で・・・～初の締約国会議を前に～」を見た。若い世代の視聴者を念頭に、わかりやすくまとめられていた。締約国会議の意味やドイツの新政権の動き、核廃絶に向けた新しい手法の活動など、幅広く紹介していてよかった。一方、この番組のことではないが、日本も核共有をすべきという議論に対して、マスメディアの役割として、問題点をきちんと指摘してほしい。

（ＮＨＫ側）

番組で行った街頭インタビューでは、多くの若者　は核兵器禁止条約に関心がないのが実態だった。そういった若者たちにも伝わる

ように、この番組は初歩的な事項から、わかりやすく構成することを目指した。

○　６月１７日（金）のさんいんスペシャル「初夏を満喫！鳥取低山トレッキング」を見た。初夏にふさわしい企画で、うきうきとしたＢＧＭも手伝って、山歩きに親しみを持ち体験したくなるような内容だった。史跡や古い言い伝えも紹介され、地元を知るという点でもためになった。出演した増井冴香キャスターはよい雰囲気が出ていて、例えば季節ごとにでも、また見てみたいと思った。ただ、番組タイトルに「トレッキング」とあるが、厳密には「ハイキング」のほうが適切ではないか。また、登山の後に立ち寄れる温泉や商店といった施設の紹介があるとよりよかったのではないか。

また、６月２３日（木）の「いろ★ドリ」で、リポート「自然をそのまま　ジビエレザー」を見た。レザークラフトを製作する様子やこだわりが紹介されていたが、作品作りの背景には、環境問題を学んだ作家の思いや、野生動物の駆除をめぐる人と動物との関わりなど、掘り下げることのできるテーマがありそうなので、第２弾があってもよいと感じた。

（ＮＨＫ側）

さんいんスペシャル「初夏を満喫！鳥取低山トレッキング」は好評で、今後も継続できないかと考えている。番組タイトルの用語については検討したい。いろ★ドリ「自然をそのまま　ジビエレザー」は、掘り下げていけるテーマは複数あると制作現場でも話しており、次の展開の可能性を考えていきたい。

○　６月２４日（金）のコネクト「世界をリード！　中国地方のがん治療」を見た。キャスターの進行とアニメーションを使った解説によって、難しい話も平易に理解することができた。岡山大学がウイルスを使った治療で効果を上げていることや、山口大学の最新の研究に驚くとともに、中国地方のがん研究のレベルの高さを誇らしく感じた。

（ＮＨＫ側）

この番組は、山口局のいわゆる理系のディレクターが、山口で行われている最先端の研究を調査して提案した。放送後に反響もあり、研究がどのように発展していくか、継続して取材したい。

○　７月１日（金）のコネクト「防災さんぽ・スペシャル」を見た。宮島の防潮扉や福山の砂留（すなどめ）など、身近な防災施設に着目したのはよかった。ただ、番組冒頭で「見逃した方も大丈夫」と言ったわりに、「お好みワイドひろしま」で放送された「防災さんぽ」の２回分程度しか紹介されず、違和感が残った。

○　７月１日（金）の＠ｏｋａｙａｍａ「かたりつぐ～犠牲者ゼロの記録～」を見た。「逆転人生」で放送された再現ドラマを交えながら、地元の当事者のインタビューも多くてよかった。今の時期は、防災に関して積極的に放送してもらいたい。

（ＮＨＫ側）

「逆転人生」で取り上げた総社市の地域の取り組みを、西日本豪雨から４年のタイミングで岡山県向けに再構成した。「逆転人生」では紹介できなかったインタビューも、地域放送として多く盛り込んだ。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「かたりつぐ～犠牲者ゼロの記録～」を見た。岡山県内では知られているが、ほかの県ではあまり知られていないエピソードではないか。東日本大震災の後に自ら防災組織を作り、工夫した避難訓練を続けていることは、ほかの地域にも教訓になるので、もっと知ってもらえるよう報道してもらいたい。

○　＠ｏｋａｙａｍａ「かたりつぐ～犠牲者ゼロの記録～」を見た。危機意識が薄れる、中だるみの時期があったこともきちんと描かれていた。災害のリアルな景色を知っているか、あるいは想像できるかが大事だと伝えていたと思う。

（ＮＨＫ側）

避難訓練への参加意欲が徐々に低下するという問題を、地域の支えで乗り越えた事例として紹介した。うちの地区でもまねできる、と視聴者が感じてくれたらありがたいと思う。

○　７月１日（金）のさんいんスペシャル「玉鋼をつくる！　３人の若きたたら職人たち」を見た。貴重なたたら場の映像で、刀匠も参加する製鉄の工程や、玉鋼と砂鉄、棚田との関係など、いろいろと知ることができた。ただ、語りの音声がこもっていると感じた。番組の終わりで、ディレクターがナレーションも担当したと分かったが、専門家に任せたほうがよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

若手のディレクターが、たたら製鉄の現場でベテランに交じって奮闘する３人の若い職人に注目して取材した。番組のテーマから、密着取材したディレクター自身の語りを大事にしたかった部分はある。もっと練習したらよいという指摘は、制作現場に伝える。

○　さんいんスペシャル「玉鋼をつくる！　３人の若きたたら職人たち」を見た。とても貴重な映像で、ＣＧによる説明も分かりやすく、遺産的価値が高いので、アーカイブとして残してほしい。ただ、もう少し歴史や技術にこだわった硬質な番組にしてほしかった。最近は若い人に寄せた番組が多いように思う。

（ＮＨＫ側）

６月にＢＳ１で、ベテラン職人を中心に描いた番組を放送したため、さんいんスペシャルでは、視点を変えて制作した。３人の職人を紹介したが、一人一人への踏み込み方が足りなかったかもしれない。今後も取材を続けていきたい。

○　７月１４日（木）のコネクト「担い手はわたしたち～つながる平和へのメッセージ～」（総合 後 7:30～7:55 中国ﾌﾞﾛｯｸ）を見た。戦争の歴史を若者に伝えようとする大人たちと、その思いをしっかりと受け止め、自分の頭で考えて役割を果たそうとする若者たちの姿を捉えていて希望が感じられた。平和と戦争をテーマにした番組は、この時期だけに放送するのではなく、戦争の歴史の継承に取り組む若者たちの姿を年間通して取り上げて、多くの人に伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

戦争関連の内容を、どのようにして若者に届け、伝えるかということを強く意識して、戦争に関心を持ち、活動している同世代の取り組みを伝えた。

○　コネクト「担い手はわたしたち～つながる平和へのメッセージ～」を見た。冒頭の演出は「遊んでいないで平和を考えて」という趣旨だったようだが、夏休みの過ごし方はそれぞれなので、別の導入のしかたがあったと思う。また、スタジオでのクイズが必要なのか疑問で、ゲストの発言の内容が浅いと感じた。さらに、冒頭で、戦争や平和をテーマとした資料館の８割以上が老朽化と後継者不足により今後の運営が困

難と問題提起されたが、解決の手がかりなどには触れられなかったため、もの足りない印象を受けた。

（ＮＨＫ側）

防災や戦争について意識が高い方も多い一方、特に若い人には、自分とは関係ないと考える人もいる。そうした中で、楽しみながら学んでもらうための１つの演出としてクイズを取り入れている。場合によってはテーマにそぐわないかもしれないので、今後検討していきたい。また、冒頭の問題提起に対する解決策がなかったのではという指摘について、番組の趣旨としては、施設に予算がない中で、ガイドを高校生ボランティアが担うという、広い意味で解決策といえる取り組みを紹介した。頂いた意見を踏まえて、よりわかりやすい番組制作を意識していきたい。

○　コネクト「担い手はわたしたち～つながる平和へのメッセージ～」を見た。番組が、２本のリポートで構成されるスタイルで固定化しているようだ。後半の「原爆の図」を愛知県の大学で修復しているというリポートは、原爆関連とはいえ、広島とのつながりは薄く、もっと地元の取り組みに目を向けてほしいと思った。また、番組の収録後、ゲストが希望して「ホロコースト記念館」を訪れたという場面で、腰にワイヤレスが取り付けられていたのを見て、プライベートではなく番組の取材ではないかと興ざめした。

（ＮＨＫ側）

番組を作る上では、見やすさ、理解しやすさを意識しながら、テーマによっては、２５分の番組を１つの題材で構成することもあれば、２つ、３つということもありケースバイケースだ。取材先についても、幅広く取材する中で、テーマとの合致や取材先の都合などを勘案して決めている。また、番組ゲストが「ホロコースト記念館」の見学を希望したのは事実で、館内での話し声を明瞭に録音するため、機材を着けてもらった。

○　７月１５日（金）のコネクト「福山・城下町を“ブラフミエ”」を見た。「お好みワイドひろしま」も含め、小野文惠アナウンサーの人気に頼りすぎず、若手アナウンサーを起用して鍛えることにチャレンジしてみてはどうか。

（ＮＨＫ側）

小野アナウンサーには「コネクト」以外では、「お好みワイドひろしま」の特集「防災さんぽ」のリポーターを７月２０日（水）の放送まで担当してもらった。４月からの「お好みワイドひろしま」では、若手アナウンサーがどんどん現場に出てリポートする取り組みも行っているので、注目していただきたい。

○　コネクト「福山・城下町を“ブラフミエ”」は、開き直って「ブラタモリ」に寄せたように見えて、ある意味、勇気があると思った。小野アナウンサーのキャラクターに頼る部分が大きいと感じた。

（ＮＨＫ側）

「ブラタモリ」を制作する場合は、どうしても全国の人にわかりやすい内容にならざるを得ない。しかし、広島県向けには、もっと細かくても、地元の視聴者に興味を持ってもらえる題材があると考え、番組の形は似ているがやってみた。また、小野アナウンサーは「コネクト」のメインキャスターとして、この番組に出演した。

○　７月１５日（金）の@ｏｋａｙａｍａ「岡山発スポヂカラ！若者の心　スゴ技でつかめ！～岡山　ＢＭＸフリースタイルパーク～」を見た。保守的な土地柄で、新しいものを作り上げてきたエネルギーは、岡山全体の発展にとてもよい効果があると感じた。新しいことを始めようとする人たちの後押しになるように、頻繁にこういう番組を放送してもらいたい。

（ＮＨＫ側）

「スポヂカラ！」はＢＳ１の番組で、スポーツで地域おこしをしている各地の取り組みを紹介している。岡山を象徴するスポーツがない、若者がかっこいいと思える文化がないという現状から力を結集して結実した好例として取り上げた。岡山に魅力的な人がいる、魅力的なスポーツがあるということを、今後とも継続的に紹介したい。

○　７月１５日（金）のさんいんスペシャル「となりの“たたら”」を見た。「ブラタモリ」と同じような演出が多いと思った。また、棚田と砂鉄の関係は、７月１日（金）のさんいんスペシャル「玉鋼をつくる！　３人の若きたたら職人たち」で明かされて

おり、２週間後の「となりの“たたら”」でクイズの形で再び見せられたことに違和感を覚えた。また、６月２６日（日）の「玉鋼の十二人 奇跡の鉄を生み出せるのか」（ＢＳ１ 後 7:00～7:49）をＮＨＫオンデマンドで視聴しようとしたら、既に配信が終了していた。理由を知りたい。

（ＮＨＫ側）

「ブラタモリ」に似た演出であるという指摘には同意する。安易に流れてはいけないが、分かりやすく、楽しく見てもらおうとしたという側面はある。地元の歴史や文化をテーマにした番組を多くの方に見てもらうには、どのような演出がふさわしいか、今後も検討していきたい。また、松江局がたたら製鉄をテーマにした番組を制作することは事前に承知しており、「となりの“たたら”」とは切り口の異なる番組だった。ただ、棚田と砂鉄の関係を描いた部分について内容が重複したのは反省点で以後気を付けたい。ＮＨＫオンデマンドの配信は、必要な権利が確保できたかどうかによって、２週間か１年間になるかが決まる。１年間配信する権利が確保できない事情があったのかもしれない。

○　７月１６日（土）の「安倍晋三元首相　山口県と日本の政治に何をもたらしたか」（総合 前 9:02～9:27 山口県域）を見た。放送のタイミングやテーマはとてもよかった。ゲストの元長門市長のコメントに共感した。下関市民へのインタビューが多く、もっと県内に広く話を聞いたほうがよかった。一方、ＶＴＲで出演したジャーナリストが、元首相の政治手法を厳しく評価したのは、亡くなってすぐのタイミングでは、見ていて気分の良いものではなかった。山口局の作る番組として、もっと県民の気持ちに寄り添ってほしかった。

○　「安倍晋三元首相　山口県と日本の政治に何をもたらしたか」を見た。安倍元首相が、地元に根差した政治家だったと改めて感じた。元首相が政治活動に注いできた情熱を受け継いで、政策が活発に議論される場が生まれるような、今後の番組制作に期待したい。

（ＮＨＫ側）

安倍元首相が山口県民にとって大きな存在であることは疑いの余地がなく、地域局として特集番組を放送した。政権の実績や政治手法についてバランスを取って伝えたつもりだが、さまざまなご意見

があると承知している。後継問題は県民にとって関心の高いものとなるので、しっかりと取材して伝えていきたい。

○　７月１９日（火）と２０日（水）の「もぎたて！」内の特集「三度の飯より○○！～美作大学～」を見た。コロナ禍でも学生が元気に頑張って、やりたいことや勉強もしていることが伝わった。ホームページにもアップされているので、他県にいる学生の親や、卒業生も見ることができるのがよい。

（ＮＨＫ側）

「三度の飯より○○！」は、いつもは番組制作をしていない、編成や経理担当の職員が企画した。コロナ禍で大学生が地域と交流できず、自己表現の場も失われているので、ＮＨＫも地域の一員として、大学生に場を提供できないかという発想から始めた。岡山県の大学を全て紹介するつもりで続けていく。

○　６月３０日（木）のいいいじゅー！！「島根・浜田市」を見た。この地域に移住した一家について丁寧に描かれていた。番組の「ご当地情報コーナー」で、温泉津町が紹介されていたが、大田市だと明示されておらず、浜田市にあると誤解されかねないので、文字情報などで補足すべきだった。

（ＮＨＫ側）

確かに、浜田市が舞台の番組に注記なしで温泉津町が出てくると誤解されやすいと思う。丁寧に伝えるよう制作担当者に伝えたい。

○　７月８日（金）のニュース「安倍元首相　銃で撃たれる」で、女子高校生２人のインタビューを顔出しで放送したことが批判されている。未成年者の心理状態をケアする視点で、抑制を効かせてほしかった。

また、７月１１日（月）のクローズアップ現代「安倍元首相銃撃　事件の“背景”に何が」では、容疑者が恨んでいたという宗教団体の名前を出していたが、　ほかのニュースでは「特定の宗教団体」と伝えるなど、表現に一貫性がなかった。何か隠したい意図があるのかと、視聴者に感じさせたおそれがある。そういう印象を避けるために、用語の統一に気を遣うほうがよい。

（ＮＨＫ側）

頂いた意見は現場にしっかり伝える。

○　７月１３日（水）に再放送された「子育て　まち育て　石見銀山物語」（Ｅテレ 後10:30～10:59）を見た。終始優しい雰囲気で、テレビ番組というよりもドキュメンタリー映画のようなおしゃれな印象を持った。都会から移住した家族が、子育てを通してまちの人たちと関わっていく様子が丁寧に描かれていた。地元で創業した２つの会社によって移住が促進されて人口が増えていることも、理想的なまちづくりだと思った。放課後子ども教室を運営している女性を中心に描いた続編も見たい。また最近、ＮＨＫプラスで番組を検索してみたが、使いやすくなったと感じる。プレイリストのジャンル分けで、例えば「子育て」など、利用者の関心に応じて増やしてもらえるとありがたい。

（ＮＨＫ側）

少子高齢化の問題を抱える島根県に、子育てをするのによい地域があることを紹介できてよかった。夏に取材を行う続編が予定されているそうなので、期待してほしい。この番組は本部が制作したものだが、松江局でもこのような取材に取り組み、全国に発信していきたい。

○　変わる避難所「トイレの衛生確保」をＮＨＫプラスで見た。竹原市で避難所のトイレを洋式にしたとか、民間の事業者から仮設トイレを借りるとか当たり前のことだと思った。防災の観点で、平和記念公園に設置されたマンホールトイレなど今までにないものを取り上げたほうがよいのではないか。

（ＮＨＫ側）

「変わる避難所」は「お好みワイドひろしま」の中で 放送し、５分のミニ番組としても再編集して放送した。自治体が開設する避難所にはかなり古い施設がある中、各自治体が努力して改善していることを伝えた。今後も新しい動きを随時取り上げていきたい。

○　見たい番組がＮＨＫプラスで配信されていないことも多い。配信する番組は、どのように決まっているのか。

（ＮＨＫ側）

ＮＨＫプラスですべての番組が配信されるわけではない。総合テレビとＥテレで放送する番組のうち、インターネットで提供するため

に必要な権利を確保できたものが対象となる。「コネクト」に加えて今年度から「お好みワイドひろしま」を配信するようになったが、中国地方で広島局以外の放送局の地域番組は、設備などの制約から一部のみの配信となっている。放送局の地域番組もできるだけ配信できるよう、本部の事務局と常に調整している。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年６月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

６月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１６日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、７月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	笠原　　浩	（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　５月２０日（金）＠ｏｋａｙａｍａ「デザインをつかむ　～原研哉の目線から～」を見た。名菓の生地に込められた知られざる特徴や世界有数のシェアを誇る船舶用プロペラの形状など、美しくて機能的というデザインの妙を知ることができた。全体的に落ち着いた作りで分かりやすかったほか、映像がとても美しいと感じた。番組の最後の原研哉さんによる考察は興味深かったものの、あまりなじみのない難しい外来語にはテロップを付して解説を加えてほしかった。

（ＮＨＫ側）

岡山県出身で著名なデザイナーである原さんが、故郷の名品に通じる共通項を見出して丁寧に解説していたため、説得力のある番組

に仕上がった。光と影を考慮して撮影に臨んだため、陰影に特徴のある映像に仕上げることができた。頂いた意見を制作現場とも共有して、今後の番組作りの参考にしたい。

○　５月２０日（金）さんいんスペシャル「鳥取の兼業が熱い！～見えてきた新たな光～」を見た。行政が中心となって推進する地域経済活性化への取り組みを紹介しており、各事業への公金の活用方法や“週１副社長”の活動内容について丁寧に取材がなされていた。出演していたアナウンサーが生まれも育ちも鳥取県だと幾度も強調していたが、別の番組でも同様の紹介を耳にしており、視聴者が食傷気味にならない程度に適度に用いてはどうか。鳥取砂丘の映像で番組が始まり鳥取城址（し）の映像も出てくるというありきたりの演出手法に違和感を覚えた。例えば、番組で取り上げた鹿野町にまつわる風景を用いるなど、工夫を凝らした演出を心がけてほしい。

（ＮＨＫ側）

鳥取県が推進している取り組みについて、取材を続けていきたい。アナウンサーの紹介の方法や定番の映像を用いた演出については、今後再検討したい。

○　５月２０日（金）Ｙスペ！「徹底解説！ウクライナ侵攻～山口から考える～」を見た。ウクライナ侵攻と山口県の関わりが多角的に紹介され、身近なところにもその影響が及んでいることを多くの視聴者が感じ取ったと思う。山口県に視点を移し、極東最大とされる米軍岩国基地の存在や日本の安全保障といった課題へ議論が展開したことで、さらに視野が広がった気がした。例えば、視聴者と同じ視座で生活への影響を考えるゲストがいればより身近に感じやすくなったように思った。多角的な視点に基づいて情報を提供する番組制作を今後も期待したい。一か所、テロップが画面に現れた後すぐに消えた部分があり、違和感を覚えた。

○　５月２０日（金）Ｙスペ！「徹底解説！ウクライナ侵攻～山口から考える～」を見た。世界情勢を身近な視点から考える契機となるよい番組で、山口局の番組作りにかける意気込みが感じられた。スタジオのセットが洗練されていた点や、生放送の番組を通じて世界でいま起きている事象を山口県から考えるという構成がとてもよかった。６年前に山口県を訪れたプーチン大統領のエピソードが紹介されたことで、視聴者が問題をより身近に感じることができたと思う。津屋放送部長の解説が簡潔で分かりやすく素晴らしかった。今回のように、世界各地の出来事を山口県に暮らす人々の

視点で考えることのできるような、地域に根差した意欲的な番組作りを今後も期待している。

（ＮＨＫ側）

海外の出来事を地域に近づけて考えることを意識して制作した。生放送だったため、テロップを慌てて操作した部分があったかもしれない。頂いた意見を制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　５月２４日（火）から３日連続で放送していた「お好みワイドひろしま」の特集「福山キャラバン」を見た。地域を深く掘り下げて伝える企画が始まるということで、大変楽しみにしていた。誰もが思いつくような名産品や観光資源の紹介ではなく、福山市の地域課題に取り組む人々の実際の声を取り上げた、とても充実した内容だった。広島県内のほかの地域でも展開する予定だと聞いているので、今後を非常に楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

いつも伝えている広島市内の話題だけでなく、地域の話題や課題をしっかりと掘り下げていきたいと考えていた。秋を目途に同様の展開を検討している。

○　５月２４日（金）「もぎたて！」の企画「もぎたてツーリスト再発見オリエント美術館」を見た。企画展や特別展などの紹介とは異なり、美術館の成り立ちに始まり、リニューアルによりオリエントと現代の私たちの生活とのつながりが感じられるような展示を心がけている点などを学芸員が解説していて、視聴者が美術館をより身近な存在に感じることができたと思う。こうした企画を通じて地域住民の美術館への関心が高まるように思うので、ぜひシリーズ化を希望する。

（ＮＨＫ側）

瀬戸内芸術祭の開催を機に、岡山県内の各美術館の見どころを紹介しようと考えて制作した。この企画はシリーズ化し、県内各地の美術館やその地域の人々の思いを丁寧に伝えていきたい。

○　５月２７日（金）コネクト「アイデア勝負！山陰山陽の鉄道」を見た。厳しい状況にある鉄道路線を維持しようと地域ぐるみで取り組んでいる姿が描かれていた。時代

の移ろいとともに様々なものが変化し失われていく中、その流れにあらがおうとすることでアイデアが生み出され、それが地域の活性化につながっていくという、今の時流に即したテーマを取り上げた番組だと感じた。地域住民に喜ばれる存在を目指してユニークな企画を次々と実施する岡山県の鉄道会社の事例や、鉄道会社が地域住民と一緒になって沿線の活性化に取り組んで双方に活気と自信をもたらしている山口県の事例は素晴らしく、意義のあるよい番組だと感じた。

（ＮＨＫ側）

山口県の事例では、地域住民が自ら地域社会を支える一員として主体的に行動する姿を伝えようと意識した。今後も地域に根差した番組作りを行いたい。

○　５月２７日（金）コネクト「アイデア勝負！山陰山陽の鉄道」を見た。利用客の楽しそうな様子や、地域の活性化に取り組む人々の熱意やアイデアがよく分かる構成だった。視聴者から寄せられたアイデアがテロップで次々と画面に表示され、興味深く読むことができた。また、視聴者からの意見やアイデアは番組のホームページにも掲載されるなど多面的に展開していたことで、番組の新しい楽しみ方を体験することができた。

（ＮＨＫ側）

視聴者と“つながる”ことを意識して番組を制作しており、頂いた意見は番組内で紹介したほか、紹介しきれなかったものも含めてホームページでも紹介しようと考えた。

○　６月３日（金）@ｏｋａｙａｍａ「匠　未来を彫る　～岡山市　菓子木型職人の挑戦～」を見た。ことばを用いて分かりやすく技術を伝えていこうとする合理的な指導方法に共感した。技術を伝承する方法は時代の流れに合わせて変えていく必要があると感じていたこともあり、とても参考になる内容だった。

（ＮＨＫ側）

従来のやり方にとらわれることなく、職人たちが活躍できる未来を築こうと合理的に技術の伝承を図ろうとする名工の姿を追った。岡山県で活躍する職人や技術者をこれからも紹介していきたい。

○　６月３日（金）さんいんスペシャル「ネクストツーリズム　～地方を変える　これからの観光～」を見た。民間が主導する地域活性化への取り組みを取材していて、５月２０日（金）さんいんスペシャル「鳥取の兼業が熱い！～見えてきた新たな光～」とは対照的な枠組みであったものの、示唆的で情報量も多く充実した内容だった。伝統ある建物の立派な和室で収録していたが、ゲストのくだけた服装に少し違和感を覚えた。今後求められる地域観光のあるべき姿についてゲストが示唆した後に、アナウンサーが同様の内容を重ねて聞き返した点が気になった。

○　６月３日（金）さんいんスペシャル「ネクストツーリズム　～地方を変える　これからの観光～」を見た。今後の地方の観光事業の活性化に向けたヒントが分かりやすく紹介された番組だった。番組では、石見地方の温泉地である温泉津と有福を取り上げ、それぞれで地域の活性化を目指して奮闘する人々を描いていた。土地の食材を用いたシェアキッチンでの料理を通じて地域の魅力を生み出そうとする温泉津温泉での取り組みは素晴らしく、イラストで分かりやすくこの仕組みを説明しているのもよかった。シェアキッチンを通じて近隣の温泉や旅館と連携して町ぐるみで観光を盛り上げようとしている動きも知ることができてよかった。熱い湯で知られている共同浴場につかった際のアナウンサーの表情やことばで、湯の特徴が視聴者によく伝わったと思う。有福温泉の紹介で、温泉街を一つのホテルに見立てて利便性や機能の向上を図ろうとする計画について触れていたが、あまり具体的な紹介がないのは残念だった。ゲストの方が、「関係人口」の増加に向けた取り組みなど地域活性化策を紹介していたものの、ゲストの方の詳しい紹介がなくどういう方か分からなかったため、集中して話を聞くことができなかった。石見地方にはほかにも観光地があるので、今回は石見地方の温泉地の中から二つを選んで紹介した、とすればほかの観光地の紹介もできたように思う。

（ＮＨＫ側）

　コロナ禍もあり観光地は総じて厳しい状況におかれているものの、工夫を凝らして活性化につなげている好例もあるので、そういった取り組みを取材して地域活性化につながる番組を制作していきたい。頂いた意見について、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　６月３日（金）さんいんスペシャル「ネクストツーリズム　～地方を変える　これからの観光～」を見た。タイトルを見て内容に期待したものの、さほど新しさが感じられなかった。ゲストの方が指摘していた「関係人口」だが、自身が数年前から提唱されてきた概念であり、今回の番組を機に実際の地域経済への波及効果について検証

してもよかったように感じた。また地方観光の活性化には、数字を求めることではなく地域でビジョンを共有することが重要だともゲストの方が紹介していたが、ビジョンの共有後にはやはり活性化が達せられるべきで、そこには具体的な成果が数値として求められるのではないか。地方創生が唱えられてから久しいが、日本の地域社会がよくなってきている実感はないので、現状を冷静に取材し、予定調和を排して課題をしっかりと描き出すような番組作りを期待する。昨今はインターネットの普及によって地域による情報格差はなくなりつつあるので、地方における出色の取り組みやアイデアを掘り起こして、それらを積極的に世界に向けて発信していくことを期待する。

（ＮＨＫ側）

地域活性化に関する課題について、指摘を頂いた観点もふまえて今後も真摯（しんし）に向き合っていく。

○　６月３日（金）Ｙスペ！「映像詩　山口　～初夏に駆ける空想旅行～」を見た。船平山の棚田や草木がそれらを守ろうと手入れを続ける人々により保たれていることを知り興味深く見ることができた。美しい映像や抑揚のあるナレーションにより新緑のさわやかさが際立つ素晴らしい作りだった。自然を維持するためには人々の大変な手間や努力を伴うと思われるので、番組終盤の「山口の自然はいつだって私を包み込んでくれる」というコメントは、そうした人々の営みを忘れてしまっているかのように聞こえた。山口局開局８０年の特集番組で取り上げていたバンドの曲が挿入歌として使用されており、感慨深く見ることができた。

（ＮＨＫ側）

山口県の美しい景色をより魅力的に見せようと考え、開局特番で用いた曲を使用した。番組末尾のコメントについて、頂いた意見を制作担当者とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　６月７日（火）「いろ★ドリ」内の企画「大山の魅力満喫サイクリングツアー試験走行に密着」を見た。外国人観光客の受け入れを再開したこともあり、時宜を得た企画だった。地域を自転車でじっくりと巡ることで、その土地の魅力の発見につながるように感じた。ツアーでは、いま注目を集めるイーバイクという電動アシスト機能を持つスポーツタイプの自転車を使用すると紹介していたが、健康づくりや趣味といった観点からその自転車を取り上げても面白かったように思う。この種のツアーは以前から存在していて新鮮味はなく、近隣の商工会などが取り組んでいる地域活性化プロジェクトの一環であるという視点を盛り込んだほうがよかったのではないか。またガイ

ドを務めていた男性は、パイロットを目指して渡米したもののコロナ禍により夢をあきらめて帰郷したという異色の経歴の持ち主で、試行錯誤するなかでこのプロジェクトに参加を決めた。彼についての紹介がなかったのは残念で、地域でも夢や希望を見出して活躍している事例として今後取り上げても面白いのではと思う。今回はサイクリングがテーマであったので、映像と音声から臨場感や関係者の熱意が伝わってくるような作りを目指すと、より面白いものになったのではないか。

（ＮＨＫ側）

地域活性化への取り組みの件や、ガイドを務めた人物について掘り下げる点、撮影や編集の工夫など頂いた意見を参考に今後の番組作りに生かしていきたい。

○　６月１３日（月）～１５日（水）「お好みワイドひろしま」を見た。核兵器禁止条約についての企画を３日間に渡って伝えたことを評価したい。締約国会議の要点や、現地ウィーンを訪問する被爆者の声、核廃絶を目指し活動を続ける若者への密着取材など多岐にわたって取材しており、特に若者のことばを丁寧に伝えていたのがよかった。ＩＣＡＮ（核兵器廃絶国際キャンペーン）の運営委員の方のコメントを伝えていたのもよかった。１３日（月）の警察による痴漢防止への取り組みに関するニュースの中で、女性に注意と対策を呼びかけている様子が映し出されていた。被害者となりやすい側にだけ注意を促すのではなく、そもそも痴漢をしてはいけないと伝えていくことも重要ではないかと強く感じた。

（ＮＨＫ側）

核兵器禁止条約の初の締約国会議にあわせ、３日間に渡り関連企画を制作した。被爆者の高齢化が進む中、核兵器による被害の悲惨さをいかに継承するか、若者が今後どういった発信をしていくのかなどを引き続き伝えていく。頂いた意見を制作現場とも共有し、今後の取材活動に生かしていきたい。

○　４月１８日（月）映像の世紀　バタフライエフェクト「ベルリンの壁崩壊　宰相メルケルの誕生」を見た。壁崩壊への過程やその後の推移を旧東ドイツ出身の３人の女性を通じて描き出す構成は見事で、特にメルケル首相退任の場面は出色の出来だった。

○　５月３０日（月）ドキュメント２０ｍｉｎ.「祖父母と私の島生活日記～９人しかいない島に住んでみた～」を見た。同じ素材を用いて制作された４月１５日（金）コネ

クト「人生迷ってＯＫ！家賃０円シェアハウス～尾道・生口島～」と大きく構成が変わり、セルフドキュメンタリーの側面が強く感じられた。初見の映像がふんだんに使われており、編集作業の大変さがしのばれた。生野島の小学校で曾祖父が校長を務めていた頃の児童の描いた絵が倉庫で見つかり、描いた人を追跡調査するというエピソードは、唐突に始まった感もあり見ていて少し戸惑ったものの、非常に面白くて思わず見入ってしまった。タイトルに「島生活日記」とうたってはいたが、構成やテロップの使い方からは日記を意識して制作したという印象は受けなかった。またタイトルに「９人しかいない島」と島民の数に言及していたものの、限られた住民しか登場しなかったことにも違和感を覚えた。若年層には見やすい番組なのかもしれないと感じた。

○　５月３０日（月）ドキュメント２０ｍｉｎ.「祖父母と私の島生活日記～９人しかいない島に住んでみた～」を見た。４月１５日（金）放送の「コネクト」のときとは構成が異なり、今回は若いディレクターの悩みを描き出したものとして興味深く見た。曾祖父のエピソードや絵を描いた人を探す場面が「コネクト」になかったのは、今回の番組のために取っておこうとしたためかと受け止めた。若年層を意識して制作している番組とのことだが、島で暮らすことが若い視聴者にはどのように映るのかがとても気になった。災害発生時などに、危険だと思われる場所で暮らす住民に対して非難する人もいることから、例えば高齢者が島に残り不便な環境で暮らし続けていることが理解しがたいと思われたり、その土地への愛着や地域に根差した思い出とともに生きているのが後ろ向きだと捉えられたりしないかと、番組を見ていて危惧の念を抱いた。

（ＮＨＫ側）

「ドキュメント２０ｍｉｎ.」のコンセプトにあわせ、セルフドキュメンタリーの要素が強くなった。頂いた意見を制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていく。

○　６月１１日（土）ＮＨＫスペシャル「獣害を転じて福となす～雅（まさ）ねえと中国山地の物語～」を見た。２０２１年１０月２２日（金）ラウンドちゅうごく「獣害を転じて福となす～中国山地・雅ねえと住民たちの日々～」では、雅ねえというユニークな専門家が獣害対策の先頭に立って奮闘しているという印象だった。しかし今回は、獣害を防ぐためには集落全体での住民の協力に加えて自治体による包括的なサポートが必要であること、この方の提唱する実効策が持続可能な取り組みであることがよく分かる構成になっていた。獣害対策に取り組む住民たちの生き生きした笑顔や、開けた土地を２両編成の気動車が走って過ぎていく穏やかな情景が印象に残った。ナ

レーターの小野文惠アナウンサーのコメントは遊び心なども感じられる心地よいもので、安心して聞くことのできる素晴らしい語り口だった。

（ＮＨＫ側）

獣害を逆手にとって地域を活性化するという取り組みを紹介した。昨年の放送のあとも取材を続け、今回の放送に際して伝えたいことを明確にした。

○　６月１４日（火）クローズアップ現代「封じられてきた声　映画界の性暴力～被害をなくすために～」を見た。問題にしっかりと踏み込んだ内容で、合意のない性的な行為は性暴力であると断言していた点が素晴らしいと思った。また、６月１５日（水）クローズアップ現代「崖っぷち！？“投票率”は上がるのか」を見た。国政選挙での投票率が全国で最も高い山形県遊佐町で行われている少年議会の取り組みを知ることができてよかった。

○　ＮＨＫのある番組から取材依頼を受けてリモートで出演したが、後日コメントを番組に使用できない旨連絡を受けた。時間がないなか日程を調整して長時間の取材に応じたにも関わらず、不誠実な対応を受けたと感じている。制作担当部局によってはぞんざいな対応を受けることがあり、気を付けるよう伝えてほしい。

（ＮＨＫ側）

頂いた指摘は制作部局に伝える。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年５月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

５月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、１９日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、「２０２１年度中国地方放送番組の種別ごとの放送時間」について、報告があった。続いて、放送番組一般について活発に意見交換を行ったあと、放送番組モニター報告と視聴者意向、６月の番組編成について説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	笠原　　浩	（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　４月１９日（火）「いろ★ドリ」内の特集「とっとり深ボリ“鳥取のサウナ広めたい”熱い思い」を見た。鳥取県が推進するサウナツーリズムを、タオルなどをあおいで熱気を調節するアウフギーサーで鳥取県にＩターンで移住した五塔熱子さんとともに分かりやすく紹介していた。サウナの中で汗だくになりつつも密着して撮影する様子や、サウナを出て利用者とともに一緒に水の中に飛び込むカメラワークはとても臨場感があり、画面を通してサウナの魅力がよく伝わってきた。サウナによる健康面での効果や、五塔さんについての詳しい紹介があれば、

視聴者の興味をより引き付けられたと感じた。サウナ施設を紹介する中で、県の担当者がスーツのままサウナに入っていた様子に少し違和感を覚えた。「いろ★ドリ」で使用するＢＧＭや効果音はどれも似たような印象があり、今回のように鳥取県の将来につながる前向きな企画のときは、内容にあわせて工夫すれば、より多くの視聴者の関心を引くことができると思う。

（ＮＨＫ側）

視聴者の意識を引き付けられるよう、カメラワークや構成を工夫した。ＢＧＭや効果音の使い方をはじめ、頂いた意見を現場に伝え今後の番組制作に生かしていく。

○　４月２２日（金）@ｏｋａｙａｍａ「春、リスターターの挑戦！」をＮＨＫプラスで見た。老舗の紳士服工場や備前焼の会社を訪ねて、それぞれが新しい取り組みを通じて再出発を図ろうと奮闘する姿や、伝統に裏付けられた高度な技術を後世に伝えようと取り組む姿が丁寧に取材されており、強い関心を持って見ることができた。コロナ禍が続き後ろ向きの風潮も感じられる中、岡山県の誇るものづくりにかける意気込みがＮＨＫプラスを通じて全国に発信できるのは、大きな意義があると思う。

（ＮＨＫ側）

岡山県の誇る伝統的なものづくりの現場における新しい取り組みを、ＮＨＫプラスを通じて全国に発信することができた。今後も地域に密着した取材を続け、広く発信していきたい。

○　４月２２日（金）@ｏｋａｙａｍａ「春、リスターターの挑戦！」を見た。活動の拠点であるアイドルカフェの存続に向けて奮闘する女性たちを紹介し、そのうちの二人が自らの事情や思いを伝えつつ、再出発を図ろうと取り組む人々を取材するという構成で、面白くは感じたものの情報量が多く集中して見ることが難しかった。再出発に向けて努力する人々をそれぞれ丁寧に取材し、個々に紹介す

る構成のほうが見やすかったと思う。備前焼で商品にならなかったもののかけらを新たな食器に再生する取り組みは、持続可能な社会を作り出すうえで意義のあるもので、継続して取材をすると新たな番組につながるような気がした。

○　４月２２日（金）@ｏｋａｙａｍａ「春、リスターターの挑戦！」を見た。活動の拠点であるアイドルカフェを存続させようと努力する女性たちの様子や、それを見て元気づけられ、彼女らを支えようとするファンの姿に感動を覚え思わず涙した。しかし、番組の中盤から、再出発を図る人々を彼女らが訪ねて取材する構成に変わり、画面からはアイドルがインタビューを代行している様子にしか見えないことに大きな違和感を覚え、せっかくの感動も薄れてしまった。

（ＮＨＫ側）

若い方に共感をもって見てもらおうと考え、地域に根差してアイドル活動に取り組む女性に聞き手を務めてもらった。番組の構成に関する意見は制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていく。

○　４月２２日（金）「さんいんスペシャル それぞれの“挑戦”～島根スサノオマジック 戦いの記録～」（総合 19:30～19:55 島根県域）を見た。テンポのよい番組展開で臨場感があり、楽しく見ることができた。競技の特徴に関する解説やチャンピオンシップ初出場までの道のり、選手の苦闘の様子などが紹介されており、バスケットボールに詳しくない視聴者も楽しめるような構成だった。主力の２選手の紹介にとどまらず、今後活躍が期待される他の選手についてもぜひ取り上げてほしい。「琉球ゴールデンキングス」とのチャンピオンシップでの対戦が待ち遠しく感じられた。

（ＮＨＫ側）

スポーツ番組に長年携わってきたディレクターが、工夫を凝らして制作した。これからもチームや各選手を継続して取材していきたい。

○　　４月１８日（月）～２２日（金）情報維新！やまぐち「岩国・和木・周防大島ウイーク」と４月２３日（土）「岩国・和木・周防大島ウイーク　アーカイブス集中編成」（総合 8:15～9:58 ほか 山口県域）を見た。県内の特定の地域に焦点を当てて取り上げたことはこれまでになく、よい取り組みだと感じた。例えば山口県の東部を取り上げる際は、比較的有名な周防大島の話題が多くを占めるような印象がある。今後このような取り組みを行うときは、普段はあまり取り上げられることが少ない中山間地域を掘り下げて取材し、そこの話題を紹介してみてはどうか。

○　　４月１８日（月）～２２日（金）情報維新！やまぐち「岩国・和木・周防大島ウイーク」を見た。全体として周防大島に関する情報が多い印象を受けたものの、食べ物や美しい景色などの話題に偏ることなく、多岐にわたる情報がテンポよく紹介されていてよかった。海の魅力や楽しみ方を紹介する一方で、危険性やいざというときの救命方法についても触れている点に好感がもてた。周防大島からの放送回で、出演者がみなアロハシャツを着ていたものの、防寒のためか途中からカーディガンを羽織った方もいて服装の統一感がなくなってしまった。あらかじめアロハシャツに合うジャケットを用意して全体的なコーディネートを整えておけば、より華やかな印象になったと思う。

（ＮＨＫ側）

周防大島から放送した日は雨が降り、予想以上に冷え込んでしまった。１１月に「関門ウイーク」の実施を検討しており、衣装や地域バランスなどについて頂いた意見を制作現場と共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　　４月２３日（土）「岩国・和木・周防大島ウイーク　アーカイブス集中編成」で、2019 年に本放送された「Ｙスペ！島が導いてくれたわが道～サッカー元日本代表・岩政大樹～」（総合 8:40～9:05 山口県域）を見た。周防大島で少年時代を過ごした彼が限られた島の環境を次々と克服し成長していく様子や、彼を見守

る人々の存在が頼もしく、それが島の魅力につながっていると感じた。高齢化や過疎化が進む地域に暮らす青少年の歩み方の指針になり得る貴重な番組で、この機会に再放送してよかったと思う。

（ＮＨＫ側）

ある地域に焦点を当てて取り上げる取り組みの中で、その地域を取り上げた過去の番組についてもアンコール放送することにした。こうした地域に密着した放送や編成を今後も続けていきたい。

○　４月２８日（木）「いろ★ドリ」内の特集「精鋭“命を探す”災害救助犬　エルザ」を見た。この企画のタイトルの字幕スーパーにはいまも「精鋭 Say Yeah!」とある。「Say Yeah!」の部分は「せいえい」とは発音しないことや、意味も「精鋭」ということばと関連性がないことを以前の審議会でも伝えたが、この点についてその後どのように考えているのか。今回、災害救助犬を「精鋭」として紹介していたが、梯子を上る訓練では犬が怖がって上手に上れない様子も紹介されるなど、「精鋭」の名にふさわしくない印象を受けた。また、訓練士の方も犬のことをほめてはいたものの、「精鋭」ということばに少しおこがましさを感じていたようにも見受けられ、「精鋭」ということばが求める基準が少し高いようにも感じている。

（ＮＨＫ側）

タイトルについては、２０２１年７月２日(金)放送の「さんいんスペシャル」で「精鋭」特集を放送した際にダジャレ風に読んで用いたことがあったが、指摘を頂いてからはそのように用いておらず、「いろ★ドリ」内の企画のタイトルのロゴだけに用いている。視聴者の関心を引きつけるようなタイトルにしたいと考えていたことと、このシリーズが定着してきていることも踏まえ、継続して使用してきた。犬にとってはしごを上るのは非常に難しい行為で、さっそうとした様子ではなかったもののはしごを上りきることができ、救助犬とし

て一定のレベルに達していることを紹介した。「精鋭」ということばが求めているものや「Say Yeah!」の使い方について、頂いた意見を制作現場とも共有し、引き続き検討を進めていきたい。

○　５月１２日（木）「しまねっとＮＥＷＳ６１０」内の特集「木次線１８駅の物語 木次駅」を見た。利用者が非常に少ないとされる木次線を舞台にした演劇を市民劇団が上演するというもので、木次線やその沿線にまつわるエピソード通じて、本当の豊かさとは何かを地域ぐるみで考える様子が印象に残った。

（ＮＨＫ側）

「木次線１８駅の物語」は開局９０年を記念したプロジェクトの一環で、年間を通して木次線全１８駅を取材し伝えていくことにしている。

○　５月１３日（金）「お好みワイドひろしま」を見た。ＥＵのシャルル・ミシェル大統領が来広したことを冒頭から長く伝えたことで、このニュースの重要性が視聴者に伝わったと思う。ただ、６月に初めての締約国会議が開催される予定の核兵器禁止条約にも触れるべきだったように思った。次の項目に移る際、スタジオに設置したモニターにはウクライナへの医療支援に関するニュース映像が出ていたのに、アナウンサーが広島カープの話題に移ろうとした。進行の手違いだとは思うが、何とも言えない違和感を覚えた。いくつもの災害現場を経て改良が重ねられた実用的なカルテを用いてウクライナへの医療支援につなげていくというニュースで、広島大学大学院の久保達彦教授が先頭に立って取り組んでいることを知り、悲しいニュースが続く中でも広島県にゆかりのある人が活躍し、それを地元の放送を通じて知ることができるのはとてもよかった。

（ＮＨＫ側）

核兵器禁止条約の初の締約国会議については、広島局から取材班をウイーンに派遣し、現地で取材した内容をしっかりとお伝えしていく。進行の手違いについて、再発防止に向けて取り組んでいく。地域にゆ

かりのある方が、日本で得た知見を生かして広く活躍する姿を今後も取り上げていきたい。

○　５月１３日（金）コネクト「古くて新しい！魅惑の島ぐらし　～小さな島に住んでみた～」を見た。自ら命を絶つ人が年間で２万人を超える状況が続き、社会へ貢献しなければ価値がないように思われるような風潮も感じられる中、島で暮らす穏やかに日々を映し出すことで、豊かさや生き方について考え直すきっかけとなるよい番組だった。一方で、生きていくうえで欠かせない、働き口や生活費、住居などの情報や、島で暮らすことはそう簡単ではないという現実もより丁寧に伝えるべきだったように感じた。番組の冒頭で島根県の海士町のことに触れていて、関心もあったので期待して待っていたものの、結局取り上げられなかったのは非常に残念だった。４月１５日（金）コネクト「人生迷ってＯＫ！家賃０円シェアハウス～尾道・生口島～」の内容とも通じる多様な生き方を伝えるよい番組で、島での暮らしを取り上げる番組をシリーズ化していくのかと感じた。

（ＮＨＫ側）

今のところシリーズ化の予定はない。島で暮らすことの現実や番組の構成について、それぞれ頂いた意見を今後の番組制作に生かしていきたい。

○　５月１３日（金）コネクト「古くて新しい！魅惑の島ぐらし　～小さな島に住んでみた～」を見た。広島県の生野島に暮らす祖父母のもとで、ディレクターが一緒に生活しながら二人への取材と撮影を行うというＮＨＫではあまり見かけない制作手法を用いていた。映像には手振れや画質の粗さがあったものの、祖父母の自然な表情や振る舞いや家庭的なくつろいだ雰囲気までもが記録できていてよかったと思う。このＶＴＲをスタジオで紹介している際、小野文惠アナウンサーらの掛け合いに反応した制作スタッフらの笑い声も収録されていたのは新鮮だったが、演出の一環であるようにも感じた。小野アナウンサーの進行が見事で、若いレギュラーゲストをうまく導きつつ番組をまとめていく様子は見ていて感心し

た。今回、生野島のパートに加えてもう１つの取材内容を加えた２つの要素で番組を構成していたが、生野島の話題だけに焦点を絞って制作をしてもよかったように感じた。

（ＮＨＫ側）

収録の過程で制作スタッフの笑い声も収録されていたのは、演出ではなく自然発生的なものだった。生野島で行った取材をもとに、５月３０日（月）「ドキュメント２０ｍｉｎ.」を制作しているので、ぜひご覧いただきたい。

○　５月１３日（金）コネクト「古くて新しい！魅惑の島ぐらし　～小さな島に住んでみた～」を見た。島で暮らす際のよい面とそうでない面の両方を、実際に島で生活している人々や島に移り住んできた方々の声をもとに伝えているところがよかった。移住者を受け入れる自治体に求められる取り組みや解決すべき課題についても考えさせられた。ＶＴＲに登場した人々のさまざまな生き方や考え方を受けた小野アナウンサーのコメントがとても心に響き、共感をもって見ることができた。女性のレギュラーゲストのコメントがまだこなれてないようで、今後の成長を期待している。

○　５月１３日（金）コネクト「古くて新しい！魅惑の島ぐらし　～小さな島に住んでみた～」を見た。孫であるディレクターが一緒に暮らしつつ祖父母を取材していたため、二人の自然な表情や裏表のないことばが記録されていてとても楽しく見ることができた。二人が島で生き生きと暮らしている様子を見て、定年後の人生を考えていくうえで本当に必要なものや、便利さとは何かを考えるきっかけにもなった。若い世代を意識して制作したのかもしれないが、４０代や５０代の視聴者にも伝わるものがあったと思う。実際に島で暮らす人々のコメントを通じて、島で生活する際の長所と短所を紹介していたのもよかった。一方、字幕スーパーの字体で凝ったデザインのものは少し読みづらかった。また、たくさんの人が暮らしていた頃の生野島の人口や当時の様子も知りたいと思った。祖父母の様

子や暮らしぶりの移ろいなどが気になるので、ぜひ定期的に取材を続けてほしい。

（ＮＨＫ側）

島しょ部で過疎化や高齢化がかなり進行している実態を描こうと考え、この番組を制作した。中国地方の島々での取材は今後も多角的に行うことにしている。頂いた意見を現場に伝え、今後の番組制作に生かしていく。

○　５月１３日（金）コネクト「古くて新しい！魅惑の島ぐらし　～小さな島に住んでみた～」を見た。生野島に暮らす祖父母の普段の会話の様子が、実生活に根ざした飾り気のないもので楽しく見られた。沖家室島に暮らす男性はまだ３０代であるものの、定年後の人生を考え移住を決断したとの思いは共感をもって見ることができた。小野アナウンサーの放つ雰囲気や感情の表現方法がとても洗練されており、見ていてとても心地がよい。ＮＨＫのアナウンサーといえばなるべく感情を込めずに物事を伝えている印象を抱いていたが、近年は変化してきたのかどうかを伺いたい。

（ＮＨＫ側）

番組の内容にもよるが、そのときの状況や雰囲気をわきまえたうえで、視聴者にきちんと伝わることを念頭に個性や持ち味を生かすよう指導している。

○　５月１３日（金）コネクト「ライバル物語　デニム編　～岡山ＶＳ広島～」（総合 19:30～19:55 岡山県域）を見た。両県の対決がテーマであっただけに、両県から出身者を招いて互いにプレゼンテーションするような構成にした方が面白かったように思う。またスタジオのレギュラーゲストの二人はともにデニム産業に詳しくないためか初めて聞くような反応が目立ち、見ていて少し単調な印象を受けた。

（ＮＨＫ側）

二人はともに広島県出身で、今後こういったテーマで制作するときは、レギュラーゲストに加えて両県の出身者を起用するという意見も参考にしたい。頂いた意見は制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　５月１４日（土）Ｊリーグ２０２２「ヴァンフォーレ甲府」対「レノファ山口ＦＣ」(総合 13:50～16:00 山口県域)を見た。試合展開について甲府側から見ているようなコメントが続いた。普段の中継と違う気がして少し違和感を覚えたものの、途中で甲府局が制作していることに気づき、いつもと違った視点による試合中継として楽しく見ることができた。

（ＮＨＫ側）

甲府局がこの試合を中継すると聞き、その映像と音声を使って山口局でも試合の模様を生放送した。６月１２日（日）にホームゲームの中継を予定しているので、ぜひご覧いただきたい。

○　「お好みワイドひろしま」と「コネクト」は、それぞれロゴの字体やデザインが似ているが、この２つの番組の関係性や、取り上げる題材を融通しあうこともあるのかといった点が気になっている。

（ＮＨＫ側）

それぞれの制作に携わるグループは異なるものの、お互いが協力して制作に取り組んでいる。「お好みワイドひろしま」のシリーズ企画を「コネクト」に展開したり、「コネクト」で伝えきれなかったものを「お好みワイドひろしま」で取り上げたりするなど、それぞれの番組の特性に応じて対応している。

○　　「しまねっとＮＥＷＳ６１０」を見ている。先日新茶の話題を取り上げていたが、旬のものを見聞きすると季節をより身近に感じることができるので、とてもありがたいと感じている。

（ＮＨＫ側）

旬の話題について、引き続き取り上げていきたい。

○　　「情報維新！やまぐち」を見ている。特に「フォーカス」と「イチ押し！支局発」のコーナーを毎回楽しみにしている。アナウンサーやキャスターが視聴者の立場に立って質問を投げかけ、一線で取材している記者がそれらに答えていく形式で非常に分かりやすい。出演する記者の話し方もこなれてきて、聞き取りやすくなったように感じる。阿武町の給付金誤振込の事件についても「フォーカス」で経緯を詳しく解説していたので、推移を注視している。「きょうも１分間、深呼吸。」のコーナーは、見ていて落ち着く感じがしてよい。山口局が新しいことに取り組もうとする雰囲気を感じる。

○　「情報維新！やまぐち」を見ている。阿武町の給付金誤振込の事件ついて、公金を取り扱う自治体の姿勢について疑問を感じており、容疑者や振り込みの処理を行った役場の担当者だけに焦点を当てるのではなく、誤操作が起きてしまった原因の究明と、今後に向けた改善につながるような取材をお願いしたい。

（ＮＨＫ側）

「情報維新！やまぐち」について、頂いた意見を制作現場に伝え、今後の番組作りに生かしていく。阿武町の給付金誤振込の事件について、しっかりと取材を進め事実に基づき正確に伝えていきたい。

○　　ツイッター社が買収されるのではないかという報道があるが、買収された後も「あのときを取材中＠山陰山陽放送局」ではツイッターを使用し続けるのか。

（ＮＨＫ側）

「あのときを取材中＠山陰山陽放送局」は３月末で放送と発信に一区切りつけたため、当該のアカウントから新たに投稿する予定は今のところない。

○　５月１２日（木）ＳＯＮＧＳ「Ｍｒ．Ｃｈｉｌｄｒｅｎ」、５月１５日（日）「ＮＨＫスペシャル選 平成史スクープドキュメント（４）　安室奈美恵　最後の告白」（総合 0:25～1:14）を見た。Ｍｒ．Ｃｈｉｌｄｒｅｎの各メンバーが語る貴重なインタビュー映像を収めたり、歌手の安室奈美恵さんの引退直前のことばを聞き出したりするなど、著名なアーティストが本音を語る場としてＮＨＫを選んでいる。これはＮＨＫがこれまで築いてきた自らの価値に加え、インタビュアーをきちんと育ててきたからだと感じていて、今後も視聴者の期待に応えられるよう後進の育成を続けてほしい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局

２０２２年４月ＮＨＫ中国地方放送番組審議会

４月のＮＨＫ中国地方放送番組審議会は、２１日（木）、広島放送局において１２人の委員が出席して開かれた。

会議では、まず、放送番組一般について活発に意見交換を行った。続いて、放送番組モニター報告と視聴者意向報告、５月の番組編成の説明が行われ、会議を終了した。

（出席委員）

委 員 長	小嶋ひろみ	（夢二郷土美術館　館長代理）
副委員長	松本　協一	（双湖事業化計画合同会社　代表社員）
委　　員	安彦恵里香	（Ｓｏｃｉａｌ　Ｂｏｏｋ　Ｃａｆｅハチドリ舎　店主）
	伊澤　大介	（有限会社森の国　代表取締役社長）
	笠原　　浩	（広島市立大学　芸術学部デザイン工芸学科　教授）
	河本　清順	（ＮＰＯ法人　シネマ尾道　代表理事）
	原田　尚美	（やまぐちシードル　代表）
	平野真里香	（有限会社平野屋　営業本部長）
	福安　佳子	（鳥取大学　非常勤講師）
	松浦奈津子	（株式会社Ａｒｃｈｉｓ　代表取締役社長）
	宮﨑　智三	（中国新聞社　論説主幹）
	薬師寺明子	（美作大学　生活科学部社会福祉学科　准教授）

（主な発言）

＜放送番組一般について＞

○　３月１０日(木)「いろ★ドリ」の特集「鳥取で“週１副社長”」を見た。鳥取県立ハローワークが仲介し、都市部で働く人材と鳥取県内の企業とをオンライン等で結びつける取り組みで、この枠組みを事業展開に生かそうしている企業の様子や、自らの能力や興味関心を生かして社会に還元できているという応募者のやりがいが語られるなど、双方にとっての利点がうまくまとめられていた。一方、この取り組みの仕組みは少々複雑な面もあるので、図を用いて解説すれば視聴者の理解がより進んだのではないか。また、県内で知名度の高い企業での事例を取り上げていたが、この仕組みの利用の有無にかかわらずこの企業は成長していくようにも感じられ、

例えば零細企業での活用事例を紹介していればより具体性を持って視聴者の共感を呼べたように思う。今回は企業側の動きを紹介していたが、応募者の動機や取り組みにかける思いなどを深掘りするとよりおもしろくなると思った。こういった取り組みは魅力的で将来性が感じられるものであり、働き方や生きがいなどを考えるきっかけにもなると思うので、続編に期待している。

（ＮＨＫ側）

図を用いて分かりやすく解説することや、企業の特徴の考慮、応募者側の視点など、頂いた意見を参考に今後の番組制作に生かしていく。鳥取県の経済を取り上げた企画についても力を入れていきたい。

○　３月１８日(金)@ｏｋａｙａｍａ「あつまれ！防災 フレンズ２」を見た。防災を身近に感じてもらおうと気軽に見ることができる構成になっていたうえ、分かりやすく必要な情報が凝縮されていてよかった。双方向機能を用いたクイズを通じて防災を考えるきっかけとしていたのはよかったが、避難スイッチの紹介に重点を置いていたので、例えば緊急連絡先の共有といった実際に即した備えや、ご近所づきあいをはじめとした地域ぐるみで考える防災などについても触れたほうがよかったと感じた。防災への備えに工夫を凝らす家庭の事例紹介は非常に参考になったように思う。避難している際にも簡単に作ることができる料理については、短時間だったためか作り方の解説にもの足りなさを感じたので、図やスーパーを用いて補足すればより分かりやすかったと思う。

（ＮＨＫ側）

防災について、親しみやすく身近に感じられる構成で、知恵や工夫を視聴者に伝えようと考えて制作した。頂いた意見は制作現場とも共有し、今後の番組作りに生かしていきたい。

○　３月１８日(金) ＮＨＫ松江放送局開局９０年記念番組「島根タイムトラベル」(総合　19:30～20:14　島根県域)を見た。出雲大社の本殿の天井に八雲之図が描かれていることは知っていたが実物を見たことはなく、映像に残っているのを見て驚

いた。出雲地方の話題が多かったように感じたので、例えば島根県を出雲、石見、隠岐と３つの地域に分けて制作しそれぞれ放送すれば視聴者の共感が高まると思った。ゲストが石見地方出身でお笑いコンビ・ニッチェの江上敬子さんで、出雲地方出身の方も招いたほうがよかったように感じた。進行を務めるアナウンサーが手元の台本へ視線を向けるしぐさが気になった。資料映像を用いて制作していたので、改めてＮＨＫアーカイブスについて調べたところ、教育現場での活用などその充実ぶりに驚いた。映像の二次使用を事業にできると可能性が広がるようにも思うが、地域局も含めたアーカイブ利用の状況について聞きたい。

（ＮＨＫ側）

貴重な映像が残っていたことに対する反響や次回への期待の声が寄せられており、機会があればこういった番組の制作も検討したい。今秋に島根県西部を訪ねて現地から地域番組の放送ができないか検討しているので、石見地方を取り上げたアーカイブス番組の放送もあわせて検討したい。ゲストの起用については地域性も含め幅広く検討したが、スケジュールの調整がつかなかった。指摘のあったしぐさについて制作現場とも共有する。番組の二次利用などは、本部をはじめ関連会社を窓口として実施している。

○　３月１８日(金)Ｙスペ！開局８０年特別番組「ハチマキＴＶ　２０２２春ー今、思うこと。ー」(総合 19:30～20:42 山口県域)を見た。コロナ禍で人とふれあう機会が限られていたこともあり、個室を備えた番組特製のトラックを仕立てて県内各地を訪ね、行く先々で一人一人の思いを聞くという企画の趣旨は時宜を得ていた。出演した方々は何かしらコロナの影響を受けつつも、この状況を乗り切ろうと努力している様子がとても印象的だった。萩市のある道の駅が地域の飲食店や酒造会社と連携して商品開発を行う様子はとても興味深く見ることができたものの、全体的に萩市の特集部分が長かったように感じ、またＰＲ色が強かったような印象も受けた。道の駅の関係者が運転しながら話すシーンがあったが、身振り手振りが大きく、安全性は保たれているのかと不安に感じた。

○　３月１８日(金)Ｙスペ！開局８０年特別番組「ハチマキＴＶ　２０２２春ー今、

思うこと。ー」を見た。個室を備えた番組特製のトラックで、地域の人々がコロナ禍ゆえの悩みを赤裸々に明かしており、共感を覚える部分が多々あった。ただ、悩みを打ち明ける場面がしばらく続いたためか間延びした感もあり、見ていて少し暗い気持ちになった。一方、萩市の特集はテンポよく展開されており、街の魅力や一体感がよく伝わってきて楽しく見ることができた。エンドロールに出演者全員の名前を表示していたが、視聴者にとってＮＨＫの番組に出演したり名前が出たりすることは珍しく、山口県を応援するという番組の趣旨に合致していることもあり、よい演出方法だと思った。

（ＮＨＫ側）

地域局の役割は地域の声を地域の方々に伝えることにあると考えており、そのことが山口県の方々の元気につながると考え今回の番組を企画した。トラックで県内各地を訪ねて地域の人々の思いを聞くという演出方法を開局８０年の記念の年であった昨年度に通年で展開できていれば、より厚みを帯びた番組になっていたように思う。頂いた意見は制作現場と共有し今後の取材や番組作りに生かしていく。

○　３月２１日(月)「あなたの知らない世界のグルメ」(総合 12:25～12:50 中国地方)を見た。さまざまな出身の方々がそれぞれ郷土の料理を紹介する際のコメントが多彩で興味深く、各国の料理を通じて語られるエピソードをもっと聞きたいと感じたので、今後もこうした番組の制作を希望する。

（ＮＨＫ側）

「ひるまえ直送便」で毎月１～２回程度放送してきた企画の中から選んで特集番組として放送した。この企画は今年度も引き続き毎月１回程放送する予定なので、ぜひご覧いただきたい。

○　３月２５日(金)ラウンドちゅうごく「“蔵人ダイバーシティー”で世界へ　女性杜氏の挑戦」(総合 19:30～19:55 広島県域)を見た。ＮＨＫの番組は、一つのテーマに対して数人に取材して構成するものが多いという印象を持っているが、今回は杜氏の今田美穂さん一人に絞って取材を進め、多様性に向き合う企業の在り方を丁寧に描いた非常に分かりやすい構成だった。彼女のことばやふるまいを通して番組のテーマについて視聴者に考えてもらう形をとった点が評価できる。映像も非常に美しく、撮影や映像の処理に力を入れたことがうかがえた。新番組「コネクト」について、若い視聴者を意識した番組作りに期待している。

（ＮＨＫ側）

杜氏として世界を舞台に活躍する今田さんや、外国出身の従業員が販路拡大に努めている多様性に富んだこの酒蔵にほれ込んだディレクターが制作した。映像取材のカメラマンが限られた空間での撮影方法に工夫を凝らすなどして美しい映像に仕上げることができた。「コネクト」が若い層にしっかり届く番組になるよう、力を入れていく。

○　４月１日(金)　さんいんスペシャル「ふらっとあの街　旅ラン１０キロ～松江　水の都ラン～」を見た。松江の名所がいくつも登場し、塩見縄手と呼ばれる地域に武家屋敷が並ぶ様子を映しながらも、「塩見縄手」ということばを用いずに紹介していたことに少し違和感を覚えた。

（ＮＨＫ側）

「塩見縄手」という呼び方が全国の視聴者にとって分かりづらいかもしれないと考え「武家屋敷」という表現にしていたと思うが、頂いた意見を制作担当者に伝える。

○　４月８日(金)コネクト「ウクライナ侵攻　いま私たちにできること」(総合 19:33～19:58 中国地方)を見た。俳優の永瀬莉子さんと俳優のゆうたろうさんは多様性を感じる人選で、小野文惠アナウンサーの存在で　説得力も与えつつ、全体として若い視聴者層の獲得を意識していることが伝わ

ってきた。番組は、ウクライナ出身で広島県に住む人々の思いを紹介していたほか、ロシア出身者への差別につながらないような番組作りをしていたのもよかった。番組では、日本もアメリカの核兵器を共同使用するべきという声が出てきたことへの若者たちの揺れ動く様子が描かれており、こうした議論が世論に及ぼす影響と、対話の重要性が分かるよい内容だったと感じた。

○　４月８日(金)コネクト「ウクライナ侵攻　いま私たちにできること」を見た。「ラウンドちゅうごく」からタイトルや出演者、セットが一新され、新番組に力を入れている様子が伝わってきた。ファミリー層に幅広い支持を得る小野文惠アナウンサーと二人の若い出演者という陣容から、若い世代へ「コネクト」することを目指す意欲を感じる。また、鳥取県在住のロシア出身の方も取り上げるなど、中国地方全体に「コネクト」しようという意気込みも表れていた。

○　４月８日(金)コネクト「ウクライナ侵攻　いま私たちにできること」を見た。番組後半で、ロシアのプーチン大統領がウクライナに対して核兵器の使用を示唆したと伝えていたが、その理由とされている彼の演説を２月２４日(木)「ワールドニュース」で聞いたが、そのような意図は感じられなかった。プーチン大統領のことばの逐語訳を試みたが、内容はロシアが核兵器を保有する超大国の一つであることや、ウクライナとの戦闘に至った経緯を説明した自国民へ向けたメッセージであって、核兵器の保有に触れることで自国への直接攻撃をけん制したものと受け取ることはできるものの、核兵器の使用を示唆したことにはつながらないと考える。「コネクト」は若年層を意識した番組作りを行っていると聞いており、先のプーチン大統領のことばをきちんと伝えていれば、若者が核抑止力としての核兵器の保有について考えるよい機会になったように感じた。

（ＮＨＫ側）

ロシアのプーチン大統領が核兵器の使用を示唆したと伝えたことについて、２月２７日にプーチン大統領が、核戦力を念頭に抑止力を特別警戒態勢に引き上げるよう命じたという報

道を踏まえて伝えた。今年は、核兵器禁止条約締約国会議や核拡散防止条約再検討会議が開催されることもあり、広島局ではこれらの関連番組をはじめ核兵器や平和について考える特集番組の制作を予定している。これまでも日本がアメリカの核の傘に入っていることや、核兵器禁止条約に批准していない点などについても報じてきており、今後もこうした問題について多角的に伝えていく。

○　４月９日(土) ＮＨＫ松江　名作アルバム「わくわく授業～わたしの教え方“恋心を三十一文字に～桔梗亜紀先生の国語～”」(総合　8:15～9:00 島根県域)を見た。小学校や中学校、高校の教員やその教員を目指す大学生、また大学を運営する方々に向けたセミナーなどでの教材にもなり得るすばらしい内容だった。中学生に恋愛を題材に短歌を作るという授業を展開していて、授業の内容や進め方、構成も興味深かった。字幕で適宜内容を補足していたこともあり、先生の魅力や生徒たちの楽しんでいる様子がよく伝わってきた。2006 年に放送された番組だったので、現在の桔梗先生を訪ねてユニークな授業を行うことになった経緯などを取材してほしい。

（ＮＨＫ側）

開局９０年を記念したアーカイブス編成の一つで、３月と４月は“島根のこどもたち”と題して放送した。表現することに苦手意識を持つ子どもたちに、ことばを使いこなすおもしろさを感じるきっかけを与えたいという授業を取り上げた、とても温かみのある内容の番組だった。現在の桔梗先生への取材もぜひ検討したい。

○　４月１５日(金)コネクト「人生迷ってＯＫ！家賃０円シェハウス～尾道・生口島～」(総合 19:30～19:55 広島県域)を見た。新卒で就職することが当然の生き方だと思い込む若者たちに、既成概念を疑う機会を与えることができたよい番組だった。世間の考え方とは違った生き方であっても、生きていくことそのものが何より重要だというメッセージをＮＨＫが番組を通じて伝えたことに意義があったと感じる。

○　４月１５日(金)コネクト「人生迷ってＯＫ！家賃０円シェハウス～尾道・生口島～」を見た。尾道が取り上げられることと、新番組「コネクト」を楽しみにしていた。番組ではシェアハウスに暮らす二人の若者を中心に構成していたが、この施設の企画運営者を中心に取り上げ、施設の意義などについて深掘りすればより興味深い番組になったように感じた。新番組「コネクト」について、若者が気軽に見ることのできる構成になっていて、特に若い出演者二人の成長と今後の活躍に期待している。小野文惠アナウンサーの存在は番組に安定感を与えており、世代間の分断をつなぐことについてきちんと説明していたことに好感を抱いた。

（ＮＨＫ側）

多様な生き方や考え方があることや、シェアハウスに住む若者と彼らを支える島の人々のつながりを描いた。施設の企画運営者の方については、先方の体調についてご相談しながら慎重に取材を進めた。

○　４月１５日(金)コネクト「人生迷ってＯＫ！家賃０円シェハウス～尾道・生口島～」を見た。悩める若者と聞いてありふれた内容に終始するのかと思ったが、シェアハウスに若者が楽しそうに暮らす様子や、カメラがあっても自然体でふるまう様子を見て、取材者と取材相手の間に信頼関係が構築できているのが伝わってきた。シェアハウスを立ち上げた経緯が気になるので、今後ぜひ掘り下げて取材してほしい。また、入居者の知人として紹介された植物の研究をしている方もユニークで、ぜひ継続して取材をしてほしい。勇気をもってこのシェアハウスにたどり着くことができた人がいる一方で、それができない人々に対してはどういった支援ができるかも考える必要があり、別に機会を設けてぜひ取り上げてほしい。シェアハウスの住人がタロット占いにいそしむ姿が描かれていたが、番組でのその位置づけがよく分からず違和感を覚えた。新番組「コネクト」は若者向けの番組という明確なコンセプトを持って、さまざまなテーマに取り組んでもらいたい。

（ＮＨＫ側）

入居者を支える生口島の人々は魅力的で個性に富んだ方も多く、今後も取材を続けていきたい。タロット占いについては、シェアハウスの住人が熱中しているものの一つとして短く紹介した。頂いた意見を踏まえ、今後の番組作りに生かしていく。

○　４月１５日(金)@ｏｋａｙａｍａ「瀬戸芸を旅して」を見た。海や太陽の光が輝いている景色や瀬戸内の島々の美しさがゆったりと描かれているのがとても印象的で、島に暮らす人々へのインタビューもあり、芸術にあまり関心のない方でも見やすい番組構成になっていたように思う。全国に向けて放送すれば、美しい風景と地元の人々の会話の様子から、癒やしや旅行気分が味わえて喜ばれるかもしれない。一方で、作品を詳しく見たい視聴者にとってはもの足りなさを感じる内容で、もう少し作品の紹介があってもよかったと感じた。開催中は芸術祭に注目が集まるが、会場となる地域の周辺のアートや美術館についての紹介があれば、地域に根差した文化や芸術にまで人々の興味関心を広げるきっかけになると感じた。こうしたアートや芸術に関する番組の制作を今後も希望する。

（ＮＨＫ側）

「世界ふれあい街歩き」のようにカメラスタビライザーという揺れを軽減する装置を用いてゆったり撮影し、土地の風土や人々を通じて芸術祭の舞台となる島々を紹介しようと企画した。高松局とともに瀬戸内国際芸術祭に関する番組を制作していく予定で、頂いた意見を今後の番組作りに生かしていきたい。また、これらの番組はＮＨＫプラスでも配信して全国の方々に見ていただけるようにする。今後も地域の文化や芸術を取り上げた番組作りに努めていく。

○　４月１６日(土)さんいんスペシャル「うまいッ！“うまみ凝縮！干物日本一！“どんちっちカレイ”～浜田市～”」(総合　7:30～7:53　島根県域)を見た。浜田市は転勤等で転入されて来る方も少なくなく、４月という新生活が始まるタイミングで放送したことは時宜を得ており、市の魅力や街の

情報を広く伝えることができたように思う。カレイを用いた洋食の紹介もあり、親しみやすさやおいしさが視聴者によく伝わる内容だった。

（ＮＨＫ側）

今回は干物を中心に、一見地味には見えるが奥深い魅力を持つカレイを詳しく伝えることができた。番組編成について、今後も適切な時期に放送できるよう努めていく。

○　４月１８日(月)「情報維新！やまぐち」を見た。キャスターがスタジオを飛び出して岩国市から番組が始まったことや、出演者が一新されたこともあり、とても新鮮な印象を受けた。岩国市の老舗の紹介や和木町での地域おこしに向けた取り組みが紹介され、臨場感がひしひしと伝わってきた。

○　「情報維新！やまぐち」を見ている。キャスターが一新され、新鮮な雰囲気を感じている。今週は岩国市や周防大島を取り上げているが、山口県は地域ごとに特色があり、視聴者はそれぞれの地域に関心があるように思う。これまで特定の地域を集中的に取り上げる企画はなかったように思うので見ていてとても興味深く、この企画の展開を楽しみにしている。

（ＮＨＫ側）

今週は「和木・岩国・周防大島ウイーク」と題して３つの地域を訪ねて放送している。県内各地のなかからスポットを当てて取り上げることで視聴者の関心も高まると考えている。秋以降にもこうした企画を予定しているので楽しみにしていただきたい。

○　「お好みワイドひろしま」がＮＨＫプラスの見逃し配信で見られるようになったのはとてもうれしい。

○　「映像の世紀　バタフライエフェクト」を見ている。４月４日（月)「モハメド・アリ　勇気の連鎖」と、４月１８日（月)「ベルリンの壁崩壊　宰相メルケルの誕生」を見たが、豊富な映像資料をもとに歴史の厚みや取材の

深さが感じられるよい番組だと思う。今回のシリーズでも、見ごたえのある内容で引き続きＮＨＫらしさを発揮してもらいたい。

○　４月１０日(日)正午のニュースについて、ウクライナからの避難者のインタビューに付与した字幕を、ＮＨＫプラスの配信の際に修正したとのことだが、放送での字幕は避難者の本来のことばから大きく意味が変えられているように感じた。翻訳は、翻訳者が正確にことばを訳して伝えているという信頼を前提としており、本来の意味と異なる翻訳を行ったならば視聴者の信頼を裏切る行為で、調べて報告すべきだとも思う。なぜこういうことが起きたのか、知りたい。

（ＮＨＫ側）

指摘の内容については承知しているが、原因や経緯について改めて回答させていただく。

○　４月１７日(日)　ＮＨＫスペシャル「忘れられゆく戦場 ～ミャンマー泥沼の内戦～」を見た。ウクライナの動向に世間の関心が集まる中、内戦が泥沼化しているミャンマーの悲惨な現状を取り上げていて非常に意義があると感じたうえ、視聴者のメディアリテラシーを高めていくことにも効果があるように感じた。

○　ＢＳ１の「ワールドニュース」を見ているが、最近はロシアの放送局からのニュースがなくなっている。ウクライナの放送局からのニュースは放送のある日とない日がある。両国が放送している内容をそれぞれきちんと伝えることが大事だと考える。ＮＨＫには中立的な立場で世界情勢と向き合い、情報を伝えてほしい。

ＮＨＫ広島放送局
番組審議会事務局